

2013

亞細亞大学

テニス部

チームガイド
TEAM GUIDE



国際大会開催報告
CIRCUIT REPORT

Ever upward

ASIA

Japan Men Futures 2013

ITF Womens Circuit 2013

UNIVERSITY TENNIS TEAM



亞細亞大学
亞細亞大学短期大学部

武蔵野キャンパス 紹介

ここで勉強します!

最寄り駅はJR中央線の武蔵境駅です。基本的に授業は武蔵野キャンパスで行なわれます。学生に必要な設備はすべて整っており、勉強に関して困ることはあります。テニス部の場合、平日はここで授業を受けて、終了後、日の出キャンパスに移動して練習します。



3号館



1号



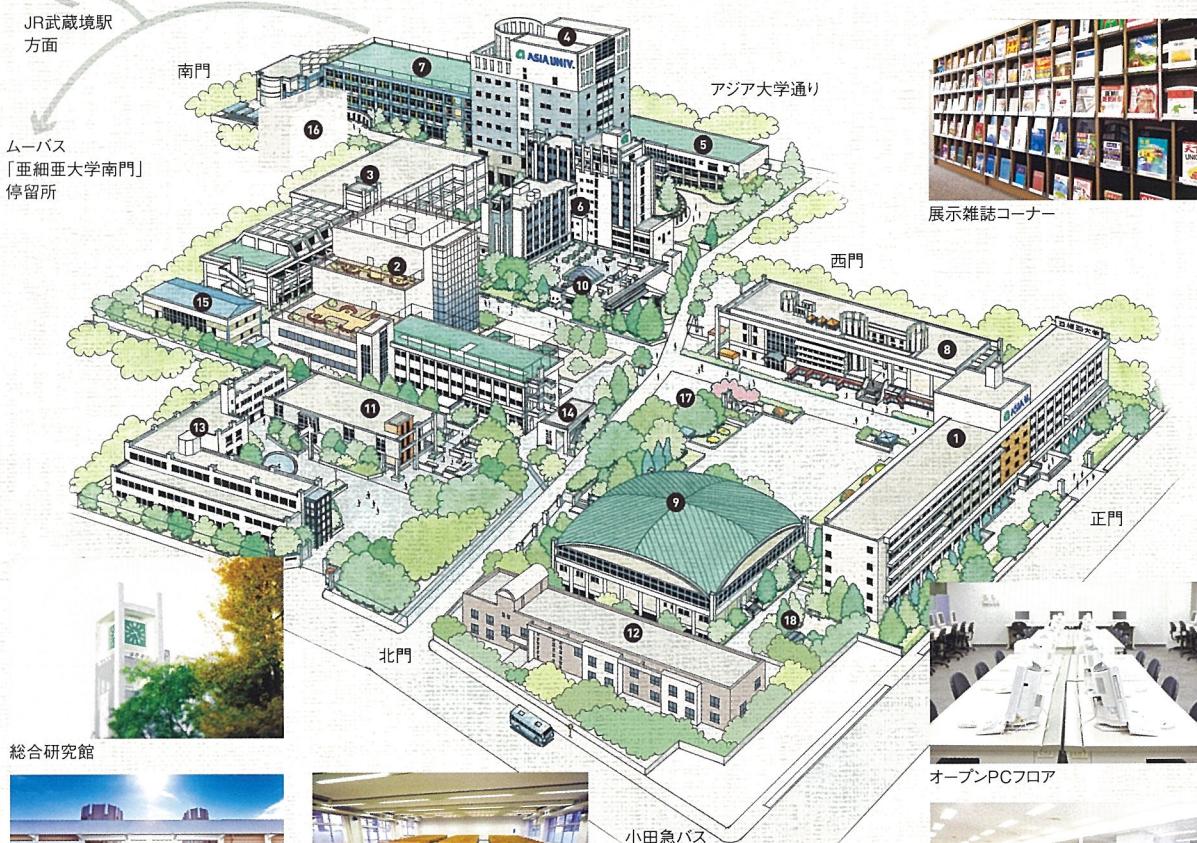
2号館



屋上庭園



太田耕造記念館(図書館)



総合研究館



8号館(国際交流会館)



5号館



乙亥年

式典場所まで

- ・武蔵境駅まで
 - ・「新宿駅」から約20分、「東京駅」から約35分(JR中央線利用)
 - ・「大宮駅」から約50分(JR中央線、埼京線利用)
 - 武蔵境駅からキャンパスまで
 - ・北口から徒歩12分
 - ・北口から小田急バス「境21」「団地上水端(団地入口経由)」で「亜細亞大学北」下車、徒歩1分
 - ・北口からムーバスで「境5丁目」または「亜細亞大学南門」下車、徒歩0分
 - ・西武新宿線「田無駅」北口から西武バス「武蔵境行」で
「武蔵境駅」(終点)下車、徒歩12分

日本テニスの育成には大きな課題があります。ひとつは18歳以上の強化です。多くのジュニアや高校生は、指導者や親とともに夢と希望をもってテニスに取り組んできています。テニスは決して18歳までに完成することができない、奥の深いスポーツですが、それを18歳以上でどのように磨くかが日本テニス最大のテーマのはずです。ということは、大学の役割は非常に大きく、特に重要なのが指導力です。選手が戦うだけでは身につかないもの、または、それ以上のものを大学が提供できなければ意味がありません。

次に重要なのが環境の強化です。関東の大学では春闘（関東学生）、夏闘、新進戦、リーグ戦と4つの大会のみです。全国大会はインカレ、インカレ・インドア、大学王座の3つの大会です。これらの大会は同世代だけが参加します。しかし、実は戦う相手はもっと別の世界にもいます。知っている人と戦うことよりも、まったく知らない人と戦うことがどれだけ人をワクワクさせるでしょうか。大学4年間であらゆる世代やレベルや地域を越えたテニスを体験し、挑むことほど、素晴らしいものはありません。自分が今までつくり上げたテニスを試す“最高ステージ”は、大学テニスの世界以外にもあるのです。

当然、「負け」や「失敗」が付きまとい、自分を見失うこともあることでしょう。しかし、「負け」を嫌い、「失敗」をたくさんしない学生が、いつどうやってそこから這い上がる精神を身につけることができるでしょうか。私は学生こそ

「失敗することが仕事」だと思っています。そこからしか創意工夫や独創性は生まれてきません。

能力があるにもかかわらず、挑戦を恐れ、安全で安定な道にすがっている精神のテニスには、困難を乗り越える力が備わりません。いつかラケットを置いたときに、就職したときに残るのは、テニスの技術や記録だけではなく、未知を乗り越えてきた精神力であってほしいのです。

私はその一環として、アメリカの大学との対抗戦、韓国体育大学との交流合宿を行なってきました。1月のオーストラリアン・オープン観戦では「これが本物」と感じることができます。そして、いまは春に男女の国際テニス大会（1万ドル）を学内で開催しています。学生主体のこの大会は、まさに選手しか経験のない学生たちに、テニスへの取り組み方から、技術、体力、精神力、戦術、歴史、経済、経営、哲学にいたるすべてを、外国選手やスポンサー、観客など、テニスにかかわる人々から学ばせてもらっています。国際大会は最高のコーチングになっているのです。

初めは国際大会レベルのパワーやスピードや意識の違いに弾き飛ばされていたものの、徐々にそれに近づくための行動が起こってきました。「機会」が学生を育てていることを実感します。国際大会という環境は学生に大学テニスに明け暮れる=守りの伝統を、攻める「機会」へと発展させていることは間違ひありません。

私は亜細亜大学に奉職して25年になりますが、冒頭の理想には残念ながらまだ到達しません。それでも、これまで

理想に向かっていっしょに闘った多くの学生たちや卒業生には感謝しています。永遠にチームは完成できないかもしれません。しかし、向上に悩める学生に出会ったときには、自分の未来を信じて戦う意思がある学生と出会ったときには、いっしょに青春時代を闘いたい。私は自らの可能性を信じる本気の選手を歓迎します。

テニスは18歳までには
決して完成しません。
自らの可能性を信じて
未来に向かって挑戦する
本気の選手を歓迎します。

堀内昌一

（亜細亜大学教授 / テニス部監督）



日の出キャンパス 紹介

ここがテニス部のホームです!

最寄り駅はJR五日市線「武蔵引田」駅です。ここにはテニスコートをはじめ、野球場、サッカー場、陸上トラックなど、スポーツ関係の研究施設があります。屋外競技のクラブは主にここで練習をします。



テニスコート

ハードコート8面と砂入り人工芝コート2面の合計10面のテニスコートがあります。面数が多いので、少人数で効率よく、充実した練習ができます(全面ナイター完備)。



トレーニングセンター

機材が整っており、学生はいつでも自由に利用することができます。夜遅くまで筋トレをしている学生もいます。トレーニングルームに隣接して鏡張りの大きな部屋があり、雨の日でもラダーなどのフィールドトレーニングを室内で行なうことができます。

クラブハウス

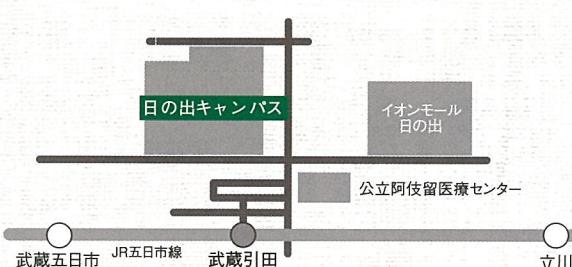
2010年に完成しました。男子部室、女子部室、監督・コーチ室のほか、ユーティリティがあります。ユーティリティでは、全体ミーティングを行なうほか、テレビやスライドを使って映像の確認や勉強会を行ないます。



セミナーハウス(宿泊施設)

テニス部は、12月の年末合宿、2、3月の強化合宿、国際大会開催期間などに利用します。また、他校の学生が練習に訪れているときに宿泊することもあります。施設内には大広間もあり、ミーティングや講義が行なわれます。

※学生2000円、ビジター3000円(朝夕食付)



アクセス

武蔵引田駅まで

- ・新宿駅から約90分、「東京駅」から約100分(JR中央線、青梅線、五日市線利用)
- ・大宮駅から約120分(JR埼京線、川越線、八高線、五日市線利用)
- ・武蔵引田駅から日の出キャンパス「亜細亜大学セミナーハウス」まで
- ・武蔵引田駅の改札口は北口1ヶ所、下車後、踏切まで戻り、北(左)に向かって徒歩7分

所在地

〒190-0182 東京都西多摩郡日の出町平井1466 TEL042-597-0714

『チ

ームとは車のようなものだと私は考えます。車は、アクセルやブレーキ、エンジンといった役割の異なる様々なパーツによって形成されており、どれか一つでも故障してしまうと走りに支障をきたしてしまいます。完成した車は運転手の操縦によって目的地への道を進むことができるのです。パーツとは、そのチームに所属する一人一人の個性と存在そのものです。それらが折り重なり、組み合わさり、チームというものが構築されているのです。そして、指導者や幹部が目標を示し、そこへの舵取りを行うことによって進むべき道をチームとして進むことができるのです。

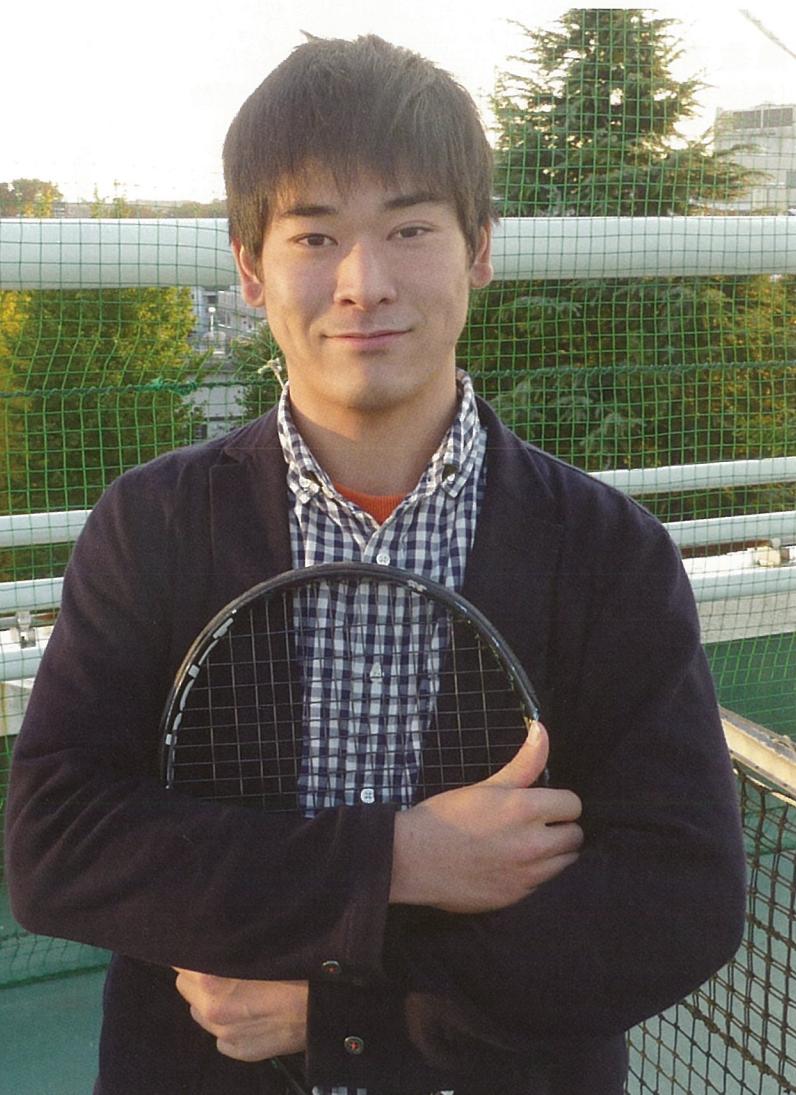
平成25年度の新チームが発足し、私が最初に行った主将としての役割は目標設定です。私は、「王座優勝」というチーム目標を掲げ、目標を設定する意図と合わせてチームメイトに伝えてきました。目標が存在しない状況を想像してみてください。自分たちが目指す場所が分からず、ただ闇雲に日々を過ごしていく、そんな情景が思い浮かぶのではないでしょうか。私は、目標とは道標であると同時に、そこへ向かって突き進む覚悟であると考えています。低い目標は、過程を疎かにする要因にもなりえます。だからこそ私は、チームの目標として頂点である王座優勝を掲げています。

大学の選択は、未来の自分への投資であると私は思います。今までの結果に悔しさを感じていませんか？今よりもっと強くなりたいと思いませんか？そのような気持ちを少しでも感じている人は、亜細亜大学に一度訪れてみてください。そこには、高い目標に向かって日々努力を重ねる最高の仲間と、私たちのことを第一に考え、行動してくださる最高の指導者が存在します。過去の結果を変えることはできません。しかし、今この瞬間の行動を変えることはできます。今、全力を尽くすことによって未来は変わります。もっとうまくなりたい、強くなりたいという向上心、あの選手には負けたくない、なにがなんでも勝ちたいという競争心、そして共に支えあい、励ましあえる仲間意識。これらの気持ちを強くする環境が亜細亜大学には存在します。

3年間の高校生活を過ごしてきた皆さんにとって、大学での4年間というものは少し長いように思えるかもしれません。しかし現実は、あっという間に過ぎ去ります。限られた大学生活を有意義に過ごすためにも、最高の出会いをするためにも、他では味わえない貴重な経験をするためにも、ぜひ亜細亜大学を選択してみてください。私たちは、高校生のみなさんの意志ある決意を待ち望んでいます。

変化は成長です。
変わることのできる環境が
ここには存在します。
野田雄希

(亜細亜大学硬式庭球部主将／4年)



入学案内

スポーツ推薦のご案内(平成25年度)

亞 細亞大学のスポーツ推薦は「経営学部経営学科」「経済学部経済学科」「法学部法律学科」「国際関係学部国際関係学科」と「国際関係学部多文化コミュニケーション学科」の4学部5学科があります。

テニス部は本年度、「経済学部」「法学部」「国際関係国際関係学科」「国際関係学部多文化コミュニケーション学科」の4つから選択することができます。

(平成24年度) テニス部には「経済学部」「法学部」「国際関係学部」のほか、「経営学部」「短期大学部」の学生が在籍しています。

私たちの中には、スポーツ推薦入試だけではなく一般入試やAO入試、指定校推薦などで入部した学生もいます。みんなテニスが大好きな学生ばかりです。部員一同、みなさんの入部をお待ちしています。

亞細亞大学が求める学生像 募集するスポーツの技能に優れた将来性のある者

出願資格

- (1)原則として、平成25年度3月に高等学校(中等教育学校卒業を含む)卒業見込みの者。ただし、高等学校に相当する課程を卒業見込みの者については、出願資格を審査の上、受験を認めることがある。
- (2)本学への入学を第1希望とする者。
- (3)調査書の全体の評定平均が2.7以上の者。
- (4)高校総体、国体などの全国規模の大会に出場した選手および将来性のある優秀な選手。

試験会場

本学(武蔵野キャンパス/ P2参照)

選抜方法

[第1次]実技・面接、[第2次](第1次合格者を対象に)小論文・面接・書類審査の総合評価により判断する。

合格発表

- ▼I期 平成24年度12月3日(月) 電話・webによる合格発表。
- ▼II期 平成25年度2月14日(木)
電話・webによる合格発表。

入学手続期間

- ▼I期
[第1次手続]平成24年12月5日(水)～12月14日(金)
[第2次手続]平成25年1月4日(金)～1月25日(金)
- ▼II期 [一括手続]平成25年2月15日(金)～2月21日(木)

出願期間

- ▼I期 平成24年度10月30日(火)～11月6日(火)
- ▼II期 平成25年度1月4日(金)～1月11日(金)

※I期II期ともに郵便出願(締切日消印有効)

試験日

- ▼I期 平成24年度11月25日(日)
- ▼II期 平成25年度2月7日(木)

〒180-8629 東京都武蔵野市境5-24-10

入試課直通 TEL0422-36-3273

<http://www.asia-u.ac.jp/> e-mail:nyushi@asia-u.ac.jp



亞細亞大学
亞細亞大学短期大学部

1 995年卒業の宮地弘太郎です。私の同期には、昨年引退した本村剛一プロと2つ下に岩渕聰プロがおり、柳川高校時代から良きライバルでした。彼らはプロの道を選択し、私は大学進学の道を選択。亜細亜大学入学当初から、「大学テニスに留まらない競技生活を送る」ことをテーマに4年間を過ごしました。

なぜ亜細亜大学に進学したのか——亜大には日本のトップジュニアが多数在籍しており、大学を経由して世界を目指す集団、大学からプロを目指せるというイメージが定着していたことに加え、大学テニスのパイオニアでもある堀内先生の「大学はさらなる飛躍に挑戦する場所であり、大学からグランドスラムに挑戦する」という考えに共感したからです。

卒業後、さまざまな企業のサポートを受け、約8年間プロテニス選手として、ATPランキング100位を目指し、世界を転戦しましたが、目標に到達することはできませんでした。

その後、28歳で現役を引退し、指導者の道へ進むことを決意しました。そこで主たる研究テーマは、硬式テニス（球技／対人／ネットラケット型）のゲーム分析（エリート選手、大学生選手の技術や戦術の様相）や、競技特性に応じた体力組成の分析により効果的な指導方法論を導き出し、大学生選手の技術に関しては総合的研究を行ない、ドリルの効果も検討していくことを目指しました。

選手から研究者へという転身は、テニス選手では珍しく、テニス漬けで過ごした私がその道に進むことに周りは驚いて

いましたが、当の本人は、これから新たな人生に向けて30歳手前ながら、胸ときめいていました。私の強みは、実体験で得た知見や、経験で培った実技ですが、現在大学テニスを指導する上でのテーマは、主観的コーチング+客観的コーチングです。テニスは日々進化し、トレーニング方法も年々変容してきました。現場+研究からの知見を学生にフィードバックし、大学生からでも世界を目指せる環境整備や、大学テニスの醍醐味を学生に伝えていくことが私の使命ではないかと考えています。

近年、残念なことは高校生プレーヤー、大学生プレーヤーに夢がないことです。大学進学のための『テニス』ではなく、夢の実現のための『テニス』でしょう。私の夢は“日本のテニスを自分が変える！”ことでした。日本のテニスを変える=大学出身者がグランドスラムに出場すること。そのためには、大学や国内一般の試合だけに留まらず、海外ヘトライし、さまざまなプレーヤーと対戦し、自分のスタイルを確立することです。いま日本のテニスは世界と拮抗しています。錦織圭選手、添田豪選手、伊藤竜馬選手と世界のトップ選手=「テニスで飯が食える」時代に突入してきました。これは、先を見据えたJTAの強化活動の成果だと思います。私はいまこそ、大学テニスプレーヤーがそこに食い込んでいく絶好のタイミングと考えています。

亜細亜大学時代に培われたもの——『考える』ことが『人間を成長させる』ことに繋がり、上達に『近道』ではなく、強くなるには『人と違うこと』を『人の倍努力する』ということを学びました。高校生のみなさん、大学生活はあつという間です。『夢』を持って『夢』の実現に向けて精進してください。

**学生時代の私の夢は“日本のテニスを変える！”ことでした。
いまは大学出身者がグランドスラムに出場する—
その夢をもって指導しています。**

宮地弘太郎

(関西国際大学専任講師／テニス部監督)

みやち・こうたろう○1974年2月18日生まれ。広島県出身。柳川高校卒。91年インターハイ団体準優勝、単ベスト8、複ベスト4。92年亜細亜大学に入学。93、95年インカレ優勝。94年全日本準優勝。95年ユニバーシアード銅メダル獲得(27年ぶり)。卒業後プロ転向し、ジャパンオープン・ベスト16。99年全豪予選決勝敗退。元デ杯日本代表。ATP最高位は303位(98年7月)、JOP3位。03年に現役を引退し、日本体育大学院を経て、07年4月から現職。ユニバーシアード男子監督。S級エリートコーチ



テ

ニスを始めたのは小学校3年生のとき。当時から僕の将来の夢は『プロテニスプレーヤーになって活躍すること』でした。練習が終わって帰宅すると、テレビでグランドスラムの試合を見るというのが僕の日課。画面の向こうにある大きな舞台に立ち、勝ちたい——そう願っていました。いま、その夢が叶いつつあります。

僕は日本の高校（長尾谷高）でトレーニングを積んだプロテニスプレーヤーです。高校時代は、本当は海外遠征をしてITF大会などに出場したかったのですが、それは環境的に難しく、インターハイ、全国選抜を目標に国内で活動しました。

どうすればその中で強くなれるかを考えて行動してきました。考えてたどりついた方法は——『ひとりでも多くの選手と試合をし、経験を積むこと。さまざまなプレースタイルの選手と対戦して多くを学ぶこと』——でした。

そこで高校の大会のほかに、一般トーナメントに出場したり、フューチャーズ（国際大会）の予選出場を目指したのです。フューチャーズは、世界ランキング、国内ランキングの高い順に出場権が与えられるため、僕は出場できるかどうかがわかりませんでしたが、それでも会場に行き、サイン（申し込み）をし、チャンスをつかもうと行動しました。

ひとりでしたから、大会へ行っては練習相手を探し、試合をして、また練習相手を探し、一日中、大会会場にいました。

日々その繰り返しです。そのような生活は、プロの生活と近く、プロ転向したときに役立ちました。スムーズにプロ活動に入れたことは、重要な意味があったと思います。

僕を成長させてくれた大会のひとつが『亞細亞大学国際オープン』でした。僕がプロになった18歳の年にできた大会です。第1回大会に出場した僕は、世界ランキング991位で予選に出場。勝ち上がって本戦出場を果たしましたが1回戦負けでした。翌年19歳のときに出場した第2回大会では、僕は465位で本戦出場ができ、その大会で優勝することができました。ステップアップさせてもらった大会です。

国内にフューチャーズがあることは、多くの日本選手にとってありがたいことです。“ホーム”的な環境を生かし、ポイントを取り、世界に出ていくチャンスがつかれます。フューチャーズで優勝できれば、次のステージであるチャレンジャーと道はつながります。多くの若い選手たち、ジュニアたちに、その機会を生かし、チャレンジしてほしいです。

いま僕は、グランドスラムの舞台にたどりつきました。少しづつ夢に近づいていて、もっと活躍したいとさらに欲が出てきました。楽をして上になどいけません。だから、より強い相手を倒すことを考えなければなりません。そのために必要なことは何か、ジュニア時代と同じように日々考えて行動しています。そうすることによって、また夢に近づいていくと思うのです。

亞細亞大学テニス部の学生のみなさん、大会をつくり、開催してくれ、多くの高校生や大学生たちに夢を与えてくれて本当にうれしいです。僕は自分の夢を叶えるために、これからもさらに上を目指します。次の目標はトップ20です！

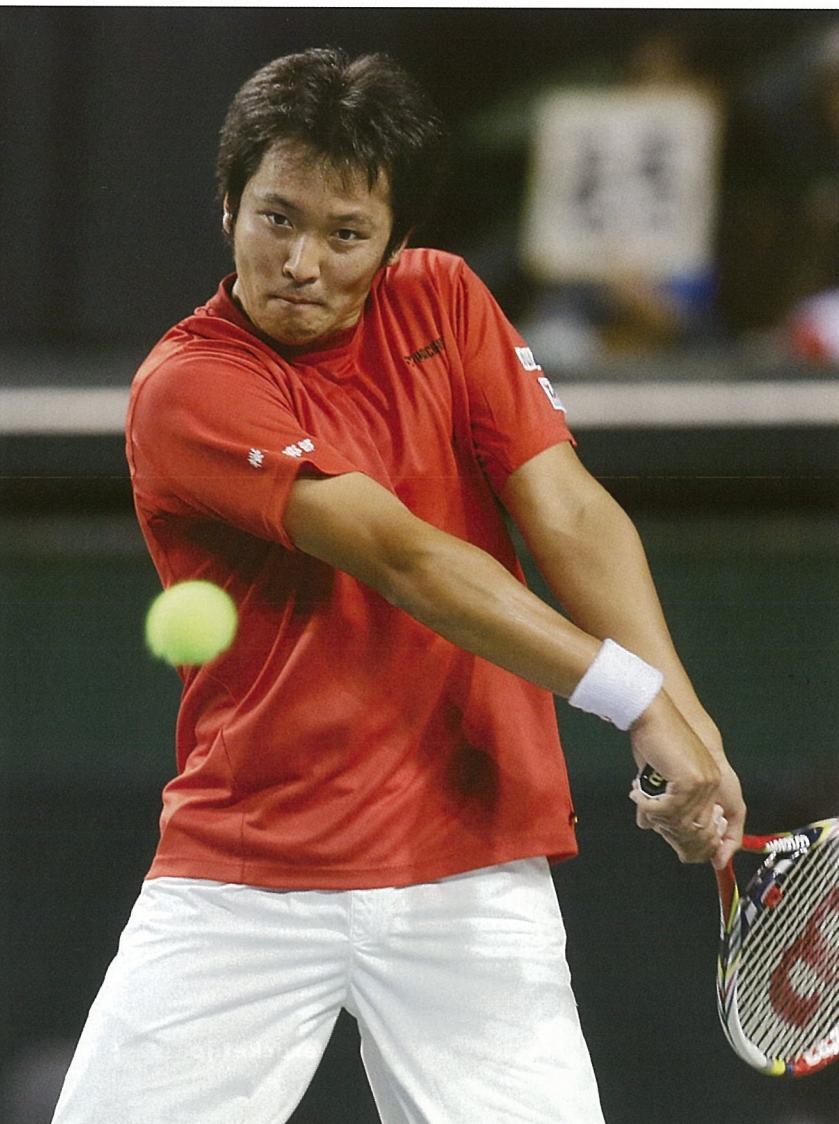
（2012年6月下旬インタビュー）

僕はいまグランドスラムの舞台にたどり着いた。
多くの高校生、大学生に、
フューチャーズに
チャレンジしてほしい。

伊藤竜馬

（北日本物産／2007年亞細亞大学国際オープンテニス優勝）

いとう・たつま◎1988年5月18日生まれ。25歳。三重県いなべ市出身。北勢中学、長尾谷高校卒。06年ジャパンオープンジュニア優勝。インターハイ、全日本ジュニア準優勝。同年12月プロ転向07年フューチャーズ初優勝、08年同大会4勝。10・12年チャレンジャー6勝、11年全米初出場1回戦、12年ロンドンオリンピック日本代表。13年全日選手権優勝。ATP最高位65位（2014年2月15日付）



CONTENTS

大学紹介

02 武蔵野キャンパス 04 日の出キャンパス 06 入学案内(スポーツ推薦)

PART 1 部活動紹介

- 03 挨拶～堀内昌一(亞細亞大学教授 / テニス部監督)
12 部活ってすばらしい! 14 テニス部主要Topics[年表]
16 過去(1988～)の主な戦績

亞細亞の部活

- 18 入学前から卒業までの流れ
19 入学後 4年間の目標を考える。
亞細亞のAプロジェクト
20 一年間の流れ
22 我々は本物のテニスを追求する。
心の追求 / 技の追求 / 体の追求
24 戰術の研究 / 情報・理論の収集・勉強
25 挨拶～森稔詞(亞細亞大学テニス部コーチ)

PART 2 チーム紹介

- 05 挨拶～野田雄希(亞細亞大学4年 / 主将)
26 池島政広学長挨拶
宇田川裕部長、金子国彦部長挨拶
28 指導スタッフ紹介 30 男女部員名簿
34 「部員からひと言」 高校生のみんなへ、いっしょにテニスしようよ!
36 文武両道～学生は部活と授業の両立を目指す。

学部紹介

- 38 法学部 西岡靖雄(2年)の場合
39 経済学部 松本千広(2年)の場合
40 國際関係学部 佐藤俊介(3年)の場合
41 短期大学部 井上裕貴(2年)の場合
41 経営学部紹介

- 42 大学に入って、こんなに変わりました!
山本翔子(4年) / 伊波佳苗(4年) / 仲村元希(2年) / 安野聰美(2年) / 長船雅喜(1年)

PART 3 卒業後の進路

- 07 挨拶～宮地弘太郎(亞細亞大学テニス部OB)
46 2003年、亞細亞大学、メルボルンへ行く。
「大学に行ったら世界に行けないなんて言わせない」
文◎吉松忠弘 記事提供◎テニスマガジン
48 卒業生、それぞれの道
岡本聖子 / 宮崎優実 / 比嘉明人 / 佐藤博康 / 高田充 / 駒田政史 / 宮崎靖雄 /
白華英 / 森嶋修 / 中村聰利 / 新谷啓 / 山内俊哉 / 遠藤真理子 / 細谷亮太 /
平良和己 / 岡林陽子 / 三上英知 / 谷泰仁 / 津布久萌 / テニス部の主な就職先
58 就職ガイダンス

PART 4 国際大会報告

- 09 参加選手を代表して～伊藤竜馬プロ(北日本物産)
60 2013国際大会開催レポート
【男子】亞細亞大学国際オープン 【女子】亞細亞大学国際女子オープン
男女予選、本戦結果
70 私たちはこうやって大会をつくりました
第1回亞細亞大学国際オープン2007 『国際大会開催までの全記録』
74 過去5大会(第1回～5回)国際大会結果
75.77 日の出に世界がやってきた。 文◎武田薫 記事提供◎テニスマガジン
79.81 亞細亞大学主催 チャリティクリニックのお知らせ / 参加者の声
83 2014国際大会告知

2013 亞細亞大学 テニス部

チームガイド

TEAM GUIDE



国際大会開催報告

REPORT

©ここに掲載する記事、写真、および図版の無断転載を厳禁します。

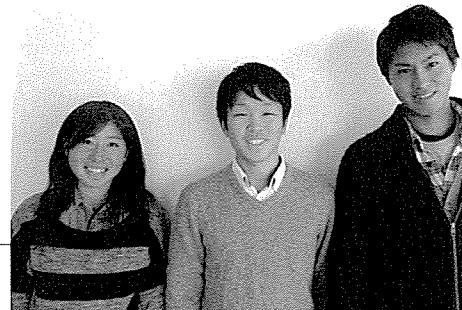
STAFF

●Editorial supervisor
堀内昌一 Shoichi Horiuchi
森 稔詞 Toshitsugu Mori

●Editor in chief
山口福太郎(4年) Fukutaro Yamaguchi

●Editor
佐藤俊介(3年) Shunsuke Sato
松本千広(2年) Chihiro Matsumoto

●Design
泰司デザイン事務所 Taizi Design office



Editor's MEMO

●アジパン作成に携わり2年目を迎めました。亞細亞大学硬式庭球部ではテニスはもちろん、テニス以外の面でも勉強することができました。学生主体となってパンフレット作りをしている大学は、亞細亞しかありません。本年度もアジパン作りに、多岐にわたる支援をして頂き、ありがとうございました。パンフレットではでき得る限りテニス部の魅力を伝えましたが、伝えきれていないところは私の力不足です。新メンバーを加えて完成したアジパンを是非ご一読ください! (山口/写真中央)

●今回のアジパンは大きく完成が遅れてしまいました。3年生で主務になり、他の仕事をこなしながらアジパンを作ることはとても力になったと思います。この経験を活かし、来年のアジパンの作成では納期から逆算し、しっかりと終わらせるごとに、内容もリニューアルしさらに楽しめるようにしたいと思います。
(佐藤/写真右)

●今年からアジパン作成のお手伝いをさせて頂く事になりました。正直、テニスの練習とアジパン作成は大変でしたがとても自分の為になりました。この作業をすることで、沢山人の考え方を教わる事やお話を聞かせて頂く機会が増えました。普通の大学生では経験出来ない事をさせて頂くとても良い経験となりました。来年度のアジパンはより良い物を作れる様に頑張ります! (松本/写真左)



大学に勤めて25年になります。最近では教え子の結婚式に毎月のように招待されるような歳になりました。ひとりもふた回りも大きくなった教え子の成長を見るたびに、ただ驚くばかりです。そこには同期たちも集まってきたから、その成長ぶりにも驚かされてしまいます。

あれほどやんちゃだった学生時代からは想像もできないくらい、社会でもまれ、成長した姿を見るにつけ、たった4年の間だったけれど、ともに過ごした時間のありがたさを感じています。同期や同僚たちが披露するエピソードを聞き、スナップ写真を見て、当時を想い出し、私はうなづくばかりです。

入学式に卒業式、そして結婚式と、繰り返される“集合写真”こそ、まさに“部活”的証。それぞれが真剣にテニスに取り組み、いっしょに戦ってきたからこそ迎えられる瞬間だと思います。その当時は、そんな未来を想像することもできなかつたでしょうが、大人になり、みんなで再び顔を合わせたときに、“部活”的なすばらしさを感じてくれていると私は確信しています。

“部活”は一見ややこしそうですが、実はとてもシンプルなものです。

私はいつも学生たちに「できるまでやれ」と指導しています。課題を与えると、すぐにできるヤツ、すぐにできないヤツ、まったくできないヤツに、できるまでやろうとしないヤツと、さまざまですが、いずれに対しても“部活”は容赦しません。ヒントは与えますが、答えは自分で見つけなければならぬのです。私が答えをあげることはできません。答えを見つけるのは自分。見つけるまでにはおそらく相当な時間がかかります。でも、“待つこと”も私の仕事。そうしているうち、失敗してしまうこともしばしばありますが、それでもいいと思っています。失敗が教えてくれるものもある。それがまた、大きな財産となるからです。

コートにはコーチと部員がいますが、最終的

には、部員自身が課題を解決する力を身につけなければ意味がないと思っています。課題や目標を達成するために必要となるのは、自身の力であるとともに、重要なのは仲間の力。そのことに気づき、みんなで結束してこそ、乗り越えられるものがあることにも気づいてほしいのです。そのことに気づき、その力の大きさを知ったときに、喜びを分ち合える関係になります。ひとりでは到底できないことにも、みんなの力を合わせれば必ず近づくことができる、達成できる。私はそれが“部活”だと思います。

部活って、本当にすばらしい！ 高校生諸君、私たち亞細亞大学でいっしょに部活をやろう！

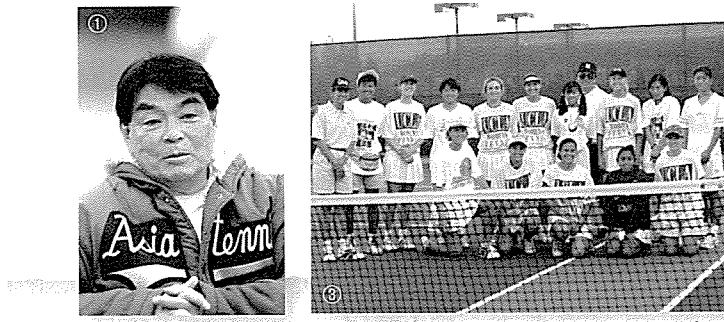
文◎堀内昌一

高校生諸君、私たち亞細亞大学でいっしょに部活をやろう

すばらしい！ 部活つよ！



亞細亞大学テニス部

過去26年間の
主要Topics

術藤瀧吉学長

93年、UCLAへ。堀内監督の隣りの女性はビート・サンプラス姉

1987年(昭和62年)

- ・術藤瀧吉学長就任(1987-95年)。一芸入試を導入。(写真①)
- ・堀内昌一が講師およびテニス部監督に就任。

1988年(昭和63年)

- ・男子7部リーグ優勝/6部リーグ昇格
- ・女子5部リーグ3回戦敗退

1989年(平成元年)

- ・男子6部リーグ優勝/5部昇格
- ・女子5部リーグ優勝/4部昇格
- ・亞大初となる全国タイトル。インカレ・インドアで山崎史子が単優勝。
- ・アメリカプログラム(AUAP/正規単位取得型の留学プログラム)開始。

1990年(平成2年)

- ・男子5部リーグ優勝/4部昇格
- ・女子4部リーグ優勝/3部昇格
- ・男子初となる全国タイトル。インカレ単優勝・森稔詞、複優勝・岡田岳二/坂口雄二。
- ・国際関係学部国際関係学科開設。

1991年(平成3年)

- ・男子4部リーグ優勝/3部昇格
- ・女子3部リーグ優勝/2部昇格
- ・日の出トレーニングセンター完成。
- ・海外のITFサーキットに岡田・森・高田の3名が参戦。約4ヶ月間、オーストラリア・アメリカ・韓国を回る。そこで亞大生初となるATPポイントを獲得(岡田3ポイント、森1ポイント)。
- ・第16回ユニバーシアード(イギリス)日本代表選手に森、伊東新、山崎、赤堀奈緒の4名が選ばれる。また堀内昌一監督も日本代表コーチに就任。

1992年(平成4年)

- ・男子3部リーグ優勝/2部昇格
- ・女子2部リーグ優勝/1部昇格
- ・ITFサーキットに単身、宮地弘太郎が遠征(フィリピン)。ATP3ポイント獲得。
- ・女子初となるインカレ・タイトルを獲得。赤堀が単優勝。

1993年(平成5年)

- ・男子2部リーグ優勝/1部リーグ昇格
- ・女子1部リーグ初優勝/女子王座初優勝(写真②)
- ・全米遠征(93年~97年)で、強豪大学(USC/UCLA/スタンフォード大など)と対抗戦。(写真③)
- ・第17回ユニバーシアード(アメリカ)で赤堀が平木理化(青学)とのペアで銀メダル獲得。
- ・日本経済短期大学と亞細亞大学が統合、亞細亞大学短期大学部開設。

1994年(平成6年)

- ・男子1部リーグ初優勝/大学王座初優勝(写真④)
- ・女子1部リーグ優勝2連覇/大学王座3位

93年、女子が大学王座初制覇



・関東1部リーグで初のアベック優勝。

- ・全日本選手権複で、佐藤博康/駒田政史が学生として33年ぶりに優勝。(写真⑤)

1995年(平成7年)

- ・男子1部リーグ優勝2連覇/大学王座2連覇
- ・女子1部リーグ優勝3連覇/大学王座3位
- ・関東1部リーグで2度目のアベック優勝。
- ・全日本選手権男子単で宮地弘太郎が決勝進出。
- ・第18回ユニバーシアード(福岡)男子単で宮地が27年ぶりに銅メダルを獲得。
- ・ジャパンオープン男子単で宮地が3回戦進出(ベスト16)。

1996年(平成8年)

- ・男子1部リーグ優勝3連覇/大学王座準優勝
- ・女子1部リーグ優勝4連覇/大学王座準優勝
- ・関東1部リーグで3度目のアベック優勝。

1997年(平成9年)

- ・男子1部リーグ優勝4連覇/大学王座準優勝
- ・女子1部リーグ優勝5連覇/大学王座2度目の優勝
- ・関東1部リーグで4度目のアベック優勝。
- ・第19回ユニバーシアード(イタリア)女子複で岡本聖子が銅メダル獲得。

1998年(平成10年)

- ・男子1部リーグ優勝5連覇/大学王座4位
- ・女子1部リーグ優勝6連覇/大学王座2連覇達成(3度目の優勝)
- ・関東1部リーグ5度目のアベック優勝。
- ・コーチ帯同で3週間、岡本聖子がアメリカのITFサーキットに参戦。(写真⑥)

1999年(平成11年)

- ・男子1部リーグ準優勝/大学王座準優勝
- ・女子1部リーグ優勝7連覇/大学王座3位
- ・ITFサーキット(アメリカ/メキシコ)参戦。
- ・第20回ユニバーシアード(スペイン)の日本代表監督に堀内昌一が就任。

2000年(平成12年)

- ・男子1部リーグ6度目の優勝/大学王座準優勝
- ・女子1部リーグ8連覇/大学王座準優勝
- ・関東1部リーグは6度目のアベック優勝。

2001年(平成13年)

- ・男子1部リーグ準優勝/大学王座3位
- ・女子1部リーグ4位(関東リーグ9連覇ならず)



94年、男子が初の大学王座日本一

2002年(平成14年)

- ・男子1部リーグ3位
- ・女子1部リーグ9度目の優勝/大学王座3位
- ・テニス部専任コーチにOBの森稔詞就任。

2003年(平成15年)

- ・男子1部リーグ7度目の優勝/大学王座3位
- ・女子1部リーグ10度目の優勝(写真⑦)/大学王座4位
- ・関東1部リーグ7度目のアベック優勝。
- ・四大会のひとつ、オーストラリアン・オープン観戦遠征を開始。以来、有志を募っての恒例行事に。
- ・韓国体育大学と合同合宿。韓国と日本を交互に遠征(03年~06年)

2004年(平成16年)

- ・男子1部リーグ5位/1部残留
- ・女子1部リーグ準優勝/大学王座4位
- ・関東リーグで5位となった男子は、初の2部との入れ替え戦へ。勝利して1部残留が決定。
- ・デ杯日本代表チームのオーストラリア合宿に宮崎靖雄が参加。

2005年(平成17年)

- ・男子1部リーグ6位/1部残留
- ・女子1部リーグ準優勝/大学王座4位
- ・関東リーグで6位の男子は2度目の2部との入れ替え戦へ。勝利し、1部残留。
- ・デ杯日本代表チームのオーストラリア合宿に、男子は比嘉明人、女子は遠藤真理子と高橋令が参加。ボブ・ブレットコーチの指導を仰ぐ。

2006年(平成18年)

- ・男子1部リーグ5位/1部残留
- ・女子1部リーグ準優勝/大学王座準優勝
- ・関東リーグで5位の男子は、3度目の2部との入れ替え戦へ。勝利し、1部残留。
- ・オーストラリアン・オープン観戦遠征。
- ・コーチ帯同で3週間、オーストラリアのITFサーキットに参戦。

2007年(平成19年)

- ・男子1部リーグ4位
- ・女子1部リーグ3位
- ・男子フューチャーズ『第1回亞細亞大学国際オープン』(1万ドル)を開催。篠川智大が本戦1回戦に勝利し、ATP1ポイントを獲得。
- ・国際大会開催にあたり、『チャリティー・テニスクリック』を始める。収益のすべてを運営費に充て、年間20回を目標に開催。
- ・アメリカプログラム(AUAP)の参加学生数が1万人突破。
- ・ユニバーシアード(バンコク)の日本代表監督に森稔詞が就任。
- ・堀内昌一助教授が教授に昇格。
- ・テニス部強化に尽力を注いだ元学長、衛藤瀧吉先生逝去。享年84才。

2008年(平成20年)

- ・男子1部リーグ4位
- ・女子1部リーグ準優勝/大学王座準優勝
- ・第2回男子フューチャーズ開催。
- ・スポーツケア・アローズと年間50日間の専属トレーナー契約を交わす。

2009年(平成21年)

- ・男子1部リーグ4位
- ・女子1部リーグ6位/2部降格
- ・関東リーグで6位の女子は、初の2部との入れ替え戦へ。最後はエース宮本紗織が敗れて、2部降格へ。1989年に5部で優勝してから王座優勝、その後は常勝し、1部を死守してきたが、ついに力尽きる。
- ・第3回男子フューチャーズ開催。

2010年(平成22年)

- ・男子1部リーグ5位/1部残留
- ・女子2部リーグ優勝/1部昇格
- ・関東リーグで6位の男子は、4度目の2部との入れ替え戦へ。勝利し、1部残留。
- ・関東リーグ2部で優勝の女子は、1部との入れ替え戦で日本大学に勝利し、1部復帰。
- ・全日本選手権・混合複で篠川智大(／瀬間詠里花プロ)が初優勝。
- ・第4回男子フューチャーズ開催。
- ・森コーチ帯同で、ポルトガルのITF女子サーキットに3週間遠征。メンバーは宮本紗織・荒木史織・山本翔子。
- ・新しい部室が完成。

2011年(平成23年)

- ・男子1部リーグ6位/1部残留
- ・女子1部リーグ準優勝/大学王座準優勝
- ・関東リーグ6位の男子は、5度目の2部との入れ替え戦へ。勝利し、1部残留。
- ・全日本選手権・混合複で篠川智大(／田中真梨プロ)が2連覇。
- ・第5回男子フューチャーズ開催も、予選サイン当日に東日本大震災が起きる。予選を消化するも、ITF、JTA、春のフューチャーズシリーズ大会ディレクターらと協議の結果、大会中止を決定。
- ・亞細亞大学建学70周年。
- ・テニス部創部50周年。
- ・部室前に駐車場が完成。

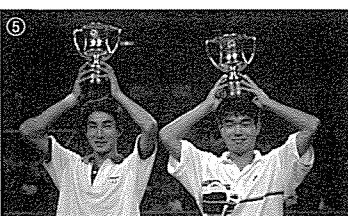
2012年(平成24年)

- ・男子と並び、女子サーキット『第1回亞細亞大学国際女子オープン』(1万ドル)を開催。伊波佳苗が単ベスト8進出。
- ・第6回男子フューチャーズ開催。
- ・男子1部リーグ6位/1部残留
- ・女子1部リーグ4位
- ・関東リーグ6位の男子は、6度目の2部との入れ替え戦へ。勝利し、1部残留。
- ・亞細亞大学文部科学省「グローバル人材育成推進事業」採択

2013年(平成25年)

- ・男子1部リーグ5位/2部降格
- ・女子1部リーグ4位
- ・関東リーグ5位の男子は7度目の2部との入れ替え戦へ。敗北し、1994年から続いた1部から降格する。
- ・亞細亞大学新5号館完成

03年、10度目の関東リーグ優勝



94年、全日本男子ダブルス制覇の佐藤博康／駒田政史



98年、インカレを制した岡本聖子



亞細亞大学テニス部 過去(1988年～)の主な戦績

関東大学テニスリーグ&
全日本大学対抗テニス王座決定試合

年度	関東大学リーグ		
	男子	女子	男
1988年(昭和63年)	6部昇格	5部	
1989年(平成元年)	5部昇格	4部昇格	
1990年(平成2年)	4部昇格	3部昇格	
1991年(平成3年)	3部昇格	2部昇格	
1992年(平成4年)	2部昇格	1部昇格	
1993年(平成5年)	1部昇格	優勝	
1994年(平成6年)	優勝	優勝	優
1995年(平成7年)	優勝	優勝	優
1996年(平成8年)	優勝	優勝	準
1997年(平成9年)	優勝	優勝	準
1998年(平成10年)	優勝	優勝	4
1999年(平成11年)	準優勝	優勝	準
2000年(平成12年)	優勝	優勝	準
2001年(平成13年)	準優勝	4位	3
2002年(平成14年)	3位	優勝	
2003年(平成15年)	優勝	優勝	3
2004年(平成16年)	5位	準優勝	
2005年(平成17年)	6位	準優勝	
2006年(平成18年)	5位	準優勝	
2007年(平成19年)	4位	3位	
2008年(平成20年)	4位	準優勝	
2009年(平成21年)	4位	2部降格	
2010年(平成22年)	5位	1部昇格	
2011年(平成23年)	6位	準優勝	
2012年(平成24年)	6位	4位	
2013年(平成25年)	2部降格	4位	

関東大学テニスリーグ
女子硬式庭球部歴代記録

年度	成績	インカレ人数
S63年度	6部昇格	
H元年度	5部昇格	1人
H2年度	4部昇格	2人
H3年度	3部昇格	11人
H4年度	2部昇格	8人
H5年度	1部昇格	8人
H6年度	優勝	4人
H7年度	優勝	10人
H8年度	優勝	8人
H9年度	優勝	6人
H10年度	優勝	9人
H11年度	優勝	6人
H12年度	優勝	5人
H13年度	優勝	5人
H14年度	4位	4人
H15年度	優勝	4人
H16年度	優勝	8人
H17年度	準優勝	11人
H18年度	準優勝	7人
H19年度	3位	5人
H20年度	準優勝	7人
H21年度	2部降格	7人
H22年度	1部昇格	6人
H23年度	準優勝	8人
H24年度	4位	3人
H25年度	4位	4人

全日本学生テニス選手権大会&全日本学生室内テニス選手権大会 出場人数

年度	インカレ						インカレ・インドア					
	男子出場人数			女子出場人数			男子出場人数			女子出場人数		
	S	D	S	S	D	S	S	D	S	S	D	S
1989年(平成元年)	3人	2組	1人	1人	1組	3人	1組	1人	1人	1人	2組	2人
1990年(平成2年)	3人	2組	1人	1人	1組	3人	2組	2人	2人	2人	2組	2人
1991年(平成3年)	3人	4組	6人	4組	4組	4人	4組	2人	3組	2人	2組	2人
1992年(平成4年)	5人	4組	2人	4組	1人	1組	3人	4組	1人	3人	4組	1組
1993年(平成5年)	10人	5組	7人	3組	2人	2人	3組	2人	3組	2人	2組	2人
1994年(平成6年)	7人	5組	3人	2組	3人	1組	1組	2人	2人	2人	2組	2人
1995年(平成7年)	6人	3組	8人	3組	1人	1組	1組	2人	1組	2人	1組	1組
1996年(平成8年)	6人	2組	7人	3組	1人	1組	1組	2人	1組	2人	1組	1組
1997年(平成9年)	4人	3組	6人	1組	3人	1組	1組	5人	1組	5人	1組	1組
1998年(平成10年)	5人	2組	6人	4組	2人	2人	2人	4組	2人	2人	2組	2人
1999年(平成11年)	5人	4組	4人	4組	2組	2人	2人	1組	1人	1人	1組	1組
2000年(平成12年)	6人	4組	5人	3組	3人	1組	2人	3人	1組	2人	2組	2人
2001年(平成13年)	4人	1組	4人	2組	1人	1組	1人	1組	2人	2人	2組	2人
2002年(平成14年)	5人	3組	4人	2組	3人	1組	1組	3人	1組	3人	2組	3人
2003年(平成15年)	4人	2組	4人	2組	2組	1人	1組	2人	2人	2人	1組	1組
2004年(平成16年)	2人	4組	4人	4組	4組	2人	2人	4組	2人	2人	2組	2組
2005年(平成17年)	3人	2組	7人	5組	1人	1人	1人	1組	1人	1人	2組	1組
2006年(平成18年)	5人	2組	7人	3組	1人	1人	1人	1組	1人	1人	2組	1組
2007年(平成19年)	7人	1組	5人	3組	2人	2人	2人	1組	1人	1人	2組	1組
2008年(平成20年)	5人	3組	6人	2組	3人	1組	1組	3人	1組	1人	1組	1組
2009年(平成21年)	6人	3組	5人	2組	2人	2人	2人	1組	1組	1人	1組	1組
2010年(平成22年)	6人	4組	6人	3組	3人	1組	1組	3人	1組	3人	1組	1組
2011年(平成23年)	2人	1組	7人	4組	4組	1組	1組	2人	2人	2人	1組	1組
2012年(平成24年)	3人		3人	1組	1組	1組	1組	1組	1組	2人	1組	1組
2013年(平成25年)	2人		4人	2組						2人		

個人戰績

年度		出場選手		インカレ		インカレンドア	
		S	D	S	D	S	D
1989年	平成元年	男子	坂口雄二	準優勝	ベスト16	1R	
			森 稔綱	ベスト8	ベスト4	1R	ベスト4
		女子	岡田岳二	ベスト16		ベスト8	ベスト4
			高田 充		ベスト4		ベスト4
1990年	平成2年	男子	桜井和人		ベスト16		
			山崎史子	ベスト4		優勝	
			森 稔綱	優勝		ベスト4	ベスト8
			岡田岳二	ベスト4		ベスト16	ベスト8
		女子	坂口雄二	ベスト8	優勝	ベスト16	ベスト8
			高田 充				ベスト8
			山崎史子	準優勝	準優勝	優勝	1R
			三輪陽子			1R	
1991年	平成3年度	男子	赤堀奈緒	準優勝	準優勝	優勝	
			石田恵子				
			森 稔綱	優勝	優勝	準優勝	準優勝
			伊東 新	準優勝	ベスト16	優勝	ベスト4
			高田 充		ベスト4	ベスト16	ベスト4
			岡田岳二	ベスト16			準優勝
		女子	駒田政史		優勝	ベスト4	
			城間和人		ベスト4		ベスト8
			須藤陽史		ベスト4		ベスト8
			坂口雄二		ベスト16	ベスト8	
			佐藤博文				ベスト16
			佐藤博康				ベスト16
1992年	平成4年度	女子	赤堀奈緒	ベスト4	優勝	優勝	
			山崎史子	ベスト8	優勝	準優勝	
			三輪陽子	ベスト32			
			鈴 雅美	ベスト32			
			萱嶺奈穂	ベスト32			
			土方千代	ベスト32			
		男子	北野由美		ベスト16		
			辻麻千香		ベスト8		
			斎藤裕子		ベスト8		
			井上朋子		ベスト16		
			浅見玲子		ベスト16		
			石田恵子				
		男子	伊東 新	準優勝	ベスト16	ベスト8	ベスト4
			宮地弘太郎	ベスト8			
			佐藤博康	ベスト16	ベスト4		
			駒田政史	ベスト32			
			馬越浩也				
			鈴木 亮	ベスト32			

亞細亞の部活

入学前から卒業までの流れ

入学前

高校3年 ⇒ 大学1年

大切な時間 大学入学前から部活は始まっている

12月

年末合宿(12月20日～27日)

練習内容

- ・学生は全国各地から延べ100名を超す参加者(高校生・中学生)とともに練習やトレーニングを行なう。後輩たちとともに行なうことにより、テニスの基礎を確認、時間をかけて徹底的に基礎を磨く。



ときにOB、OGやプロ(スペシャルゲスト)も参加。レクチャーを受ける高校生や部員たち

- ・その年にやり残した課題、自分の改善点を徹底的に克服する。

- ・特にサービスは改善の必要がある場合が多く、この時期にグリップをコンチネンタルにして、基本を学ぶ。



全員コンチネンタルグリップへ移行

オリエンテーション

- ・部員が作成したカレンダーに基づいて、翌年1年間のスケジュールを説明。
- ・4月からスタートする大学生活、特に授業に関する説明がある(4年間で必要な124単位に関して)。1年生での単位数取得の方法とその重要性などのレクチャーを受ける。
- ・『テニス発見ノート』を作成。
- ・翌年2月から始まる合宿までの宿題となるのが読書。『五輪の書』と『不毛地帯』を読み、後日感想文を提出。



『五輪の書』と『不毛地帯』

1月

・冬休み(故郷へ帰省する学生が多い)

- ・四大大会のひとつ、オーストラリアン・オープン観戦。有志を募り、学生や監督・コーチとともにメルボルンへ。予選および本戦を観て、肌で“世界のテニス”を感じる(1月10日前後～20日前後まで)。



監督・コーチと同じ部屋で、夜中もテレビを観ながら談笑



オーストラリアン・オープンのセンターコート

2月

- ・高校を卒業した学生から2月の合宿に参加(12年末合宿での宿題提出)。

- ・大学4年間でのテニス活動における準備(基礎体力や基礎技術の改善)。

- ・翌3月に大学で開催する男女の国際大会の準備をする。
- ・これから的生活拠点、活動の準備をする。
- ・国際大会参加を想定し、ITFのI-pin(アイ・ピン)登録と春の男子ユーチャーズ、女子サーキットへの申し込みを行う。

3月

- ・基礎練習から応用練習への移行期。

- ・体力強化を継続する。

- ・月末から始まる男子ユーチャーズと女子サーキットへの参加を目指すとともに、大会運営に参加する。



スーパーバイザーから審判のレクチャーなどを受ける学生

入学後

4年間の目標を考える。 学生は本物を学べ!!

- ・Ever Upward「自らの可能性は、それを信じ続けた者だけが実現できる」(亞細亞大テニス部テーマ)の実行
- ・スポーツマンシップの獲得。人間的成長を目指す。
- ・大学王座・インカレ・全日本選手権など主要大会での優勝を視野に置く。
- ・海外などへ積極的に遠征し、世界ランキングに必要なATP・WTAポイント獲得を目指す。
- ・亞細亞大テニス部が使う重要ワード～意識改革／できるまでやる／適当や雑を一切無くす／時間を大切にする
- ・そして、卒業する！

大学

1 年

- ・1年間で40単位取りきれるように努力する。
- ・体力、技術、精神の向上を目指す。
- ・基礎体力、基礎技術の取得。
- ・大学テニス界での自分の位置を確立すること。春／夏の関東学生での予選突破や本戦での活躍。インカレでの活躍。学生ランキングを上げること。
- ・新しい生活に慣れ、部活動とともに大学生活においての自分のペースを確立すること。

大学

2 年

- ・さらに40単位を取り、3年生で124単位取り切れるように努力する。
- ・勝負の年にする。
- ・体力、技術力のさらなる向上。
- ・積極的に对外試合や国内一般トーナメントに参加する。
- ・目標を忘れず、周囲に流されないこと。

大学

3 年

- ・3年生終了時に、124単位を取り切れるように努力する。
- ・勝負の年を充実させていく。
- ・海外遠征や国内トーナメントなどに積極的に参戦する。
- ・卒業後のことを見据えて、思いきりチャレンジする。
- ・卒業後に向けて進路を決定していく。部活動をきちんとこなしながら就職活動を行なう。

大学

4 年

- ・4年間の集大成として、思いきり勝負する(そうなるように1～3年生をコツコツと精一杯努力しておくことが重要)。
- ・積極的に海外遠征でチャレンジする。
- ・教職科目を履修している学生は、母校にて教育実習を行なう。
- ・卒業後の準備をする(プロ、実業団、指導者、教員、一般社会人など、それぞれの道へ)。

Aプロジェクト

亞細亞テニス部員が4年間かけて達成することを
“Aプロジェクト”と呼ぶ

・JTA(全日本ランキング)100位以内を目指す。(男子1720位～1位／女子939位～1位)そして、全日本選手権への出場、活躍を目標に努力する。

・年間52週のうち3分の1の休みをうまく活用してオープン大会へ積極的に参加、ランキングを上げる。

・テニスの戦略&戦術を学び、必要な技術に磨きをかけていく。

・基礎体力の向上を目標に計画性をもち、目標達成の原動力にする。

1年間の流れ

授業+練習(火-金◎16:00-20:30、土日◎9:00-18:00) +試合

練習(火-日◎9:00-18:00)
+試合

4月

5月

6月

7月

8月

9月

授業・テスト



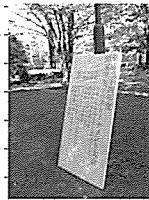
前期授業(15週間)

テスト

休暇

学生大会

春の関東学生
(予選・本選)



夏の関東学生 インカレ

関東リーグ

テニス

女子サーフィット
\$25K+\$50K(4大会)

男子フューチャーズ
F5~F7(3大会)

女子サーフィット
\$10K(3大会)

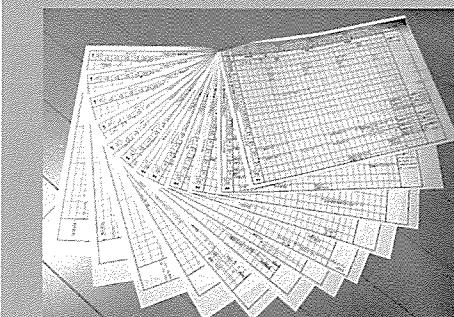
一般・
国際大会

年間スケジュール

・「国際大会チャリティークリニック」を年間20回を目標に開催

(※写真⑪)チャリティークリニックの風景

・毎年3月後半に男女国際大会を主催。男子F1フューチャーズ(\$1万) / 女子サーフィット(\$1万)



12ヶ月のスケジュール。学事、
学生大会、国際大会、ITATーナメントを記載。

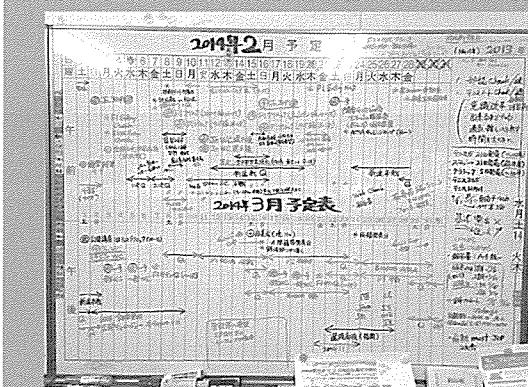


月間スケジュール

・対抗戦やトーナメントスケジュールの確認

・クリニックや行事の確認

・試合、練習計画作成



12ヶ月のスケジュール。学事、学生大会、
国際大会、シードトーナメントを記載。



週間スケジュール

- 基本的に毎週月曜日がOFF
- 外部スクールへアシスタントコーチ派遣 / ①昭和の森TS、②武蔵野ドームTC
- 毎週水曜日(授業期間中)は、武蔵野キャンパスにてお昼にミーティング
- 土日には、その週の反省と次週の確認を含めミーティング

日常のオンコートスタッフ陣

- 堀内昌一監督 / 森稔詞コーチ(週6日)
- 岡本聖子プロ(週4日)
- 宮崎靖雄プロ(週2日)
- 赤堀奈緒プロ(週1日)
- 佐藤武文プロ(週3日)

1日スケジュール

授業有り (練習時間 / 火-金◎16:00-20:30、土日◎9:00-18:00)

- 基本的に1限が9:00からスタート。テニス部員はできるだけ3限までに授業を登録受講し、練習時間の確保に努める。
- 10面のテニスコートを使用する。
- オンコート練習(ナイター設備があり、20:30まで練習可能)。
- 3時間の練習と1.5時間のトレーニング。男子10km、女子8kmのランニング。
- 400mトラックを使いインターバルやランニング、フトワークトレーニングなど。
- トレーニングジムにてウェイトトレーニング。コートではフトワークドリルやプライオメトリクストレーニングなどを行なう。
- 雨の場合は、昭和の森TSインドアコートへ移動して、練習する場合もある。

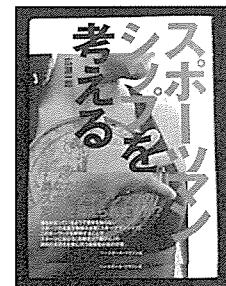
契約トレーナーとともにフトワークトレーニングを行なう



我々は本物のテニスを追求する。

- ・スポーツmanshipの獲得(グッドルーザー～潔く負けを認められる人になるためには…)
 - ・メンタルトレーニング受講(月1回、部員は高妻容一先生の講義を受講)。メンタルのスキルアップを実戦している。
 - ・礼儀やモラルを大切にする(テニス部というチームで、仲間との協調性を磨き、団体行動において必要とされるモノを取得する)。
 - ・PDCA(plan / do / check / action)の徹底。
 - ・復習の徹底(試合報告書の作成や本を読み、座学を受けた際の感想文作成など)
 - ・個々が毎日精一杯努力し、人間的成長を目指す。

の追求



元キリスト『スポーツマンシップを教える』

技術が間違っているなら、今までを捨てて、正しい技術にこだわる。数ヵ月、数年かけて、できるまでやる

の追求

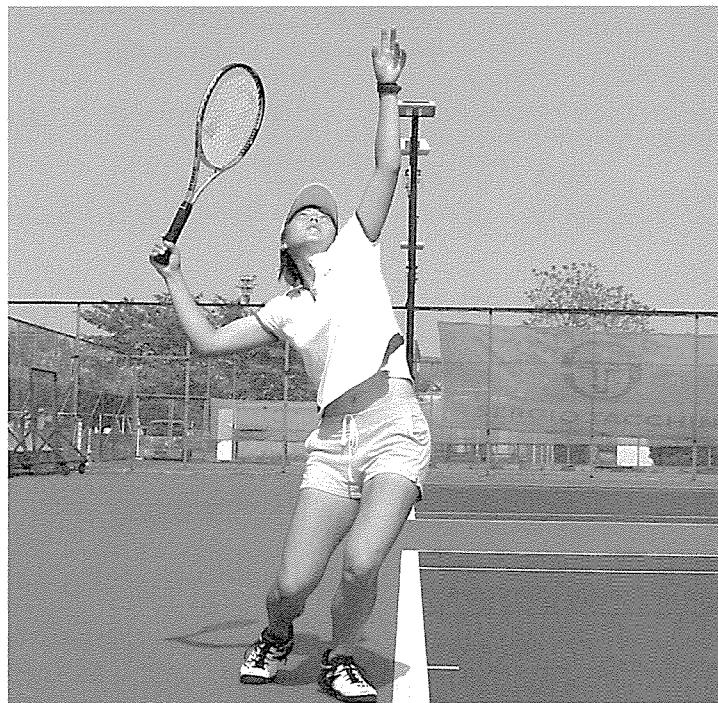
なぜ必要なのか?

テニスは対戦競技であり、ネットを挟んで相手と対峙し、1ポイントを奪い合うスポーツ。1ポイントを奪い合い、1ポイントの積み重ねが1ゲームになり、1ゲームの積み重ねが1セットになり、1セットの積み重ねが1試合になる。

そのようなゲーム特性を踏まえると対戦するふたりは、テニスコートの中で、「間」=時間をうまく使い、「場」=スペースを確保し、あるいは埋めることを考えて、実行に移す。テニスはお互いが「時間」と「場所」を奪い合うスポーツである。その手段として必要になるのが「技」。

現在の競技力は劇的に進歩しており、スピードもスピンドルカバーも戦術も、より速く、より重く、より変化に富み、より高度に、より巧みになっている。スピードがある——すなはち時間がない——限られた時間の中で、プレーヤーの選択は、<いかに時間を有効に使うか>という、<戦術に基づいた技術>に進化している。

それは、<いかに無駄な時間をなくすか>ということにつながり、さらに、より機能的な運動に近づくという<再現性の高い運動>をすることもある。それが、いま我々が目指している「技」である!



腕をスムーズに振るための練習として、キャッチボールは基本



・専属トレーナーによる年間50日間のトレーニング指導。

・毎日のランニング(男子10km／女子8km)

・火曜日-金曜日(平日)は3時間のオンコート練習と1時間30分のトレーニングで、徹底的に「技」と「体」を追求する。

・テニスコート(ナイター完備)、陸上トラック、トレーニングジムともに9:00-20:30まで利用できる。

・トレーニング1時間30分の内容は、韓国式(体幹)トレーニング、ジムトレーニング、オンコートフットワークドリル、メディシンボールでのプライオメトリックトレーニングなど。

・土・日・休日は6時間のオンコート練習となる。

……なぜ6時間もオンコート練習か……シングルス3セットマッチを2試合、ダブルス3セットマッチを1試合という、現行ルールでの最大ゲーム数を問題なくプレーするための準備。それに耐えられるだけの身体をつくることを目標にしている。常に「将来」に目を向けてトレーニングする。

目的意識を常に持ってランニング



の追求

すべてに共通、練習はできるまでやる！

どんなことが必要？

「再現性の高い運動」

「戦術に基づいた技術」

「時間をつくる」

・時間をつくるとミスが減る。時間をつくると相手を「観る」「探る」「読む」ことができる。時間をつくると場所が確保できる。

・我々は、時間をつくるために必要な技術、「戦術的技術」も追求していく。

・ただボールを打つだけでなく、技術の効果をどう上げるかを考えながら、技術習得を目指す。

・必ずその技術を習得するために、時間で区切った練習はせずに、できるまでやる～達成型の練習を行なう。

・対人練習はもちろんのこと、選手同士のコーチング練習、高校生やジュニア、一般プレイヤーを対象としたクリニックでの指導も、さまざまな角度から「技」を磨くためのものである。

もっとも追求している 技術のひとつが「サービス」

試合の中で使う全ショットのうち、3分の1を占めるのがサービスである。ということは、3時間の練習であれば、1時間はサービス練習に費やす必要があると考える。サービスは、テニスの中で唯一のクロースドスキル(相手の影響を受けずに打てるショット)であり、自分自身でコントロールできるショット。サービスを追求することは、テニスの質を高める上で絶対に外せない。だからどんなに時間がかかるとも、亞細亞では徹底的に追求し、改善し、習得を目指す。

基本的にストロークにおいては、ボール調整(9種類と考えている)を行ない、練習に取り組む。各コートにはゴムで高さを設定し、目指すボールの種類をもって、この高さをクリアするまで練習は終わらない



戦術の研究 情報・理論の収集・勉強

コーチングスタッフは、ユニバーシアード元日本代表選手、全日本チャンピオン、インカレチャンピオン、グランドスラム出場経験者など。その経験を生かし、年間の練習プラン、メニュー作成から、実戦練習、戦術、ゲーム研究までを学生といっしょに行なう。

・堀内監督によるテニス講義「戦略と戦術」について、それに必要な「9つのボール調整」「ナチュラルスピンドル」などが考え方のベースとなる。

・部室には、テニス、トレーニングに関する1000冊を超える書籍やテニス関連の映像教材が設置されていて、自由に利用できる。

・毎年1月に行なわれるオーストラリアンオープン観戦の遠征や、国内主要大会観戦(デ杯・フェド杯・ジャパンオープン・東レPPO・全日本)に、積極的に出掛けて、理論を勉強する。情報収集の重要性。

・主催する男女国際大会でのゲーム分析(サービス、リターンの確率／エース・ミスの調査比較など)。出場学生のほか、参加選手のデータ収集も可能となり、非常に有効な情報収集、研究の場となる。

・自身の練習や試合を撮影し、部室のテレビなどを使ってチェック、改善に役立てる。

・主要大会のゲーム映像を部室の大型テレビで研究。

・関東大学テニスリーグなどのゲーム分析。

・時間や空間、場所取りなどテニスにおける戦術をゲーム分析含め映像やデータなどから読み取り、実践に役立つように処理し修得する。



いつでも自由に観たり、読んだり、勉強することができる



部室のテレビで観戦し、ディスカッション

試合後のミーティングが特に重要

トーナメントを終えたあとは、コーチングスタッフとミーティングを行なう。反省をもとに改善点を洗い直し、その反省を生かし、次のプランを作成し実践していく。

卒業生のプロたちも学生を強力サポート

卒業生で選手活動をしている比嘉明人プロ、宮崎優美プロ、佐藤博康プロ、井上貴博プロ、北崎悦子プロ、荒木史織プロ、長谷川梨紗プロ、木下ミサプロ、矢野洋プロなどが、大会の合間に練習に参加し、学生を引っ張っている。心・技・体を学生とともに鍛え、磨き上げていくことができるのも、いまの亞細亞の大きな特徴。卒業生プロたちは、卒業後も大学をホームコートとして活用している。

写真◎●●●●

今

から26年前、亜細亜大学テニス部は大々的な強化をスタートさせました。その舵取りをしたのが、私の恩師のひとりである亜細亜大学元学長、衛藤瀧吉先生（故人）です。先生は「テニスは、ラケット1本で世界中どこでもプレーすることができ、半日でいろいろな国の人とも親交を深めることのできる素晴らしいスポーツ」とおっしゃっていました。

私はいま、そのテニスを通して、志ある学生たちと日の出のテニスコートで汗を流しています。

関東大学テニスリーグ男子7部／女子5部からスタートし、大学王座優勝まで上り詰め、数々の全日本優勝者やグランドスラムでプレーする選手を輩出してきた亜細亜には、現在、ATP・WTAポイントを取得してグランドスラム出場を夢みる学生や、全日本、インカレ、関東学生に出場し、優勝することを目標に日々練習に励んでいる学生、ケガからの復帰を目標にリハビリしている学生などがあります。

そんな学生たちがいる現場では、目標を達成した学生が、新たな目標に向かいいっそう努力する瞬間、目標に届かずあきらめかけ、もがいている瞬間、再度挑戦している瞬間、目標を失い、迷っている瞬間など、それぞれの一喜一憂を目にします。その中で私の役目は、個々の「夢」を思い起こさせ、目の前で起きていることに左右されず、軸をもち、軸をぶらさず、目の前の小さなことからクリアしていくようアドバイスし、導くことです。



大学4年間は、大人になっていく過程でもっとも重要な時期です。一見「楽しそう」に思えることが多々出てきて、気持ちがぶれることがあります。でも長い人生、いくらでも時間はあります。いましか打ち込めないものを見定め、自ら何をすべきか優先順位をつけて自分を磨いてほしいと思います。

テニスを長くやっているとうまくいかないことだけで、あきらめそうになる瞬間もあります。しかし、小さい頃から好きで続けてきた「夢」を簡単にあきらめてはいけません。亜細亜で「夢」を必死に追い続けてみませんか。

私たち、亜細亜大学テニス部の目指す「夢」とは、テニスを通じて人間力を高めることにあります。大学王座やインカレを獲ることに収まらず、全日本選手権優勝やユニバーシアード、グランドスラムへの挑戦——同時に、社会に出ても大きな力となるスポーツマンシップを修得することです。

「夢」の実現には、まず自分を信じて努力し、学生生活で仲間をつくり、学業で知識を深め、部活動を通して思いやりをもてるように、そして人に感謝できるように、人のためになれるように人間力を磨くことです。

現在、それらを経験してきたコーチングスタッフ、堀内監督をはじめ、卒業生たち——グランドスラム出場経験を持つ岡本聖子、インカレ・チャンピオンの赤堀奈緒、インカレインドア・チャンピオンの宮崎靖雄、そして私——全員学生のオリンピックであるユニバーシアード日本代表経験者が、日々コートに立ち、学生たちを指導しています。

現在の亜細亜大学テニス部のリーグ戦、個人戦の結果を振り返ると、課題は多く、私はもう一度初心に戻って、取り組まなければならないと思っています。自分の学生時代を思い出し、学生たちとコートに立ってボールを打ち合い、うれしいときはともに喜び、つらいときはともに歯を食い縛り、同じ夢を追いかけようと思います。「夢を変えずに自分を変えよう！」——私の好きな言葉です。いっしょに夢を叶えませんか。

**夢を簡単にあきらめないで。
「夢」を変えずに
「自分」を変えましょう！
亜細亜で「夢」を必死に
追い続けてみませんか。**

森 稔詞

（亜細亜大学テニス部コーチ）

| 挨 | 捶 |

学長 池島政広

(亜細亜大学・亜細亜大学短期大学部)

**無限の可能性を
秘めている
高校生の皆さん、
亜細亜大学で
テニス界に新風を
巻き起こしましよう。**

有意義な学生生活を送るため、また豊かな人間性を育むために、課外活動は大学教育の重要な要素のひとつです。学生時代の私は、応援指導部の一員である楽器奏者として、六大学野球の応援のため、神宮球場でトランペットを吹いていました。厳しい練習や縦社会の人間関係、炎天下での応援など、辛いこともありました。今ではいい思い出ですし、この時のあらゆる経験が、自分を成長させてくれたと実感しています。

学生団体の中でも、とりわけ体育会の学生は就職活動で有利だと言われてきました。クラブという組織の中で、チームワークや先輩後輩の上下関係のあり方などを学んできた点が評価されてきたのでしょうか。国際的に活躍できるグ

ローバル人材のニーズが高まっている今日では、精神的にも肉体的にもタフでストレス耐性ができる、語学力を超えた真のコミュニケーション能力が高いという点も魅力となり、経済の浮き沈みによる採用環境の変化がありながらも、優秀な体育会学生に対する一定のニーズが保たれているようです。

本学テニス部では、自分をしっかりと確立した上で、周囲や他と協力していく「自助協力」の建学精神に基づき、学生個々の個性と人間性を重視した選手育成が行われています。優秀な監督、コーチ、スタッフ陣の指導の下、全国レベルの輝かしい戦績を収め、本学の名聲を高め



ると共に、国際大会の開催をとおして、学生テニス界の発展にも寄与してきました。これからも、世界を視野に入れた一流のアスリート育成を目指とし、チーム一丸となって果敢に挑戦を続けてくれるものと信じています。

亜細亜大学は、無限な可能性を秘めている高校生諸君の若い力に期待しています。本学テニス部の新たな歴史を一緒に築き、大学テニス界に新風を巻き起こす意欲と気概のある選手を大いに歓迎します。

部長 宇田川 裕

(学術情報部長)



社会に有為な人材の輩出、
社会貢献に取り組み、
“世界に開かれた
テニスチーム”を目指します。

亜細亜大学テニス部は、50年を超える歴史と伝統、輝かしい戦績や、多方面で活躍される卒業生の存在だけではなく、他には実現できない画期的な練習プログラムや教育システムをもって運営され、常に前進し続けています。

テニスプレーヤーの誰もが、満足できる成果を上げたいと思っています。ただ、練習によって技術を磨き、単に大会に出場するだけでは、その目的は達成できません。プレーするのは人間ですから、全般を鍛えていくことが必要なのです。また、今般の激変する社会環境にあって、大学卒業後に社会人として逞しく生き抜くには、スポーツの技術や理論を通して、思考力、実践力を身につけ、友人との協働とさまざまな社会体験によりコミュニケーション能力を養って、人間力を高めることが重要となります。

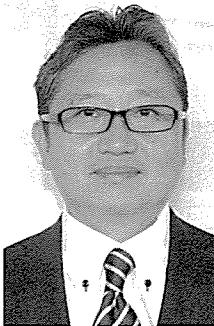
これを実践するために、私たちはさまざまな実践プログラムを用意しています。まさに、心・技・体を鍛え上げる、人間力の高いバランスのとれた学生育成を行なうのです。

そして、海外遠征や国際テニス大会の運営によって、国際感覚をも磨いてゆくのです。

私たちは、社会に有為な人材の輩出やテニス競技普及等の社会貢献に取り組み、皆さんとともに“世界に開かれたテニスチーム”となることを目指していきたいと思います。

部長 金子国彦

(学生生活課課長)



明るく、爽やかで、個性豊かな
バランスのとれた人間に
成長してほしい。
国際社会に貢献できる
人材育成が目標です。

亜細亜大学テニス部は、スポーツ新興の一環として大学の強化クラブに指定されており、大学テニス界においてトップクラスの戦績を挙げています。これも堀内昌一監督、森稔詞コーチ等の熱心な指導による、部員ひとりひとりの日頃の努力と、チームとしてのまとまりがこのような良い結果につながったと思います。

本学は、単にテニスが強い大学を目指してはおりません。部員ひとりひとりが社会で活躍できるよう育成すべく、大学生活においてもていねいな指導を心がけております。特に授業のサポート体制は他大学にないものであります。同時に生活指導も行い人格形成においても、明るく、爽やかで個性豊かでバランスのとれた人間に成長していくことを目標としています。

また、大学という教育機関が、世界レベルへの登竜門となる国際テニス大会を主催することにより、本学の使命でありアジア地域を中心とした国際化の取り組みを実践する場となり、国際社会で貢献できる有為な人材の育成を図っております。

人柄がよく、やる気のある者、自分の可能性を信じぜひとも、亜細亜大学のテニス部にチャレンジしてください。クラブ一同、歓迎いたします。

衛藤藩吉先生を偲んで

この出会いではすべては始まった

文◎堀内昌一

「亜細亜大学学長の衛藤です。帰国したら大学で会おう!」——昭和62年7月、私がジュニア日本代表チームのコーチとしてロンドン（ワインブルドン）に遠征していたときにいただいた電話です。

帰国して学長室を訪ねると、衛藤先生はランニングシャツに下駄履きといふ出で立ちで私を迎え、大学改革についての思いをぶつけてきました。そこで私も、生意氣にも自分の思いをぶつけました。日本テニス界は18歳以上の強化が課題であること、大学での指導の必要性、そして世界挑戦——当時の私は26歳です。

衛藤先生は、私の話をにこにこしながら聴いてください、こう言いました。「テニスはどこへ行っても誰とでも友達になれるスポーツ」「誠実な人柄のテニス選手は、どんな仕事をもひとりでやり抜くことができるよ」と。衛藤先生はテニスが大好きで、自ら体験されて、それを知っていたからこそその言葉でした。

スポーツを強化する目的が、宣伝や経済効果を考へての手段となることが少なくない世の中で、衛藤先生の純粋な考え方には惹かれ、亜細亜大学を選ぶのにもう時間はいりませんでした。あれから25年が経ち、あのときがなかつたら……いまの私もテニス部もありません。だから衛藤先生、心からありがとうございます。どうぞがいります。いつも見守っていてください。

「亜細亜大学学長の衛藤です。帰国したら大学で会おう!」——昭和62年7月、私がジュニア日本代表チームのコーチとしてロンドン（ワインブルドン）に遠征していたときにいたいた電話です。

帰国して学長室を訪ねると、衛藤先生はランニングシャツに下駄履きといふ出で立ちで私を迎え、大学改革についての思いをぶつけてきました。そこで私も、生意氣にも自分の思いをぶつけました。日本テニス界は18歳以上の強化が課題であること、大学での指導の必要性、そして世界挑戦——当時の私は26歳です。

衛藤先生は、私の話をにこにこしながら聴いてください、こう言いました。「テニスはどこへ行っても誰とでも友達になれるスポーツ」「誠実な人柄のテニス選手は、どんな仕事をもひとりでやり抜くことができるよ」と。衛藤先生はテニスが大好きで、自ら体験されて、それを知っていたからこそその言葉でした。

スポーツを強化する目的が、宣伝や経済効果を考へての手段となることが少なくない世の中で、衛藤先生の純粋な考え方には惹かれ、亜細亜大学を選ぶのにもう時間はいりませんでした。あれから25年が経ち、あのときがなかつたら……いまの私もテニス部もありません。だから衛藤先生、心からありがとうございます。どうぞがいります。いつも見守っていてください。

亜細亜大学テニス部 指導スタッフ紹介

ディレクター兼テクニカルコーチ

教え子のコーチ陣に囲まれて、指導体制はとても充実しています。その指導に甘えることなく、自己立した学生、選手、部活を目指しています。



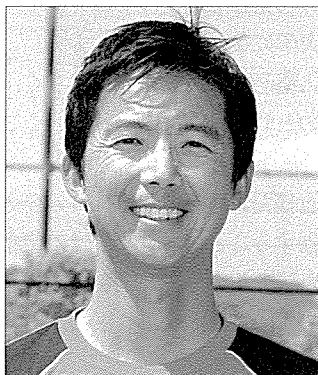
堀内昌一監督

(亜細亜大学教授／テニス部監督)

全体を統括し、学生がテニスに集中して競技力を向上できる環境を整えている。これまで育ててきたOB、OG複数名をコーチとして迎え、指導者が常駐するほか、遠征に帯同できる準備もある。そのほか、トレーニングコーチ、メンタルコーチ、メディカルスタッフも揃え、あらゆる角度から学生をサポートする。

ほりうち・しういち◎1960年に東京都世田谷区に生まれる。1972年に中央大学付属高校に入学。戦績はIHF予選ベスト64だった。日本体育大学に入学し2年生のときアメリカのニック・ボロテリーに留学。その後New Mexico Military Institute大学に留学。1982年には全米短期大学テニス選手権でベスト8に入った。帰国直後のインカレでベスト8に入り、翌年の関東学生では優勝。その後、ユニバーシアードに選ばれた。日本体育大学大学院修了後、1987年に亜細亜大学の衛藤瀧吉学長と出会い、テニス部の監督を引き受ける。しかしそのときの亜細亜大学は男子7部女子5部、共に最下位であった。1988年、監督の指導力に惹かれ、前年のIHFチャンピオンの岡田岳二さんや山崎史子さんをはじめ、高田充さんらの高校トーナメントの選手が亜細亜に入学し亜細亜大学の快進撃が始まった。ATP S 571位/D 713位 JOP S 17位/D 13位

テクニカルコーチ

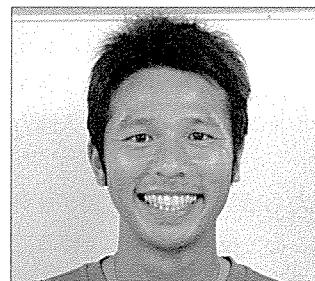


森 稔詞

(亜細亜大学学生生活課所属)

26年前の第一期生が母校に戻り、学生に“テニスの精神”を叩き込む全力指導をしている。週6日男女部員を指導。

もり・としづぐ◎1969年12月22日大阪府で、父(故)頼郎と母孝子の間に生まれ、弟大明の2人兄弟。父の仕事の都合で東京へ上京。小学校在学中、地元の多摩ローンテニスクラブで毎日壁打ち・週末は野球。中学校在学中、平日は多摩ローン、週末は朝日生命テニス教室(スクール)へ通う。のち、大阪にある名門清風高校へ進学。3年次インターハイでは団体・単・複すべて準優勝。全日本ジュニア18歳以下複優勝。その後、亜細亜大学へ進学し3・4年次インカレ準2連覇。90年ユニバーシアード日本代表(イギリス)複ベスト8。卒業後プロ転向プリンスホテルと契約。92年全日本テニス選手権複優勝。94年全日本室内選手権単優勝。97年引退。現在、亜細亜大学堀内監督の下、後進の指導にあたる。07年ユニバーシアード日本代表監督。日本ランキング単6位・複4位・ATPランク単579位・複473位が最高。大学1年生から8年間ナショナルチームメンバー。



宮崎 靖雄

現役プロでありながら、大学院で研究活動。週2日男子部員を指導している。アカデミックな思想を持ち合わせ、学生との打ち合いで与えるは大きい。

みやざき・やすお◎1981年8月29日熊本県出身。小学4年からテニスを始め、中学3年初めて全国大会に出場(全国中学生テニス選手権)。熊本マリスト学園高校に入学。高校2年次、全国選抜室内ジュニア選手権優勝。3年次ウィンブルドンジュニア出場、全日本ジュニア複優勝。亜細亜大学に入学。全日本学生室内テニス選手権単優勝、複優勝。03、05年ユニバーシアード(トルコ)複ベスト8。日本ランキング単17位、複16位／世界ランキング単790位、複829位。現在は大学院に通いながらコーチをしている。



佐藤 武文

今年度新しくコーチとなった。大學時代に大きな成長をし、結果を出しているということもあり学生に大きな影響を与えている。

さとう・たけふみ◎1971年東京都港区生まれ。高校では関東ジュニアすら出場なしという目立った戦績を残していくなかたが、亜細亜大学にて1年生春闇で関東学生、2年でインカレ出場、3・4年次に夏闇複優勝、全日本選手権複出場と多大な戦績を残す。卒業後も関西オープンダブルスで何度も優勝している。1999年テニスコーチとなる。小畑沙織、吉田友佳のツアーコーチとして世界を転戦するようになる。森上亜希子のツアーコーチだったときウィンブルドンのセンターcourtで試合を行うまで育てあげた。現在はCS放送GAORAでのWTA、ATPツアーのテレビ解説をしながら亜細亜大学の学生のコーチをしている。



赤堀 奈緒

週1日女子部員を指導。5部だった亜細亜を1部の常連にした立役者は、そのハングリー精神と職人気質な身体の使い方を指導してくれる。

あかぼり・なお◎1971年生まれ。1987年東海大学付属相模高等学校入学し2年次に全日本選手権ベスト8に入る。1990年亜細亜大学に入学し2年次にアジア学生テニス選手権(台湾)S優勝。全日本学生選手権Sベスト4、D優勝。全日本学生室内選手権S、D優勝。群馬オーブンS、D優勝。3年次には関東学生選手権S優勝。全日本学生選手権S優勝、D準優勝。全日本選手権Sベスト16、Dベスト4になる。最高学年のときは、ユニバーシアードD準優勝。1994年大東銀行入行。1995年テニスプロ転向。1997年に全日本選手権Sベスト16、D優勝。1998年腰椎椎間板ヘルニアで引退。1999年～現在 民間クラブのテニスコーチ。2001～2004年東京医療専門学校(鍼灸)。2004年～亜細亜大学コーチをしながら鍼灸マッサージの仕事をする。2011年～現在、祖師ヶ谷大蔵で治療院を開業中。



岡本聖子

週4日女子部員を指導。“プロに負けない学生プロ”を体現した張本人が、母校に戻って来た。明るい笑顔の指導で部活が楽しくなっている。

おかもと・せいこ◎1978年に大阪府豊中市に生まれる。小学校高学年でテニスを始め、中学、高校とテニスの名門校である夙川学院に進学。インターハイ団体3位、単ペースト8、複ペースト4の成績を残す。その後、亞細亞大学堀内監督の「プロに負けない学生」という言葉に惹かれ、亞細亞大学へ進学。卒業後、プロ転向し、グランドスラムの全豪ダブルス2年連続出場、シングルス予選すべてに出場する。全日本タイトル8、WTAツアータイトル1、ITFサーキット決勝進出最多記録を持つ。2年前に現役を引退し、これまでの経験を元に、後輩の指導、プロ選手のサポート、テニスウェアの開発を行っている。



北崎悦子

週1女子部員を指導。大学卒業後にプロ転向し、現在は大学院で研究活動をしている。テニスの指導だけでなく学生の悩みにも親身になって考えてくれる。

きたざき・えつこ◎1982年10月14日生まれ、東京都出身。東海大浦安高校卒。00年全日本ジュニア18歳以下単ペースト8。01年亞細亞大学入学。01年夏闇・単優勝、インカレ単ペースト4、インカレンドア単準優勝。03年インカレンドア複優勝。卒業後にはプロ転向し、07広島国際女子オープン単優勝。09年東レPPO予選出場。自己最高位はWTA単516位12年現役引退。現在、女子部員の指導と筑波大学大学院でコーチング原論・トレーニング学領域を勉強中。

トレーニング担当



青木祐子

月に数回トレーニング全般を指導。試合時にはチームに帯同して、コンディショニングからマッサージまでを行う。

あおき・ゆうこ◎1971年神奈川県鎌倉市生まれ。東京学芸大学人間科学課程にてバイオメカニクストレーニング理論・運動処方等を学ぶ卒業後日産スポーツプラザ株式会社に入社。インストラクターとして勤務資格取得のため退社し帝京医学技術専門学校に入学。柔道整復師の資格を取得。社会人アメリカンフットボールチームのトレーナーや高校バスケットボール部のトレーナーとして活動し2007年から亞細亞大学テニス部にトレーナーとして参加。

メンタル担当

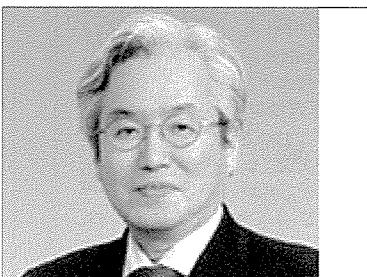


高妻容一

月に1回、メンタルトレーニングを指導。学生自らがトレーニングできるように、スチュードントトレーニングという役割を作り、トレーニングが継続できるように努力している。

こうづま・よしげいち◎1955年、宮崎県生まれ。福岡大学(体育学部体育学科)卒。中京大学大学院(体育学研究科体育心理学)修了後、フロリダ州立大学へ留学(スポーツ心理学など)、博士課程中退。1993年、州立フロリダ大学へ1年間の研究留学。近畿大学教養部助教授を経て、現在、東海大学体育学部教授。1985~2001年、日本オリンピック委員会のメンタルマネジメント研究班員。1994年からメンタルトレーニング・応用スポーツ心理学研究会をスタート。所属学会は「国際メンタルトレーニング学会」など10を数える。

コンディショニング担当



平石貴久

亞細亞大学テニス部の心強いチームドクター。血液検査を定期的に行なうなどして、身体に関する基礎知識を指導する勉強会を行うなどして、学生の体調を管理している。

ひらいし・たかひさ◎1950年鹿児島県生まれ。東京慈恵会医科大学卒業。専門は内科、循環器科、スポーツ医学、放射線診断、東洋医学。鍼灸あん摩マッサージ指圧師。介護予防運動指導員。日本体育協会公認アスレティックトレーナー。駒澤大学卒業後、小守スポーツマッサージで修業し、1977年からフジタ工業サッカーチームのトレーナーに就任。'81年に独立し、日本トレーナー協会所属、三宅スポーツマッサージを設立。医療法人社団貴生会理事長。東京ミッドタウンメディカルセンター平石貴久特別外來ドクター。

学内スタッフ



宇田川 裕 (学術情報部部長)

亞細亞大学テニス部OBで、男子部部長である。現在は亞細亞大学職員として、学校の仕事もしながらテニス部の運営や就職の手伝いをしている。亞細亞大学国際大会事務局長。



金子国彦 (学生生活課課長)

亞細亞大学テニス部OBで女子部部長である。現在は亞細亞大学職員として年度始めに履修カリキュラムのミーティングをしたり、部活との兼ね合いで履修ができない授業がある学生の、時間割変更などのサポートをしている。

部員名簿

①学部②出身高校③生年月日④テニス歴⑤身長⑥好きな選手⑦趣味
⑧主な戦績⑨目標⑩高校生にひと言⑪自己PR

男子
硬式庭球部

野田雄希

(主将)4年

①国際関係学部②高松北高③1991.9.13④11年⑤170cm⑥マイケル・チャン⑦読書⑧'13春関2次予選単複F⑨王座優勝⑩自分の道は自分で切り拓こう⑪最後の年を一選手として、そしてチームとして最高の形に導けるように奮闘しています。主将としての覚悟を胸に、秘められた力を全て解放します。



江本壮之介

4年

①法学部②浦和学院高③1991.6.4④11年⑤166cm⑥笹井正樹⑦買い物⑧'12春関2次予選F⑨関東学生出場⑩寝る子は育つ⑪亜細亞大学では、他の大学では経験できないことや素晴らしい環境が揃っています。私も約三年間、通い続けて「かけがえのない想い出」だけです。皆さんも是非亜細亞へ!



神戸優平

4年

①経済学部②ウイザス高③1991.5.12④9年⑤180cm⑥ナダル⑦ダーツ、卓球⑧'12春関1次予選F⑨関東学生出場⑩やるべきはやりましょう!⑪あっという間に2年半が経ちました。辛い時も多くありましたが、精神力は少し上がったと思います。残りの学生生活で、将来につながるような行動をしていきたいと思います。



山口福太郎

4年

①国際関係学部②日生学園第一高③1991.7.12④9年⑤164cm⑥ハエス⑦図書館通い⑧'12新進2次予選単SF⑨王座優勝⑩やればできる!⑪亜細亞に来てはや4年目、残された時間は少ないですが、4年生としての自覚を持ち、後輩を引っ張っていけるよう頑張っています。チームとしての目標は王座優勝ですので、少しでも力になれるよう努力したいと思います。



高山和也

3年

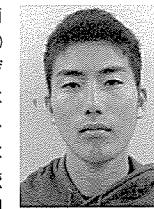
①経済学部②湘南工科大付属高③1992.6.7④11年⑤170cm⑥山室智明⑦料理⑧'12春関D出場⑨王座出場!⑩思ったことは行動!⑪今年の夏は勝負だと思います。1日1日を悔いの残らないようにいまできることを全力でやりたいと思います。体のことを考えて毎日、自炊を目指します。



白井卓也

3年

①法学部②東京学館浦安高③1992.11.26④12年⑤172cm⑥フェデラー⑦野球⑧インカレ本戦出場、'13新進単ベスト8⑨インカレ優勝、全日本選手権優勝⑩世界に立ちたい人は是非亜細亞へ⑪自分はテニスに関して人一倍努力することができます。ですが、満足する結果はこの2年間出すことができませんでした。これからは結果も求め、日々全力で取り組みたいと思います。



小堺遠馬

3年

①法学部②秀明英光高③1992.4.25④11年⑤176cm⑥江原弘泰⑦トランプ⑧単インカレ予選出場⑨インカレ出場⑩一期一会を大切に⑪3年生になり、授業にも余裕が出てきたため、一般的の大会に出場しています。その中で、日々多くのことを学ぶことができています。今年とりーグとインカレでは納得のいく結果を残せるように毎日を有意義にすごします。



鎌代 悟

3年

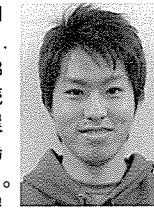
①法学部②松が谷高③1992.11.5④10年⑤170cm⑥錦織圭⑦読書⑧'12春関2次予選F⑨インカレ出場⑩色々な事にトライ!⑪大学に入つて3年目になりました。上級生になったので、自分のことだけでなくチームのためや下級生のために役立つように頑張ります。



佐藤俊介

3年

①国際関係学部②四日市工業高③1992.12.15④12年⑤178cm⑥ジョコビッチ⑦読書⑧'11春関2次予選単SF⑨関東学生出場⑩亜細亞で変わろう。⑪社会科の教職課程を履修しています。部活と教職の両立は大変ですが、毎日全力で取り組み、自分自身を磨きたいと思います。テニスでは4年次に関東学生になれるよう、今から意識を変えていきます。



森下亮太朗

3年

①法学部②佐野日大高③1991.3.7④9年⑤176cm⑥ツォンガ⑦スキー⑧⑨インカレ出場⑩亜細亞に来て世界を感じろ!⑪亜細亞大学は、他の部活ではできない貴重な経験をさせてもらいます。この3年間でテニスだけでなく、精神的にも肉体的にも大きく成長できました。自分次第で世界も狙えます!



谷戸孝雄

3年

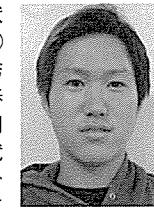
①法学部②桜町高③1993.1.8④6年⑤176cm⑥ジョコビッチ⑦写真⑧'12新進1次予選単F⑨インカレ出場⑩結果だけが全てじゃない。頑張ることに意味がある。⑪どんなボールも返球し、カウンターで一発逆転!そんなテニスを目指しています。毎日毎日追い込んで少しでも夢に近付けるように頑張ります。



越田晃司

3年

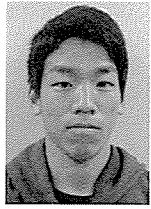
①経済学部②金沢伏見高③1992.11.15④8年⑤168cm⑥松井秀喜⑦サーフィン⑧'11春関2次予選単SF⑨全日本選手権出場⑩文武両道で頑張ろう!⑪自分は明るく元気をモットーに日々の練習を楽しく取り組んでいます。また、協調性を大切にしており、チームメイトや学校の友達などたくさんいます。テニス面では攻めるプレーが好きなのでエースをたくさん狙いに行きます。



秋山和潤

2年

①国際関係学部②麗澤瑞浪高③1993.7.20④13年⑤170cm⑥ディミトロフ⑦温泉旅行⑧'12夏闇、新進単出場⑨インカレベスト8⑩人生まだまだこれからだ!⑪東京に出てきて親のありがたみがわかった今、早く結果が残せるように日々、一生懸命練習しています。今はまだ小さな芽ですがいつかは大きな花を咲かせてやります!



仲村元希

2年

①経済学部②大阪産大附高③1993.6.3④15年⑤179cm⑥ジョコビッチ⑦映画鑑賞⑧インカレ2回戦⑨インカレ優勝⑩いつやるの?今です。⑪地元の関西を離れて早一年がたち、テニスの難しさと楽しさが分かり始めた気がします。好きなことをできる今しかできない事を大切に全力で頑張ります。



田村亮

2年

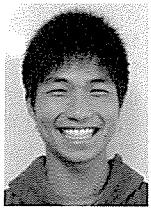
①法学部②高知中央高③1993.4.7④10年⑤176cm⑥サンプラス⑦読書⑧'13春闘単複2次SF⑨関東学生出場⑩テニスは難しいです。大学に来て、もっと学びましょう。⑪亜細亞に来て1年、日々勉強です。チームの仲間に置いていかれないよう、練習、トレーニング、ランニングと自分でパッシュします。今年はリーグで勝ちます!



宮脇駿

2年

①国際関係学部②名古屋高③1993.10.31④11年⑤167cm⑥錦織圭⑦音楽鑑賞⑧'13春闘単予選2次SF、複予選2次F⑨インカレ出場⑩テニスが大好きです!⑪走るのが速くボレーが得意です。今年はアメリカに留学するのでアメリカでパワーアップしてきます!ストイックさを武器に頑張ります。



小林浩貴

2年

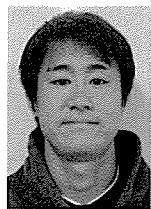
①経済学部②仙台商業高③1993.2.12④10年⑤172cm⑥ディミトロフ⑦甘いものを食べる⑧'12全日本選手権大会C予選出場⑨全日本選手権出場⑩今しかない!⑪今はまだ大きな戦跡を残せていませんが、日々ベストを尽くして頑張っています!毎日の10kmのランニングを怠らず心身共に鍛えて人間的に成長していきます!



西岡靖雄

2年

①法学部②四日市工業高③1993.10.8④10年⑤165cm⑥西岡良仁⑦競技カルタ⑧'13春闘2次予選複F⑨ケガなくプレーする。インカレ出場⑩自分のやりたいことに素直になろう。⑪私は当たり前のことを当たり前にやれるようにしています。挨拶や片付けなどマナーを率先して行うようにしています。テニスはもちろんですが、部活を通じてそいつたマナーも学びたいと思います。



豊田魁

2年

①国際関係学部②日本大学山形高③1993.10.13④14年⑤178cm⑥マンスール・バーラミ⑦ダーツ⑧'12春闘2次予選複SF⑨インカレ出場⑩裏表のない人間にならう!⑪私は、普段から真面目に練習に取り組んでいますが、まだその成果を出せないです。しかし私はこの一年間でテニスも人間的にも大きく成長することができました。まだまだ発展途上な面はありますが、成長し自分で実感できることを楽しみに頑張っています。



根岸遼

2年

①法学部②麗澤高③1994.1.16④8年⑤178cm⑥マレー⑦映画鑑賞⑧'13春闘2次予選複SF⑨関東学生出場⑩一緒に頑張りましょう!⑪一年生のときよりも充実するように毎日過ごしていきます。テニスでは関東学生を目標に、学業面ではしっかり単位を取っていくことを目標に頑張ります。



糸井彬

2年

①法学部②麗澤高③1993.7.6④7年⑤179cm⑥ゾンガ⑦サイクリング⑧'13春闘1次予選単F⑨関東学生出場⑩継続は力なり!⑪自分は高校時代に右利きのサーブから強くなるために左利きにかえました。左利きとしてプレーするのは今年で3年目になるので今年こそは結果を残せるように努力します。



井上裕貴

2年

①短期大学部②日本大学山形高③1993.8.13④8年⑤167cm⑥錦織圭⑦音楽鑑賞⑧'13春闘2次予選複SF⑨関東学生出場⑩テニスをするなら亜細亞ですよ!⑪毎日の筋トレは欠かしません。短期学部ということで、今年は編入試験を頑張りたいと思います。テニス面では関東学生を目指して日々努力していきたいと思います。



瀬間智義

2年

①経済学部②柏陵高③1993.7.31④9年⑤170cm⑥ガスケ⑦ゲーム⑧'13春闘2次予選複SF⑨関東学生出場⑩亜細亞で一緒に頑張りましょう!⑪学業、部活、仕事、全てに一生懸命取り組みたいと思います。学業では2年次フル単、部活では単複関東学生を目指し、仕事ではクリニック係として、クリニックを盛り上げていけるようにしたいと思います。



真下喜亘

2年

①経済学部②秀明八千代高③1993.9.6④13年⑤164cm⑥サントロ⑦映画鑑賞⑧'12春闘一次SF⑨関東学生出場⑩うまくいかない時こそ自分を信じて頑張ろう。⑪テニスを長くやっていると調子が良いときもあります。調子が悪いときほど自分がテニスも人間的にも一段と成長できるチャンスに変えて頑張りたいと思います。



部員名簿

①学部②出身高校③生年月日④テニス歴⑤身長⑥好きな選手⑦趣味
 ⑧主な戦績⑨目標⑩高校生にひと言⑪自己PR

松本 晃

2年

①経済学部②浜松湖東高③1993.7.13
 ④10年⑤173cm⑥内山靖嵩⑦ダイエット
 ⑧'12春関1次予選単SF⑨関東学生出場⑩一生懸命頑張れ⑪静岡県からテニスが強くなりたくて亜細亞大学に来ました。今年は勉強とテニスに真剣に取り組み、両立させるだけでなくテニスでは今まで以上に努力し、目標を達成したいと思います。



松本 亘

2年

①経営学部②浦和学院高③1993.12.18④7年⑤181cm⑥ドルゴボロフ⑦麻雀⑧'12春関1次SF⑨復帰後、新進本戦出場⑩笑って泣いて楽しんで苦しんで今を自分のものにしてください。⑪膝を怪我してしまい、今年の大会は出場することができません。ですが今は肉体強化に励んでいます。復帰後は最高の状態でコートに戻れるよう、常に精進していきます。



長船雅喜

1年

①国際関係学部②東山高校③1995.3.7④9年⑤173cm⑥遠藤豪⑦フットサル⑧スパーJr.単ベスト16全日本Jr.単ベスト4複ベスト8⑨ユニバーシアード代表⑩練習量、質はどこにも負けいません!!⑪京都の東山高校からやってきました長船です。もっと勝負強くなり、攻め切るテニスを手に入れリーグ戦でチームの勝利に貢献できるように日々努力します!



坂本龍也

1年

①国際関係学部②麗澤瑞浪高校③1994.10.21④7年⑤172cm⑥添田豪⑦料理⑧'13春関2次予選複SF⑨インカレ出場⑩大学で伸びたいなら亜細亞!⑪高校の時に培った我慢の心を武器に戦います。これからは時間を奪って相手を追い詰めるプレースタイルにチェンジしていきます!



李 国淵

1年

①経営学部②金川高校③1993.10.15④7年⑤178cm⑥ジョコビッチ⑦音楽鑑賞、カラオケ⑧チュンチョンブド単複優勝⑨グランドスラム本戦で勝つこと⑩テニスの基本を大事にしよう⑪アンニヨンハセヨ。韓国より参りました。テニスと勉強を頑張って良い成績を残せるようにしたいと思います。チャルバタウリゲッスムニダ(よろしくお願ひします。)



土居祐太

1年

①経済学部②獨協埼玉高校③1994.9.20④5年⑤185cm⑥野口直⑦料理⑧'13春関2次予選複F⑨インカレ出場⑩練習は自信に繋がる⑪硬式庭球部1年の土居祐太です。自分は最後まで諦めずにやりきるというところが長所です。これから経験を積んで勝てる選手になっていきたいです。よろしくお願ひ致します。



村田道隆

1年

①法学部②法政二高③1994.6.21④8年⑤193cm⑥ミロシュ・ラオニッチ⑦将棋、温泉⑧関東高校団体ベスト16⑨関東学生⑩とても楽しい部活です。是非一度練習に来てください。⑪背が高いです。牛乳と睡眠は欠かしません。ランニングやトレーニング、練習も欠かさずやり、今年は花咲かせます。



大塚陽平

1年

①経済学部②秀明英光高校③1994.5.27④12年⑤175cm⑥伊藤竜馬⑦読書⑧関東Jr.複出場⑨インカレベスト8⑩テニスが強くなりたいなら亜細亞へ⑪亜細亞大学に入学してから毎日が充実しています。大学4年間では、勉強とテニスを両立させて、目の前の一つ一つの物事に集中して頑張ります。



安藤嘉晃

1年

①法学部②名古屋高校③1994.7.15④7年⑤189cm⑥遠藤豪⑦読書⑧'13春関2次予選複SF⑨亜細亞フューチャーズベスト4⑩追い込むなら亜細亞!⑪サークルが未完成なので、今年中に完成させてビッグサーバーになりたいです。また、勉学との両立も目指して頑張ります。



成松智希

1年

①国際関係学部②宮崎日大高校③1994.4.18④11年⑤171cm⑥フェデラー⑦自分探し⑧全国選抜個人・団体ベスト16⑨インカレ出場⑩努力は必ず報われる⑪一撃必殺のフォアハンドを持っています。出身は熊本県で心と体は九州男児です。亜細亞大学では学業も部活も充実して楽しい毎日を過ごしています。



女子

アジアローンテニス部

山本翔子

(主将)4年

①法学部②駿台甲英高③1991.10.13④15年⑤160cm⑥宮崎優実⑦水泳⑧'12インカレ単複準優勝、インカレインドア複優勝⑨王座優勝⑩自然がいっぱいの亜細亞大学です。⑪東京にでてきて早3年が経ちました。最上級生になり今では主将を務めています。最後のリーグ戦、王座に向か、今全力で取り組んでいます。自分らしく、亜細亞らしく頑張ります。



伊波佳苗

4年

①法学部②沖縄商学
高③1992.2.5④13
年⑤167cm⑥⑦食べる
こと⑧12'インカレ
単ベスト16'複準優
勝、インカレンドア複
優勝⑨インカレ単複
制覇⑩強くなりたい人!

集まれ!⑪私は、明るい性格と笑顔です。全
ての行動を前向きに考へるので、どんな困
難にも立ち向かい、その場を盛り上げること
が出来ます。元気をモーターに頑張ります。



伊藤優花

4年

①経済学部②野田学
園高③1991.5.28
④12年⑤161cm⑥
ティープラベッヂ⑦読
書⑧山口国体ベスト
4'⑨学生タイトルをと
る。⑩一緒にテニスを
極めよう!⑪4年生にな
りました。入学当初はインカレに出場でき
ず、悔しい夏を過ごしてしまいましたが、
徐々に戦績が出来始めました。最後の年に
学生タイトル獲りにいきます。



島田雪乃

3年

①法学部②相模原
総合高③1988.2.27
④5年⑤157cm⑥
岡本聖子⑦スキー、
ピアノ⑧12'関東學
生1次予選F⑨全日
本出場⑩⑪亜細亞
にきて、素晴らしい先
輩、後輩に巡り会い、ここまで来ることが
できました。お世話になった全ての人に感
謝でいっぱいです。ありがとうございます。



宇佐川沙耶

3年

①経済学部②野田学
園高③1992.10.27
④12年⑤165cm⑥
荒木史織⑦DVD鑑
賞、ショッピング⑧12'
春闘、新進本戦出場
⑨インカレ出場⑩亜
細亞で楽しもー!⑪山

口の田舎からきたおでんばです。学年は1
人ですが、先輩、後輩、男子部員に支えて
もらって、毎日楽しく過ごしています。テニス
も勉強もてっぺん目指して頑張ります。



松本千広

3年

①経済②幕張総合
高③1993.9.8④13
年⑤156cm⑥ケル
バー⑦音楽鑑賞⑧'
13'春闘単複ベスト
16'⑨インカレ優勝、
王座優勝⑩大学に
来ればテニスのこと
がもっと分かるようになります!⑪いつも元
気で明るい性格です。左利きでフォアハ
ンドと負けず嫌いさが武器です!チームの
戦力になるように一生懸命頑張ります!



安野聰美

3年

①法学部②山村学
園高③1993.8.5④9
年⑤162cm⑥美濃
越舞⑦買い物⑧13'
新進単ベスト4'⑨イン
カレ出場⑩一緒に頑
張りましょう!⑪高校の
頃は目立った戦績は
ありませんでしたが、最近戦績がついてき
ました。能天気な性格でどんなときも笑顔を
忘れません。たくさん食べてたくさん走って、
もっともっとパワフルになり、強くなります。



八島ちひろ

2年

①法学部②日本大
学東北高③1993.
7.20④10年⑤157
cm⑥シャラポワ⑦ス
ポーツ観戦⑧13'春
闘複2R⑨インカレ出
場⑩元気に楽しくテ
ニスマシマシ!⑪運動
神経はいいと思うので、それを生かしコト
の中でボールを追いかけ、最後まで諦め
ずにプレーしていきます。



山浦はる香

2年

①国際関係学部②
山村学園高③1993.
5.15④9年⑤158
cm⑥美濃越舞⑦寝
る⑧13'春闘本戦出
場⑨インカレ出場⑩
元気と笑顔が大事!
⑪1人暮らしを始めま
した。今までとは違い、全て自分で行うよう
になるので、しっかり自立し、テニスにも繋
げていこうと思います。



山藤彩香

1年

①法学部②野田学
園高③1994.12.17
④10年⑤167cm⑥
セレナ、松本千広⑦
⑧13'春闘複2次予
選F⑨インカレ出場
⑩夢を持ち続けて!⑪
身長が高くて、食べる
ことが大好きです。大学へ入って毎日のト
レーニングやランニングで一回り大きくな
った体から繰り出すフォアハンドが持ち味
です。



辻本有佳里

1年

①法学部②園田学
園高③1994.11.27
④12年⑤160cm⑥
岡本聖子⑦読書⑧
選抜団体3位⑨イン
カレ出場⑩やる気次
第で強くなれます!⑪
自分のテニスのレベ
ルを上げるために関西
から来ました卒業ま
でに必ず目標を達成します。



旗手ひかる

1年

①経済②鈴鹿高③
1994.10.11④7年
⑤167cm⑥ストーサ
ー⑦音楽鑑賞、ショッ
ピング⑧'12東海總
体団体出場⑨インカ
レ出場⑩今を精一杯
楽しんで!⑪現在、腰
を怪我していますが、地道にトレーニング
を重ね、復帰に向けて頑張っています。



平田智子

1年

①経済②昭和第一
高③1994.7.25④6
年⑤158cm⑥フェデ
ラー、錦織圭⑦球技、
音楽鑑賞⑧なし⑨関
東学生⑩自分の好きな
ことで失敗しても、
一生懸命やったのなら
ば無駄ではない。⑪まだ未熟で下
手ですが、テニスが大好きです。バックハ
ンドのストロークなら自信があります。とら
やイルカなどの動物が好きです。



高校生のみんなへ いつしょに テニス じょうよ!

部員から
ひと言

テニス好きなら
亜細亜へ!

一緒に
挑戦しよう!!

Be
ambitious

僕ら
文武両道

大学で
自分の可能性を
伸ばそう!!

熱くなろうよ!

強くなりたいなら
亜細亜しかない!

自分を信じよう

目標を
達成したいなら
亜細亜へぜひ!

テニスに
打ち込めるのは
今しかない!

Do your best!

EVER UPWARD!

自らの可能性はそれを信じ続けたものだけが実現できる!

人間力を高めよう!!

一緒に練習
頑張ろうよ!

全力で
打ち込みましょう!

一緒に
追い込みましょう

コツコツ努力!!

Never
give up

熱いコーチ陣が
教えてくれます

世界へ挑戦!

Seize the day!

集中していこう!

すばらしい環境です

大学は楽しいよ!

いまを思い切り
生きよう!

継続は力なり!!

No pains,
No gains!

心を磨こう!!

成長できます

目的を持って
取り組もう

学生は、 部活と授業の 両立を目指す。

面白いもので、テニスの本当に強かった卒業生を顧みると、学業優秀とまではいかなくとも、単位をいつのまにか取っていた選手ばかりでした。岡田岳二、森稔詞、山崎史子、赤堀奈緒、宮地弘太郎、岡本聖子、駒田政史、佐藤博康、宮崎靖雄、宮崎優実など、多くの卒業生の中でも特にレギュラーでタイトルを獲った選手ほどその傾向は強く、目標が明確であり、そのため好き嫌いにかかわらず、何事においても判断と行動は積極的でした。

競技成績だけではなく、プロとして活躍できた選手以外にも、企業で活躍できる卒業生も含め、明確なことは「部活」と「授業」との両立ができることが、すべての成長に繋がっているということです。

成長する選手とそうでない選手の違いは、「必要なこと」と「好きなこと」の区別ができるかできないかです。「将来」に必要なことと「いま」に必要なことを明確に理解して行動できる選手こそ、成長する選手です。

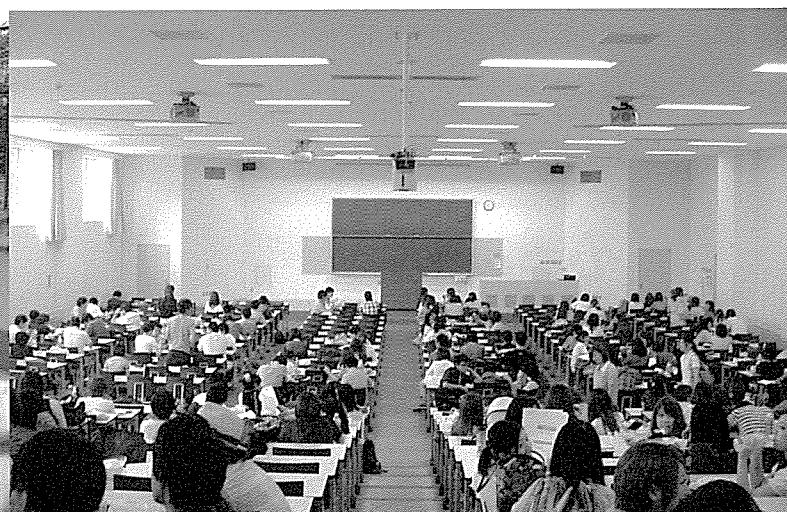
部活ではまず、新1年生に対して、11月の入試後にオリエンテーションをし、12月までに「4年間」と「今年」の目標を16ページにわたる「自己発見ノート」に書かせることにしています。自分のテニスや将来を確認させ、自分を気づかせる第一歩です。次に年末の合宿に参加し、そこで「今の自分」と「今後の自分」に必要な体力、技術、精神力の確認を、私たちといっしょに行ないます。

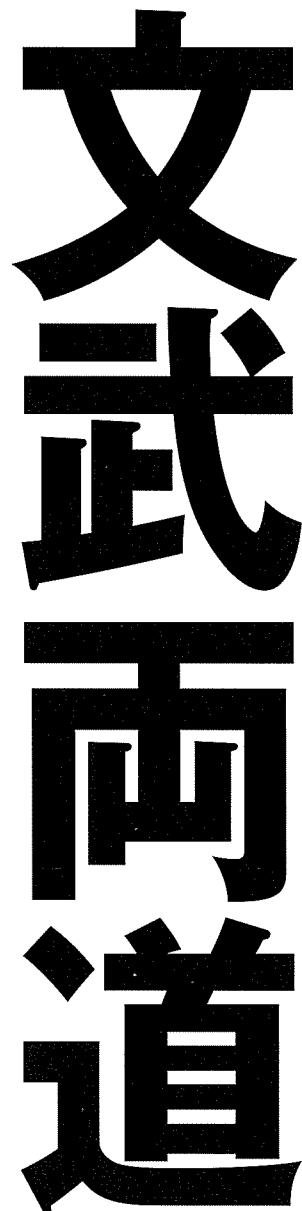
そして2月～3月の2ヵ月合宿を通じて、1年間の準備を徹底的に行なうこととしています。肝心なのは“自己の選択”ですから、練習環境や指導者がどんなに指導しても、最終的に判断し、実行するのは学生本人です。流されず自分の将来を見据えて選択できたものが勝利をつかみます。

そのときに必ずといっていいほど“教養”が大切になります。テニスはミスのゲームであって、自分本位の試合は、レベルが上がれば上がるほど、相手との駆け引きの中で“無理”や“無駄”が通用しなくなります。効率性や確率が大きな勝利のウエイトを占めてきます。そこでミスをどのように修正するかの能力が試されるわけです。

部活と授業の両立ができない選手はバランスを失い、「相手を知ること」も「自分も知ること」も「テニスやゲーム状況を知ること」も、そしてそれらを「説明すること」もできず、修正を失い自滅していくことになります。

テニスは実に正直で、バランス感覚をもたない選手には勝利をプレゼントすることはあります。ですからテニスの競技力に、まさしく部活と教養はプラスに働くのです。文◎堀内昌一





法学部 Law

全学部生 1,657人 男女比 男1,281人(77.3%):女376人(22.7%)

西岡 靖雄(2年)の場合

「法律で知恵を豊かにしよう」

法学部には法律学科のみですが、法科大学院コース・公務員コース・企業コース・現代法文化コースといった4つのコースがあります。私は公務員コースに在籍していますが、コースは変更もでき自分の将来に見合った勉強を学ぶことができます。

私は以前から法律に興味がありました。興味といつても弁護士や検察官になりたいのではなく、ニュースや新聞等でよく見る身の回りの些細なことでの疑問があったから

です。正直、自分が思っていた通り法律の勉強は難しいです。ですが、法律がとても身近なものであり、社会に出るにおいて知っていたほうが絶対に良いと感じました。また、自分を守る術になります。このような法律は自分の視野を広げてくれ、人生で一度は学ぶべき勉強だと思います。



週間スケジュール

	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN
1限目	民法II	民法II		会社法I	行政法I	学校図書館メディアの構成 (教職)	練習
2限目	マクロ経済学III	会社法I		教育方法学 (教職)			
3限目	基礎数理III	入門経済学	教育課程論	英語VII	政治学I	練習	試合
4限目	読書と豊かな人間性 (教職)	英語III	英語V	社会学 (教職)			
5限目		生徒・進路指導論 (教職)	地誌学 (教職)				
16:00 ~ 19:00	オフ	練習& トレーニング	練習& トレーニング	練習& トレーニング	練習& トレーニング	練習(orトレーニング)	フリー
20:30							

資格試験を全面サポート

各種資格取得のほか、公務員を目指す学生を重点的にサポートします。国家・地方公務員試験に対応する科目を配置するとともに、課外講座「公務員試験講座」との連携も図っています。

キャリア養成を重視

法学部では、全学生がキャリア養成教育を受けます。「基礎数理」を必修科目とするほか、選択科目として「公務員教養」を配置し、各種就職試験に対応します。

4年間を通したゼミナール教育

1年次の「オリエンテーションゼミ」から、3、4年次の2年間に及ぶ「演習」まで、4年間にわたってゼミナール教育を展開します。演習では卒業論文の作成にも取り組み、4年間の学習成果を形にします。

特徴

法科大学院コース

法科大学院への進学だけでなく、司法書士や行政書士など法律の専門家や法律関連の資格取得を目指します。

公務員コース

公務員試験科目を中心としながら、国家・地方の公務員試験合格を目指します。

企業コース

一般企業に就職する学生を想定し、法律の基本科目に加え、企業の組織や企業取引に関する専門科目を配置しています。

現代法文化コース

現代社会の多種多様な問題に対して、法的なものの見方、考え方からアプローチできる能力の取得を目指します。

カリキュラム紹介

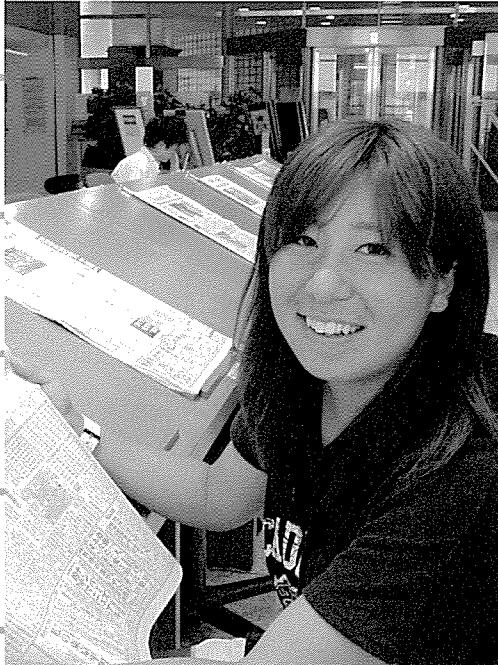
主な勤務先

積水ハウス／大日本塗料／LIXIL／中国電力／全日本空輸／東日本旅客鉄道(JR東日本)／ニトリ／みずほ銀行／ゆうちょ銀行／明治安田生命保険／大和証券／京王プラザホテル／東京地方検察庁／新宿区役所／警視庁／入国警備官

経済学部

Economics

全学部生 1,277人 男女比 男子1,025人(80.3%):女子252人(19.7%)



松本千広(2年)の場合

「経済を知り、視野を広げる」

私が在籍している経済学部は、1年次では経済学の基礎的なことを学ぶことができます。マクロ経済学、ミクロ経済学、入門経済学が必修となっており2年次からはより発展したこと学んでいきます。また、経済学部は数学的な問題が多く、グラフや計算問題を中心的に勉強します。私は経済学には全く興味がなく、数学も苦手でしたが経済学とは私たちの身の回りに起こっていることで世の中の需要や供給、物の流通など学べば学ぶ程、奥が

深いことだと思います。私たちは身近にありすぎて気づいていない事や見えていないことが沢山あると思います。

週間スケジュール

	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN
1限目		生理学	マクロ経済学II				
2限目	日本経済論	経済学中級／英語	英語	女性学	ミクロ経済学	練習	練習
3限目	日本思想史	ミクロ経済学I	アジア経済論	英語	アジア経済史		
4限目		英語				試合	試合
5限目							
16:00 ~ 19:00	オフ	練習＆ トレーニング	練習＆ トレーニング	練習＆ トレーニング		練習(orトレーニング)	
20:30						フリー	

→経済学の基礎から応用まで体系的に学習

1年次から2年次前期まで「入門経済学」「ミクロ経済学」「マクロ経済学」などで経済学の基礎をしっかりと身につけ、2年次後期からは経済学の主要な3部門【理論部門】、【応用・政策部門】、【アジア・歴史部門】で本格的に勉強。

→将来の志望に合わせて豊富な専門科目から選択

進路に合わせた科目選択が可能です。また、将来の職業に生かすための【経済専門キャリア部門】は1年次から学修できます。

→少人数クラスで“数字”と“IT”に強い実践型人材へと成長

「経済学基礎」「経済分析基礎」など、1・2年次に経済データに親しみ、少人数で学ぶ授業を開設します。経済に関する数字の深い理解とパソコンを活用した分析ツールの修得を目指します。

主な勤務先

みずほ銀行／三井住友銀行／住友信託銀行／清水ハウス／住友林業／飛鳥建設／TKC／ソフトバンク／ソニー・ミュージックエンタテイメント／帝国ホテル／富士通／ワコール／ブルボン／全約工業／国分／セブン-イレブン・ジャパン／東急ストア／ユニデックス／みずほインターベース証券／ワタベウェディング／郵便局

→政策科学コース

主に国際経済を学び、幅広い視野と的確な判断力を身につけ、国際企業人や国際公務員など、世界で活躍できる人材になるために必要な知識を養います。

カリキュラム紹介

→経済情報分析コース

紛争解決や平和構築の問題を政治と法の側面から学ぶことで、海外で活躍するために必要な広い視野と深い洞察力を持った人材を育てます。

→都市経済コミュニティコース

このコースでは、主に開発問題と開発援助についてさまざまな角度から学び、問題解決に必要な知識と、知識を現場で活用するための実践力を同時に養います。

国際関係学部

International Relations

全学部生 1,292人 男女比 男子506人(39.2%):女子786人(60.8%)



佐藤俊介(3年)の場合

「留学を通じて語学力、国際性を育む」

国際関係学部には2つの学科があります。私は国際関係学科に在籍しており、主に世界経済について勉強しています。亞細亞大学の国際関係学部は日本でも先駆けて留学制度を取り入れており、国際交流にとても力を注いでいます。私も半年間の留学の中で異文化に触れ、貴重な経験ができました。留学先でもテニス部に所属し、外人と一緒に団体戦に出場したことでのスポーツの偉大さを知ることができました。亞細亞フューチャーズのときにも

は運営を円滑に進められるように、外国人選手とコミュニケーションを取ることが多いです。

海外に就職する学生も多く、国をまたいで活躍する人材を派出していることも特徴のひとつです。

週間スケジュール

	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN
1限目				社会科・公民科教育法	社会科教育法	練習	
2限目		バトミントン		国際英語基礎			
3限目	国際問題入門		宗教と民族	専門ゼミ	社会学概論	練習	試合
4限目	英語	教育実践研究	日本史	社会学	政治学概論		
5限目		農業開発論	国際政治学				
16:00 ~ 19:00	オフ	練習& トレーニング	練習& トレーニング	練習& トレーニング	練習& トレーニング	練習(orトレーニング)	
20:30							フリー

→ 海外留学プログラムが必修

2年次後期に全員が必修で5ヵ月間アメリカの各大学(ワシントン州またはアリゾナ州)で学びます。見知らぬ土地で語学力を磨き、さらに自立心を育てます。留学は新しい自分を発見できるチャンスであり、将来へのステップとなります。

→ 國際社会で通用する英語力を習得

TOEIC600点以上を目指し、英語のみで授業を行なうところもあります。海外留学や専門研究、ビジネスシーンで役立つ英語力を身につけます。

→ 1年次からゼミの授業と三つのコースの学習

1年次から少人数のゼミで発表や討論を通じ、より深く専門的な学習をします。3年次からは自分が興味を持つ分野の先生のゼミを履修することができます。授業は大きく分けて3つのコースがあり、選択して学んでいきます。

→ 経済・ビジネスコース

このコースでは主に国際経済を学び、幅広い視野と的確な判断力を身につけ、国際企業人や国際公務員など、世界で活躍できる人材になるために必要な知識を養います。

→ 平和政策コース

このコースでは、紛争解決や平和構築の問題を政治と法の側面から学ぶことで、海外で活躍するために必要な広い視野と深い洞察力を持った人材を育てます。

→ 國際協力コース

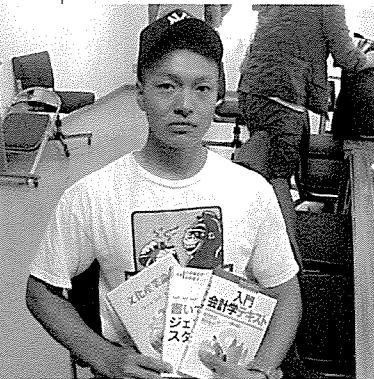
このコースでは、主に国際開発問題と開発援助についてさまざまな角度から学び、問題解決に必要な知識と、知識を現場で活用するための実践力を同時に養います。

主な勤務先

積水ハウス／ワコール／花王／資生堂／東芝／NHK／JR東日本／全日本空輸／ユニクロ／三井住友カード／ヒルトン東京／第一生命保険／セコム／外務省／警視庁／防衛省／ディスコ／ソツミ／明治安田生命保険／近畿日本ツーリスト／トランス・コスモス／郵便局

短期大学部 Junior College

全学部生 428人 男女比 男87人(20.3%) 女341人(79.7%)



井上裕貴(2年)の場合

「将来につながる幅広い選択肢がある」

私は短期大学部「経営学科」に在籍し、主に「経営学」「会計学」などを中心に勉強しています。短期大学部は二年制で、二年次には大学への編入が可能です。(編入試験があります)。編入後には、そのまま経営学科に進む事ができ、他の分野の勉強がしたいのであれば、違う学部に進むことができます。

私は10月に行われる編入試験で法学部に編入することが目標です。専門科目は「英語」「専

門基礎」なので英語と法学について一生懸命勉強して編入したいと思います。

経営学科では「日商簿記」などの資格を取得することも可能です。留学可能なプログラムもあります。また、2年で卒業して就職するという選択もあるなど、将来を踏まえ選択肢が多いことも短期大学部の魅力だと思います。

週間スケジュール

	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN
1限目		英語	表計算演習	イタリア語	ビジネスマナー		
2限目		簿記	財務管理論	ブランドマーケティング		練習	練習
3限目	経営学	美術	心と体の健康学		テーマパーク概論		
4限目					マーケティング総論		
5限目					専門演習	試合	試合
16:00 ～ 19:00	オフ	練習& トレーニング	練習& トレーニング	練習& トレーニング		練習(orトレーニング)	
20:30					練習& トレーニング	フリー	

各種資格取得を力強くサポート

日商簿記、日商販売士をはじめ、さまざまな検定の取得を、授業を通してサポートしています。

異文化への理解を深める留学制度と外国語科目

世界11地域11大学への留学が選択可能な海外留学プログラム「亞細亞大学グローバルプログラム(AUGP)」に加え、語学力アップを図る6か国語の授業を開講しています。

短期大学部経営学科の学生を対象とした編入学制度

経営学科の成績上位者は亞細亞大学の各学部への編入学も可能です。
短期大学部で取得した単位は編入学する学部の単位として認定されます。

主な勤務先

ミサワホームセラミック/大正製薬/富士通/オリバス/八洲電機/八千代銀行/大東京信用組合/アコム/ミニミニ/IMSグループ/第一ホテル帝国/三井不動産ビルマネジメント/エムユーセンターサービス東京/扇島電機/ルネサスイーストン

経営管理コース

経営4大資源「ヒト、モノ、カネ、ジョウホウ」について総合的に学び、現代の企業活動をグローバルに把握していきます。

企業会計コース

企業の会計担当者として必要不可欠な知識や技能を身につけます。日商簿記検定など資格取得サポートも積極的に行ないます。

カリキュラム紹介

経営学部

Business

全学部生 1,277人 男女比 男子1,025人(80.3%) 女子252人(19.7%)

企業経営と社会の関係性を理解し「実践力」を修得

市場・人間・技術という企業経営に関わる3つの側面から、企業経営と社会の関係性を理解する教育プログラムを展開。あらゆるビジネスパーソンに求められる「実戦力」を身につけます。

目標に合わせて選択できる科目群「モジュール」

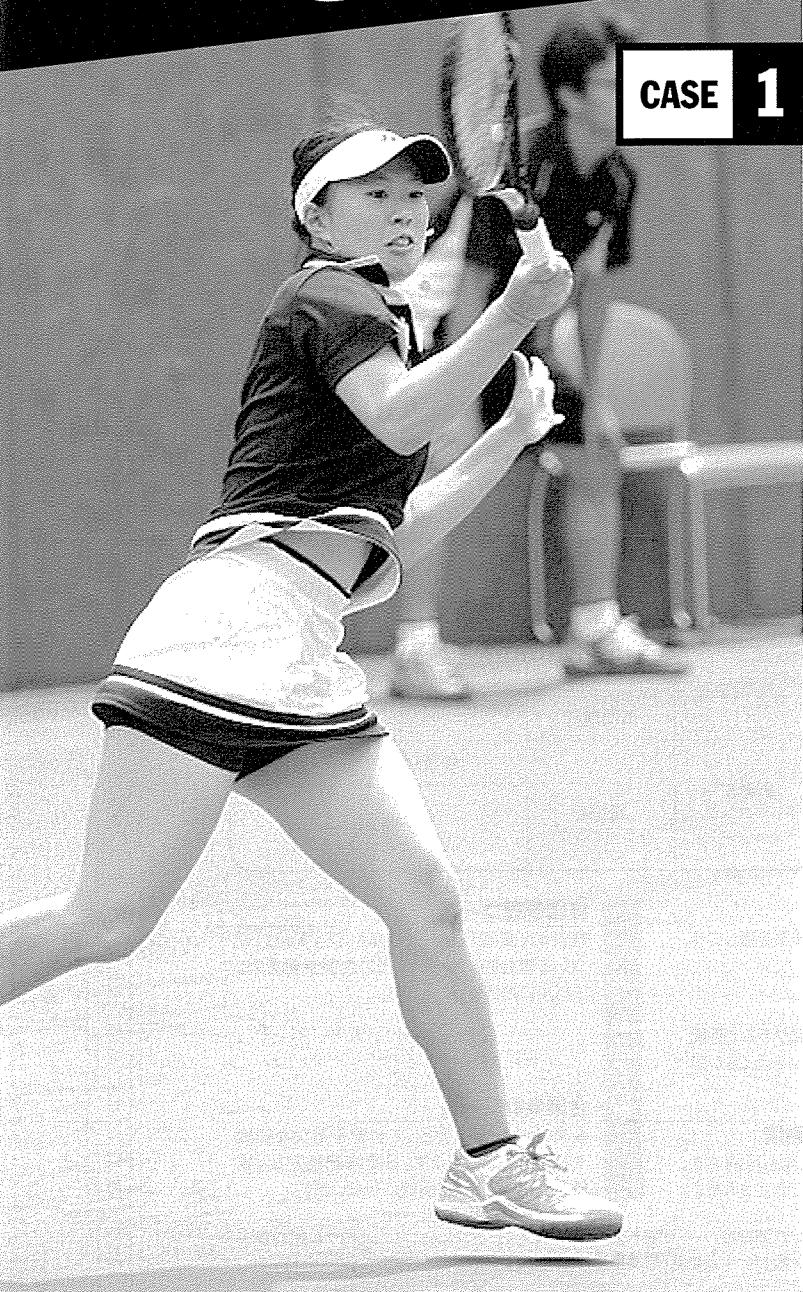
テーマ別に学ぶ「専門選択モジュール」と実務力を養成する「スキル関係モジュール」のほか、多彩な科目で構成されたモジュールで、経営学の専門分野を効率よく学習します。

少人数制のゼミナールでの実践的教育

1クラス約15人の少人数制ゼミナールでは、産業界で活躍する企業人への「インタビュー実践」を導入。自らプロジェクトに取り組み、問題を発見し、解決に導く、実践力を養います。

大学に入って、変わりました! こんなに変わりました!

CASE 1 山本翔子(4年)の場合



「大学最後の年、悔いを残さない結果を出します」

亜細亜大学はテニスが上手くなる環境が整っています。練習時間やトレーニング時間がしっかりと確保されており、自然とテニスが上達するスケジュールが組まれています。もちろん自分のモチベーションの高さや努力次第ではプロよりも強くなれると私は思っています。私が勝つ為に意識的に実践している事は、練習中から緊張感を持ってプレーする事です。どうしても勝ちたい試合、プレッシャーが掛かる試合は誰もが経験していると思いますが、その中で勝つ選手と負ける選手の差は普段の練習からいかに試合を想定してプレーしているかです。勝つ為にはこれが最も重要なと思うので、練習と試合でプレーの差が出ないように気を付けています。私は亜細亜大学に入り、相手と自分を客観的に見ることができるようにしました。高校時代の私は自分のことだけしか見ておらず、いつも自分のしたいようにプレーしていました。調子の良い時は勝てますが、調子が悪い時はすぐに負ける事が非常に多かったです。ですが今は、コンスタントに勝っています。全体を客観的に見事ができるようになったのは、亜細亜大学でのたくさんの経験のお陰です。国際大会運営、チャリティークリニックなど当時は失敗ばかりで大変でしたが、亜細亜大学でしか経験できないので今では本当に良かったと思っています。

昨年のインカレ、リーグ、今年の島津全日本室内を通し、一回り成長できたと感じています。インカレでは単複準優勝と非常に悔しい思いをしましたし、リーグでは自分自身だけで2敗してしまうなど、悔やみきれない日々が続きました。ですが、冬にはインカレインンドアでダブルスのタイトルを獲る事ができました。そして今年の島津全日本室内では、シングルス本戦出場、ダブルス準優勝という結果を出す事ができました。ダブルスではパートナーの伊波にたくさん助けてもらい、2人で掴んだ準優勝だったと思います。昨年シングルスでは予選1回戦敗退という結果だったので、本戦に上がる事ができて素直に嬉しかったです。高校生の皆さんにはぜひ亜細亜大学の良さを体感して頂けたらと思います。上を目指したい人、たくさん練習したい人には特にお勧めします。

岡本聖子
コーチ

から見た 山本翔子

彼女は覚えていないかも知れませんが、初めてコーチングした時に「ボレーとは何ですか?」と質問してきました。余りにも大まかな質問で、答えるのに困ったのを覚えています。彼女は頭を使う選手なので、それまで本当にボレーの必要性を感じていなかったのだと思います。ジュニア時代から優秀な成績を収めている彼女でしたが、ダブルスには消極的で、シングルスでも攻撃的ではなく、常にベースラインでプレーしていました。彼女がインカレ単準優勝、インカレインンドア複優勝できた理由は幾つかあると思いますが、ボレーに対して必要性を理解し、取り組み、最後はボレーで決めるという攻撃的なテニスに出来たことは大きな要因だと思っています。

やる時はやる!というマイペースで切り替えが上手くできる彼女は、誰よりも集中して練習を行い、キャプテンとして、後輩を育てる、引っ張っていくという意識の強さも見せてくれました。

CASE 2 伊波佳苗(4年)の場合

「最後に笑顔で終わるためにも インカレ、王座を優勝します」

亜細亞の練習は、基本を大事にし、基本練習はもちろんのこと様々な応用練習をするところが特徴的です。また、球出しなどで数を多く打つことでショットを身に付ける練習や、対人によって試合に近いイメージでやる練習など練習方法も様々です。ショットの精度向上を計る練習だけでなく戦術面の練習もあり、リアリティーがあって面白いです。トレーニングは、専属のトレーナーさんが時期に応じて考えてくださったメニューを元にトレーニングしています。体幹・ウエイト・フィールドとトレーニングは大きく3つに分けて取り組んでいます。

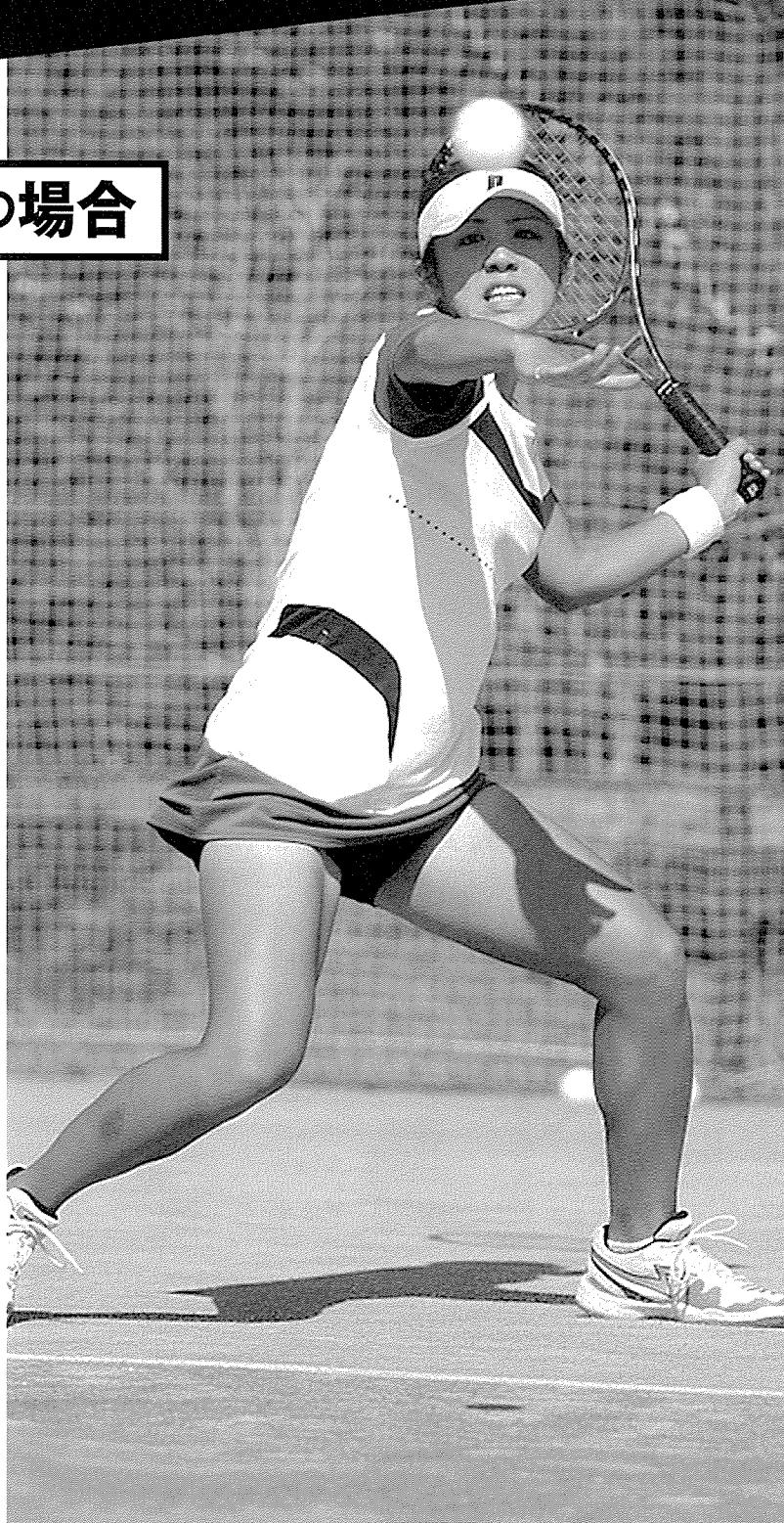
私が勝つ為に取り組んでいることは、食べ物に気をつけています。食事は毎日することなので、毎日の小さな取り組みが資本となる体を作るので、食事には気を使いバランスのとれた食事を心がけています。また、体のケアも欠かさずに行い、体としっかり会話する様にしています。

高校時代と比べて変わったことは、試合中に考える様になりました。高校時代は駆け引きなど考えたことがありませんでした。しかし、大学になると、ほとんどの試合が3セットマッチになったことで、高校時代に比べて相手を觀察し駆け引きする様になったと思います。

インカレ、リーグ、島津を通して得たことは、学生大会だけでなくオープン大会で経験を積み、沢山の試合経験を積むことが成長する為には欠かせないということを学びました。また、試合後の反省や反省で出た課題を克服する努力、なにがなんでも克服するんだという気持ちも、強くなる為には重要ということを感じました。

今年で学生もラスト1年です。今年は去年果たせなかったインカレ制覇と王座優勝が目標です。最後に最高の笑顔で終わる為にも、毎日の限られた時間を有意義に使い、目標を実現させる為に頑張りたいと思います。

高校生のみなさん。夢の溢れる亜細亞大学にぜひ来てください。最高の環境があり、自分次第でいくらでも成長できます。一度見学に来てください。



岡本聖子
コーチ



から見た
伊波佳苗

サウスパーの彼女のテニスを初めて見た時はダイナミックさに驚きました。サービスは性格に似て?!素直すぎるところがありましたが、フォアハンドは重たいスピンドル、バックハンドはフラット系で誰にも打ち負けないスピードボールが持ち味です。そして、重心を低く保ったまま動き続けられるのは、日々のトレーニングの賜物だと思います。テニスが大好き!という感じで、元気に駆け回る姿は、部活の雰囲気を盛り上げてくれました。

テニスはダイナミックで男性的ですが、性格は素直で女性らしく、とても優しい子です。気分屋なところもあり、年中暖かい沖縄でくすく育った彼女にとって、東京の冬や部活動は、大変だったと思いますが、よく頑張りました。テニスにかける時間は減っても、今後、社会人としてテニスを続けていく際には、今まで通りにテニス大好きオーラ万歳で自由にプレーして欲しいです!

大学に入って、 こんなに変わりました!

CASE 3 仲村元希(2年)の場合

「自分で考え、 自主性を高める事が 勝利につながると思います」

私が地元の関西を離れて関東に行きたいと思った理由は、強い選手が多く集まる関東で自分の実力を試してみたいと思ったからです。その中でも1部リーグで戦っていて、テニスコート10面にナイターが完備しており、陸上トラックやトレーニングセンターがある亜細亜大学はテニスをやるにはとてもいい環境だと思い入学を決めました。

私が亜細亜大学でテニスをするようになって1番変わったところは、テニスに対する考え方だと思います。高校生の頃は、試合中でも自分のことばかり考えてプレーしていました。調子の良いときは勝て

るし、悪いときは簡単に負けるということが多かったです。しかし、監督やコーチの方々の話を何度も聞き、多くの試合数をこなすことで、試合中に自分のことばかりになるのではなく、相手の特徴や思考などを考えていくようになりました。そうすることで、調子が良いときはもちろんですが調子が悪いときでも少しづつ勝てるようになり、改めてテニスの面白さや難しさを知ることが出来ました。

また、高校生の頃はテニススクール主体で練習しており、部活動は週に1日、2日といった程度でした。そんな自分には毎日同じ目標を持っている部員と一緒にいることが新鮮で、部員といふことが楽しみでもあります。亜細亜大学では、部員一人一人がテニスに真剣に取り組んでいます。みんなでトレーナーのトレーニングをしたり、監督やコーチの方々がメニューを決めて練習することも多いですが、自分たちで練習メニューを考えたり、自主的にトレーニングを行ったり、部員同士が気軽にアドバイスしあったりしています。そうすることで自主性を高め、一人一人が自分のテニスを考えていることが亜細亜大学の良さだと思います。

正直、亜細亜大学に来てから自分が思っていた以上の結果が出ています。驚いている自分もいますが、まだまだ上を目指していきたいと思っている自分がいます。これからも自分の可能性を信じて挑戦し、テニスを楽しみたいと思います。高校生のみなさん、自分の可能性を信じて、一緒にテニスをしましょう。日の出町でお待ちしております。



森 稔詞
コーチ

から見た 仲村元希

日本選手の中では、比較的標準的な身体を生み出したプレースタイルで、オールラウンドなプレーヤーです。ダブルハンドから繰り出すバックハンドは、彼の得意なショットで、それを軸としたネットプレーなどに磨きをかけていきたいです。

また、サービスやフォアには、まだ可能性を秘めている、技術的に向上させることで、さらにプレーに幅に広がりが期待されます。一見おとなしそうな外見ですが、非常に負けず嫌い。怒りっぽいところを修正していくことが出来れば、安定した勝負が出来てくると思います。持久力は、まだまだ鍛えることが出来るはずです。どんどん自身で追い込んでトレーニングを積んでいくことにより、大学生活最後にトップを脅かす存在になれると思います。



CASE 4 安野聰美(2年)の場合

「練習やトレーニングはハードですが、亞細亞大学を選んだことに後悔はしていません」

私が亞細亞大学を選んだ理由は、真剣にテニスがやりたかったからです。当初は、もっと下の大学に進学しようとも考えていましたが、もしやるのだったら強いところでやりたい、そしてこんなに素敵な環境でテニスがしたいと思い、入学を決めました。入学してみると周りは強い人ばかりで毎日とても良い刺激を受けています。私も強くなるため、毎日ベストを尽くして頑張っています。

亞細亞大学はコートがたくさんあり、走るためにトラック、トレーニングセンター、更に常にたくさんのスタッフがみてくれるというとても良い環境にあります。常にスタッフが練習をしてくれるという大学はあまりないと思います。そしてそのスタッフの方々はみんなレベルが高く、経験豊富で現役時代のことや、高い技術を教えてくれます。アドバイスはとても実戦的で試合の時とても活きてくることばかりです。先輩方も、時には厳しく、時には優しく指導してくれます。ある先輩は技術や、試合中の考え方などとても明確なアドバイスをしてくれます。そしてプライベー

トでも相談に乗ってくれます。自分もそんな先輩方を目指し日々精進しています。

そして、なんといっても亞細亞大学は国際大会を学生主体で運営し、運

営側の仕事をしたり、プロに混じり試合に出場したり間近で観戦できたりと、社会勉強もすることができます。できたりとても貴重な経験ができます。

私の大学4年間の目標は2つあり、1つはインカレベスト8です。その為に毎日練習や、トレーニングに励んでいます。それでもう一つは王座優勝することです。自分もチームに貢献し、王座優勝したいと思います。2つの目標を達成するため、「継続は力なり」という言葉を信じて4年間もっと努力していきます。高校生にとって大学を選ぶことはとても難しいと思います。私もとても悩みました。しかし、とても悩んだ結果亞細亞大学を選択したことに後悔していません。練習やトレーニン



グはとてもハードですが、その分勝てた時の嬉しさは倍です。亞細亞大学はとても厳しいとよく聞きますが、ひとりひとり目標に向かって自分自身を追い込める大学だと思います。大学でがむしゃらにテニスに取り組みたい人！一緒に頑張りましょう！



赤坂奈緒
コーチ

から見た

安野聰美

ストロークは回転量の多いスピンドルボールが打てる所以簡単なエラーが少なく、常に気持ちの上下が少ないので、地道にやってきたことが少しづつ実を結んで来ていると思います。これから学年が上になり部活を率先していく立場になることで、素直で受け身な性格から、心身共に成長し、プレーの内容にも変化が出てくることを期待しています。

CASE 5 長船雅喜(1年)の場合

「監督と森コーチの「一言」で亞細亞大学を選択しました」

ないと気付きました。技術力、体力、練習環境、全てが足りないと感じました。

ジュニア時代、「あと少し体力が残っていたら…」「サービスキープが楽にできたら…」と後悔が残る試合がいくつもあります。大学で練習やトレーニングをする中で、走り負けない体力とジュニア時代に足りなかった技術を身に付け、全てにおいてレベルアップした状態で卒業してプロになりたい。素晴らしい指導陣を誇る亞細亞大学テニス部ならばこの夢を実現できると思いました。

入学してまだ数ヶ月ですが、自分の技術が少しずつレベルアップしていると実感しています。学生大会だけでなくフューチャーズ等、1年生にしてたくさんのチャンスを与えて頂き本当に感謝しています。強い相手に完敗したこと、競り合うことができたのにあと一步足りずに負けたこと、プレッシャーのかかる予選で今までになく緊張してしまったこと、全て貴重な経験です。

「大学から世界を目指す」のは険しい道のりですが、決して夢物語では終わらせません。まずは1、2年生のうちにしっかり基礎体力

をつけ全ての技術を磨き、日本のトップクラスと対等に戦える土台を作りたいです。その土台を支えに試合経験を積み重ね、国際大会上位進出を目指していきます。

また「夢を変えずに自分を変える」ためには、意志の強さや自制心、忍耐力を持たなくてはいけません。私は色々な面でまだまだ未熟ですが、監督やコーチの御指導のもと先輩や仲間と切磋琢磨しながら四年間で成長していきたいと思っています。そして卒業後は必ず本物のプロになります！



佐藤武文
コーチ

から見た

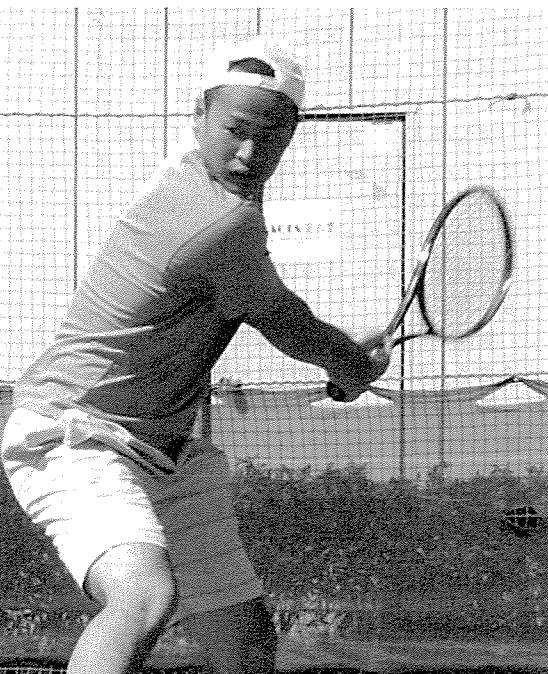
長船雅喜

リーグ戦での彼のベンチコーチを任される事が多いのですが、自分の出来る範囲のプレーというものと相手の嫌がるプレーを察知するのが早く、予想よりも簡単に勝ってくるタイプですが、もっともっと上のレベルでチャレンジでもらいたいという気持ちがあるので、よりフィジカルと最終局面での精度度を上げて、我が部を引っ張っていく存在になってほしいと考えています。

彼が大学に練習に来た日に一緒に昼食を取る機会があったり(この時の注文の仕方に自分を持っている子だと感じた)、彼は京都出身なのですが、僕ら夫婦が大好きなラーメン屋さんに行った時に偶然に出会ったりと、不思議な縁で繋がっていると思います。卒業するまで彼のベンチコーチをするのかは分かりませんが(笑)

私が亞細亞大学への進学を決断する決め手となったのは、堀内監督の「大学から世界を目指す」熱意と、森コーチの「夢を変えずに自分を変える」という言葉でした。

16歳の頃には「大学には行かずにプロにならない！」と漠然と考えていました。しかし本格的に進路を考え始めた高校3年の春頃、自分のレベルではまだプロとしてやっていけ



2003 Australian Open Review

亞細亞大学、メルボルンへ行く。

「大学に行ったら世界に行けないなんて言わせない」

2003年1月、賑わうオーストラリアン・オープンの会場内を

ウロウロする日本人学生のグループがいた。

全国でもトップクラスを誇る亞細亞大学テニス部のメンバー6人。

彼らは世界最高峰グランドスラムを

「観る」という意味を持ってそこにいた。

文◎吉松忠弘 写真◎高野徹

記事提供◎テニスマガジン(2003年5月号)

学校教育とクラブスポーツ、大学テニスの共存

学校教育とスポーツは、それほど切り離さなくてはいけないものだろうか。昨今の論調は「地域に根ざすクラブスポーツ」を題目に、学校体育を批判し、「学校など」という形容詞で、短絡的にスポーツ強化のためにには学校（日本的な記憶・暗記教育のことではある）は「害」であると指摘する。

しかし、現実主義者から見ると、そう簡単にことは運ばない。落伍者は「失格」という価値観を共有したい大多数があと戻りできない社会を形成している以上、その中で「安定」や「慎重」を求めるることは決して責められない（好き嫌いは別として）。

国際通とか海外志向の高い指導者や関係者はその現実を無視し、「もっと海外に」やら「学校なんか」と宣言。ならば世界でも高水準にある約97%の高校進学率、約50%の大学進学率（平成15年度文部科学省の教育指標の国際比較から）は無意味なのだろうか。その率が減り、学校体育がなくなり、義務教育が終了すれば、スポーツにかける人が増えることが得意の「文化の創造」ということだろうか。そして日本国民は本当にそれを望んでいるのだろうか。

壮大なテーマになり、それを解説することがこの本道ではないので割愛する

が、現時点で中等教育以上（義務教育以降をこう呼ぶ）の学校を無視はできない。クラブスポーツも裾野を広げることが重要であり、つまり共存するしか日本の将来は見えてこないだろう。

その中にあってテニスも同じ悩みを抱える。特に究極の個人スポーツであるテニスは、若年層からの強化が重要視されており、それは学校教育となかなか相容れない。高校までなら18歳以下というジュニア枠に入り、まだ救いはあるだろう。しかし大学のテニスは、日本でもっとも忘れ去られた存在である。日本のテニスには、ジュニア、社会人、プロという構図しかないようにも思える。

ただ、この先、クラブスポーツや学校体育の共存を考えるなら、大学テニスを無視するわけにはいかない。そして大学テニス自身も、自ら動き出す必要性がある。今年のオーストラリアン・オープンで、亞細亞大学テニス部がとった「観戦」という行動は、文字にしてみると他愛のないことだ。しかし、少なくとも共存への小さな一歩だったことだけは確かである。

選手とコーチに必要な目標に対する逆算の理論

音頭取りは、OBで昨年（2002年）の4月からコーチに就任した森穎詞だった。森はグランドスラム本戦出場を経験して

いないが、予選には数回チャレンジしている。その自分より才能がありそういまの大学生が、手をこまねいでいるのが歯がゆかった。

「本気でチャレンジすればできることはない。できないと決める方がおかしい。だったら行ってみよう。僕自身もいまのグランドスラムを見ていなかったから、学生全員にメールを出して、自費だけ行こうと誘った」

自費の有志なので遠征ではない。集まったのは、男子で昨年インカレ・ベスト4の宮崎靖雄、同ベスト8の比嘉明人、01年関東学生新進戦ベスト4の平良和己、女子で01年インカレ・ベスト4の北崎悦子の4人である。

しかし、この4人に森、堀内昌一総監督を加えた6人がオーストラリアン・オープンに来て、観戦して帰ったというだけなら、残ることは稀薄に違いない。

「驚き」や「感嘆」が彼らを揺さぶるに違いないが、それだけだ。時間が経てば、少なからずとも消滅する。まして20歳代は、精神よりも実体験だ。物理的な接触に優るモノはない。森は、その体験を学生たちにさせた。宮崎、北崎を予選出場に挑戦させ、宮崎は予選のサインアップまでたどり着いた。

「運営の人たちが、何でおまえなんて来ているんだって、冷たい視線なんですよ。このランキングでよくここまで来たなって。あー、ここは実力世界なんだなと、ランクを上げないとダメなんだなと思いましたね」

宮崎の世界ランキングは1116位。もちろん出場には、通例なら箸にも棒にもつからない。しかし今年の予選は欠場者が続出し、出場者の最低ランキングは904位にまで下がった。チャンスは本当に目の前に転がっていたのである。しかし、そこに選手がいなければ出場できないのは自明の理だ。

北崎はエントリーをしていなかったため、予選のサインアップはできなかったが、予選初日にラッキールーザーのサインアップができた。

「初めは自分なんかがサインアップしていいかなって思ったんです。引き気味でしたね。でも、試合を見ていたら、何倍も努力しないとダメだけど、私でも何とかなると。それに、ここに自分が立っていたらと思いながら、試合を見ることができたのは大きかったんです」



比嘉と平良は、先のふたりのような体験はできなかったが、会場で練習を決行する。もちろん厳密に言えば、選手でもない人間がコートを使用するのは違反だ。予選の最終日に、朝7時半から空いているコートを見つけて4人で練習をした。そのぐらいの厚かましさがなければ、世界のテニス界ではやっていけない。

「心構えからして、ここで戦っている選手は違う。勝つ意識や執念がすごい。技術とかいう以前の問題で、気持ちから入れ替えない」と

比嘉は話す。平良も同様だ。

「僕と同じくらいの身長の選手もいて、できないことはないと。でも、彼らは勝たなきゃ食えないんだという意識がすごい。日本ではありえないですから」

彼らは帰国する前の日、念願だったセンターcourtに初めて入り観戦した。

「ここに立てるようにならないとダメなんですね」

比嘉は、こうつぶやいた。

堀内監督はもっと早くこれを見ていたら、と少し悔やんだ。堀内監督は世界を知らないわけではない。テニスでアメリカの大学に留学し、また日本のジュニアの監督としてもウインブルドンに遠征したりしている。しかし大学の教員、監督という枠は多くのしがらみを生み、実質的に世界から遠ざかっていたことも確かだ。

「実際にそこにいないと逆算できないんですね。カレッジに行ったら世界に行けないなんて言わせたくない。そのためには選手もコーチも逆算じゃないとダメなんです。関東学生取ったらインカレ。インカレ取ったら全日本というプラスじゃなくて、グランドスラムがあって、そこに行くにはインカレや全日本があるという逆算じゃないと。そのためには、グランドスラムを実感していないと言えないし、選手も実感できないんですよ」

わずか10日ほどの滞豪だった。しかし6人が感じ、肌で触った日々は誰にも教えられないことである。そして問題はここからなのだ。この10日間が実を結ばなければ何も意味はない。

杉山愛は、27歳にしてテニス人生最高の瞬間を、ティアⅡのステートファーム女子クラシックの単複優勝で飾った。遅いということはない。そして、それはステップを踏み出さなければ、いつまで経ってもやってこない。

堀内昌一総監督

「僕が監督になったのは大学王座やインカレを最終目標にするためじゃない。大学は自分の力を伸ばすことが目標。そのためにはもう一回、自分がいろいろなことを見てみないとダメになる。原点に戻ってみるとそこには夢があったはず。だから選手にはカレッジに夢を持って来てほしい。その夢を与えるのが僕ら自身の挑戦でもある」

北崎悦子(2年)

「雑誌とか見ていた夢の舞台だったのが、現実に観て気持ちの面では変わりないと感じた。(グランドスラムは)日本とテニスを盛り上げる環境が全然違う」

森 稔詞コーチ

「大学3年のときにJOP大会で貯めたお金でオーストラリアとアメリカのサテライトに初めて行った。そのときに感じたことを同じいまの大学生に味わってもらいたいと思っている。頂点を見ていれば、この先リアルに映像として残るはずだから」



宮崎靖雄(3年)

「(オーストラリアに来て)テニスに対する考え方方が変わった。特に本村(剛一)さんに勝ったエスクデは、ショットは同じなのに体力や展開が違う。すごく印象的だった。みんな宿舎ではラケットに鉛を貼ったりして、"これで外国選手の重い球に負けないかな"などと語ったりしていた」

比嘉明人(2年)

「ジャパンオープンくらいしか見たことがなくて、そのジャパンオープンでもすごいと思ったのに、こっちはそれ以上だった。もつと体とか強くないと戦えない」

平良和己(2年)

「周りの雰囲気が違って、観客もすごいし、圧倒された。選手たちのボールを打つタイミングも全然違うし、ミスで決まらない」

卒業生、それぞれの道

...プロへ— To a Professional

テニスを始めた頃からの夢、
グランドスマスマ出場を叶えることができました

岡本聖子



私は小学校高学年でテニスを始め、夙川学院中等部へ進学、同高校を卒業するまでの6年間、(高校では3年間の寮生活) 亜細亜大学での4年間、部活動でテニスを学びました。中学、高校ではテニスの上達を考えるよりも、顧問の先生や先輩方に怒られないことを一番に考え、休日はなし、「根性論」でひたすら走るという過酷な毎日を送っていました。先輩に理不尽に怒られることは泣いて、同級生以外はすべて敵だと思いながらテニスをしていたくらいです(笑)。いま思い返せば、一生の友達と、誰にも負けない根性を身につけた6年間でした。

その後、「プロに負けない学生」という堀内監督の言葉に惹かれ、亜細亜大学に進学し、完璧な練習環境の中、全国から集まるレベルの高い仲間たちと出会い、そして恩師である堀内監督、OB・OGコーチからの温かい指導を受ける事ができました。

東京という私にとって未知な場所でありながらも、中高6年間の部活経験と新しいテニス環境が合致し、大学3年生のときにインカレで単複優勝、全日本選手権大会で単準優勝、

複ベスト4という結果を残すことができました。そして、私はこの結果をきっかけに、世界でプレーするプロたちを意識し始め、卒業を待ってプロ転向をしたのです。

高校時代の私には『部活』というと、「自由が奪われ、個性が出しにくい場」というイメージがありました。でも、亜細亜大学に入って部活でテニスをすることで、工夫や努力が身につき、本当に大切なものを見つけ、自分の個性が確立されたように思えます。

テニスを始めた頃からの夢だったグランドスマスマ出場を叶えることができたのも、亜細亜大学をはじめ、支えてくださったみなさまのお陰だと思います。

この亜細亜大学のテニスコートに、可能性を秘めた若い選手たちが来てくれることを、願っています。

おかもと・せいこ◎1978年3月14日生まれ。大阪府出身。夙川学院高校卒。95年インターハイ団体ベスト4、単ベスト8、複ベスト4。96年亜細亜大学へ入学。97、98年大学王座優勝、98年インカレ単複優勝。全日本準優勝。卒業後にプロ転向し、グランドスマスマはダブルスで全豪2年連続、シングルスはすべての予選に出場した。全日本複優勝、WTAツアーフレ1勝(浅越しのぶ)。WTA単最高位は178位(2006年1月)。2010年現役を引退し、現在は後輩の指導、プロ選手のサポート、テニスウェアの開発を行なっている

私は高校時代に目立った戦績もなく、無我夢中でテニスを続けていました。そんな私に堀内監督が声をかけてくださったことがきっかけで亜細亜大学に入りました。

学生時代は、それまでに経験したことのない「部活動」で周りにたくさん迷惑をかけました。ただ、部活という中で私はテニスを一番に考え、群れるわけではなく、その中で自分の意志をはっきりと持っていたことは良かった部分だと思います。問題にぶつかったときにはみんなで試行錯誤しながらも真剣に考え、自分たちで結論を出すことによって、責任感も身につきました。

高校時代には個人競技として考えていたテニスが、大学に入ってから団体戦を経験し、ひとりで闘っているのではないという感覚は新しかったです。応援してもらえる喜び、みんなのために頑張る、チームのために必死で応援する、というサイクルは、団体競技でおつか日頃生活をともにしていなければ、心からできるものではなく、私は大学テニスでその経験ができることが本当に良かったと思っています。

実のところ、つらかったことや苦しかったことはあったと思うのですが、いまはそれが全然

思い出せません。卒業して3年が経ちますが、いまこうしてテニスを続けていられることは、ひとりでできることではなく、たくさんの方々に支えていただいているおかげだと本当に感謝しています。

現在、大学からプロテニスプレーヤーを目指す選手が減っています。私はそういうを目指し方をしたひとりとして、大学テニスで培った経験をどこまで生かせるか、そのトライをする選手が増えてくれることを期待しています。

スポーツは、人々に感動を与えたり与えてもらったりできる素敵なコミュニケーションの一つです。これから入学する高校生には、大学4年間でテニスというスポーツを通じて、新しい自分を見つめるとともに、一度きりの大学生活を楽しんでもらいたいです。頑張った分だけ自分に返ってきます。自分を信じて思いっきり——これが私の原点です。

みやざき・ゆうみ◎1986年10月31日生まれ。熊本県出身。ルーテル学院高卒。04年インターハイ3回戦。05年亜細亜大入学。08年春季関東学生優勝、インカレ・ベスト4、インカレ室内・準優勝、大学王座ベスト4。09年大学を卒業し、プロ転向。これまでのWTA最高位は540位(2011年12月)、現在654位(12年6月25日付)

(ASIA PARTNERSHIP FUND)
宮崎優実
私のテニスの原点が
亜細亜のテニス部にあります





比嘉明人

(テニスユーバース)

情熱ある監督の下、世界基準のテニスを目指してきました

私が亞細亞大学を選んだきっかけは、“世界基準のテニス”を目指している部活だと知ったからです。そして沖縄から上京し、ただ強くなりたいという思いで、毎日毎日必死に練習しました。振り回し練習で自分を追い込み、トレーニングでさらに追い込み、そんな生活をしていたら、だんだん体が大きくなってきて、試合で勝てるようになっていきました。

部活を通じて、たくさんの人と関わり合うことができました。全国各地から集まってきたプレーヤーたちと切磋琢磨した学生時代。個人の成績はインカレ・ベスト8が最高成績でした。リーグ戦では「誰かのために何かをする」という思いになれたことが、いまではかけがえのない財産です。宮崎靖雄さんのテニスに対する姿

勢に影響を受け、尊敬できる先輩と毎日プレーできること。すべての出会いが大きな財産になっています。

亞細亞大学というところは、テニスが強くなることだけを求めているところではありません。試合の勝ち負けは確かに重要ですが、それ以前に「人として正しいことをしているか」ということをよく堀内監督や森コーチに言われたのを思い出します。追求してきたものは、テニスだけではなく“人間力”もです。当時は、それがなんとなくしかわからていませんでしたが、卒業し、選手活動をして、いまに至って、ようやくわかってきたように思います。いまではその言葉を常に自分に問いかけるようにしています。

ここ亞細亞大学は、本気でテニスが強くなりたい人を待っています。情熱ある監督、コーチのもとで強くなれるチャンスがあります。意志のある人はぜひ亞細亞へ！

ひが・あきと◎1982年6月6日生まれ。沖縄県出身。沖縄工業高校卒。00年インターハイ単ベスト4。01年亞細亞大学入学。03年夏季関東学生単準優勝、インカレ単ベスト8、インカレ室内単ベスト8。大学王座3位。04年春季関東学生単準優勝。05年大学を卒業し、プロ転向、現在に至る。ATP最高単1150位、複985位、JTA最高単28位、複14位

自分にとっての学生生活4年間はとても充実したものでした。高校時代にはインターハイ1回戦負けだった私ですが、同期に全日本ジュニア・チャンピオンがいて、先輩にインカレ・チャンピオンがいるという環境は、とても刺激的でした。

大学入学当時の私は、同期の中でも下から数えたほうが早いランキングにいたので、みんなに何とか追いつき、追い越そうと、日々の練習やトレーニングを全力で頑張りました。堀内監督の指導はとても厳しかったのですが、その中には上達するためのヒントがたくさんあり、自分の性格を見抜いた上での指導に、監督の凄さを感じていました。

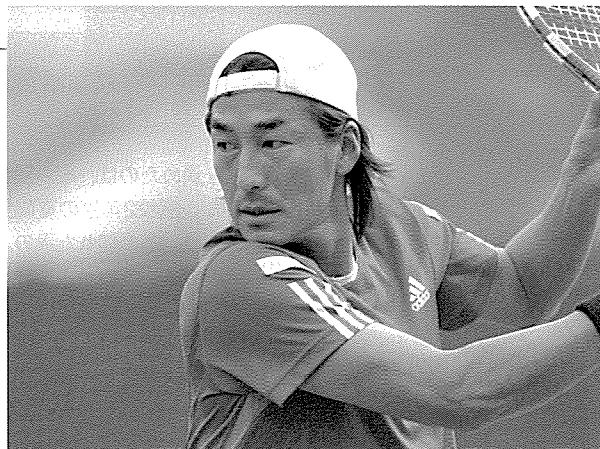
大学生活では、テニスが中心となります。学生として勉強をすることや、友達や先輩とのコミュニケーション、チームの一員として活動することによる責任感など、本当にたくさんのことが学べます。

最近、大会などで、高校を卒業し大学に進学せずに試合に出て、トップを目指して頑張っている選手がいます。自分の可能性に賭けて頑張っている姿はとても素晴らしいことで応援もしたい気持ちでいます。しかし、選手生活で学べることもたくさんありますが学生として色々なことを勉強しながら人間として成長し、それと

同時にテニスによって精神的に成長していくことで、よりバランスのとれた選択肢の多い人間になれるのではないかと自分では考えています。

インターハイの1回戦負けだった私を4年間で全日本テニス選手権のダブルスチャンピオンにまで育てられる指導者は今も変わらず、この亞細亞大学で指導をしてくれています。

これからも高い志を持った選手が新たな亞細亞大学テニス部の歴史をつくってくれることを亞細亞大学OBとして祈っています。微力ながらこれからもチームを応援していきたいと思っています。



佐藤博康

(プロテニスプレイヤー)

インターハイ1回戦負けから、全日本複チャンピオンへそしてプロへ

さとう・ひろやす◎1972年10月2日生まれ。東京都出身。浦和学院高校卒、89年インターハイ1回戦。90年亞細亞大学へ入学。90-93年夏季関東学生複3連覇、94年単優勝、94年インカレ単ベスト4、複準優勝、全日本テニス選手権複優勝(／駒田政史)。97年プロ転向し、現在に至る。全日本複タイトルは合計[5]、男子フェデラル複タイトルは合計[7]獲得。ATP最高単865位(05年11月)、複413位(07年10月)

監督に言われてきました
自分を信じ続けること
選手たちに伝えながら、
世界にチャレンジしていきたい

高田 充
(JTAナショナルチーム・ナショナルコーチ)

平成3年度卒業の我々は堀内監督が亞細亞大学に入り、強化を始めた最初の学生です。私は他の大学の推薦もいただいていましたが、夢をもった監督のもと、そして同期の素晴らしい選手と亞細亞でいっしょに活動がしたいという強い思いで、堀内監督にお願いして受験させていただきました。

大学生活では、学業、テニス、部活動と充実した時間を過ごし、社会に出る前の準備をすることもできました。当時の衛藤学長からもテニスが強いだけではなく、人間力を高めるという考えのもと、大学4年間教育を受けられたことは、現在の私にとって大きな財産となっています。

沖縄出身の私にとっては2、3月のセミナー春合宿はかなり寒く、たいへん厳しいものでした。夕方からの10kmランニングなどは、正直逃げ出したくなることもありましたが、それを乗りきることにより自信をもつことができたのも事実です。

大学リーグの団体戦では7部で(ひとりだけ)敗戦するという屈辱も、そしてチーム全員で成し遂げる喜びも味わうことができました。自分の夢、目標に

「チャレンジ」することを常に掲げて活動し、高校時代に戦績のほとんどない私が、全日本選手権で優勝し、グランドスラムも経験できたことは、亞細亞大学で経験した4年間、そして堀内監督から言われてきた「自分を信じ続けること」ができたからだと確信しています。

高校生の皆さんには、自分の可能性を信じ、目標をもって努力を継続する—言葉でいうのは簡単ですが、それに向かって「チャレンジ」する4年間であってほしいと願っています。それを実現できる環境はここにあります。

私は現在、ナショナルコーチとして活動しています。ナショナル選手のツアーに帯同して、常に強化を図り、レベルアップすることを心がけています。

デビスカップでは29年ぶりにワールドグループ入りを果たし、世界ランキング100位以内に3名が入るという目標も達成しました。今後も堀内監督に言われてきた、「自分を信じ続けること」を選手たちに伝え、世界に「チャレンジ」していきたいと思っています。

たか・みつる◎1969年9月26日、沖縄県生まれ、亞細亞大学出身。朝日生命退社後、2000、02年全日本選手権優勝。03年岩渕智プロのツアー同行、03~06年杉山愛プロのツアー同行。03、04、07、08年とフェド杯日本代表チームのコーチ。11年からデビスカップコーチ、男子ナショナルチームの指導にあたる。(公財)JOCアシスタントナショナルコーチ、(公財)JTAナショナルチーム、ナショナルコーチ(男子担当)、S級エリートコーチ



私が亞細亞大学進学を決めたのは、堀内監督からの1本の電話でした。高校2年生の夏に父親を亡くした私は、その後、糸の切れた凧のように、自分がどこに向かっているのかさえ理解しておらず、正直、自分の将来について真剣に考えていませんでした。

ただ、“なんとなくテニスが好きだからテニス活動がしたい”と漠然な思いをもっていた私に対して、堀内監督の「テニスが強くなりたかったら亞細亞大学に来い」という電話越しからの情熱的な言葉。私に亞細亞大学入りを決意させるのに時間はいりませんでした。

実際、大学に入学すると、同じ学年にいた多くのライバルたちといっしょに過ごす刺激は、私に大きなモチベーションを与えてくれました。今でもよく憶えているのが、合宿での朝から夕方まで練習をして疲れきったはずなのに、夕食後にナイターのフリー練習を欠かさず行なっていたことや、部活が休みの日に学校の近くのコートをみんなで借りてお金を出してまで練習していました。

また、いま考えると當時嫌だった、先輩後輩の上下関係を経験したことは、その後の活動において、コミュニケーション能力や忍耐力とい

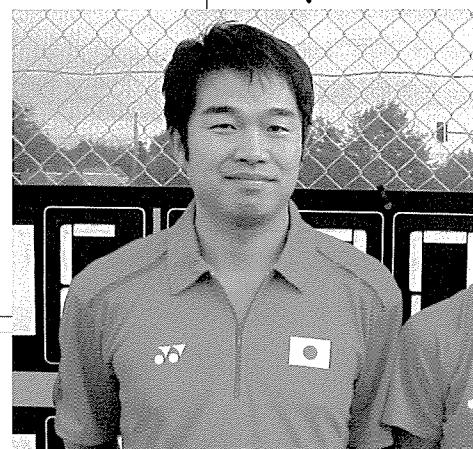
った、社会に出てからの重要な能力をつける修行期間であり、大きな財産となっています。

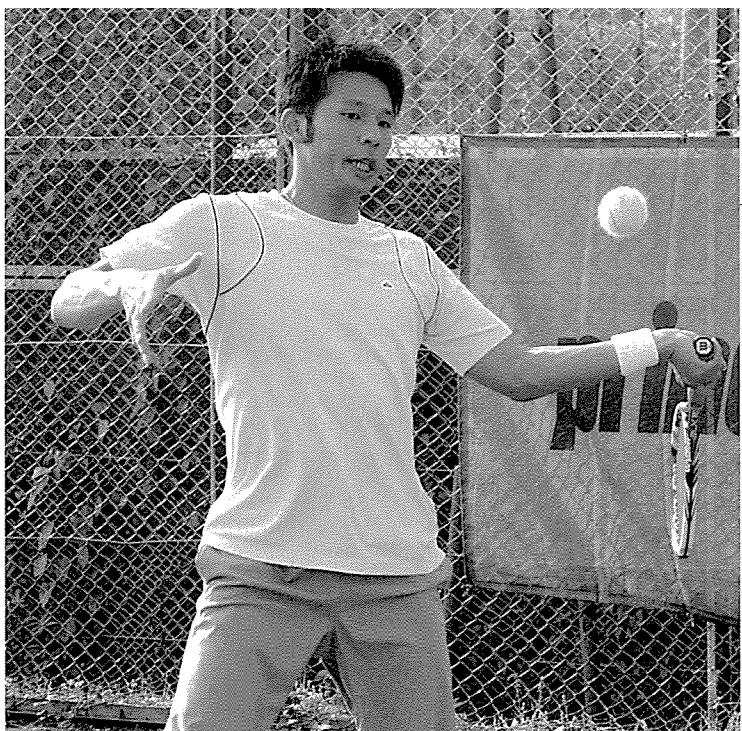
私は運よく大学4年のときに全日本選手権で複優勝(／佐藤博康)という結果を出し、ミキブルーンに就職できました。ミキブルーンではプロのような活動を8年間送ることができました。その後はナショナルコーチとして日本代表選手の強化に携わり、10年目になります。

人生は“自分の決断”でどんなことでもできると思っています。しかし、多くの選択肢を自分だけでは探し出すことができません。もし、この文章を読んでくれた高校生、ならびに両親、コーチがおりましたら、亞細亞大学を選択肢のひとつに入れて、真剣に自分の人生を考えいただければと思います。

こまだ・まさみ◎1973年3月30日生まれ。愛知県出身。名古屋高卒。90年U18全日本ジュニア複優勝。91年亞細亞大学入学。94年大学王座優勝。全日本選手権複優勝。95年ミキブルーン就職。ミキブルーンで選手活動を8年間行ない、JOP(現JTA)最高単9位。その後はコーチへ転身。現在は竹内庭球研究所をベースに指導者の道を歩む。日本テニス協会ナショナルコーチ、16歳以下女子日本代表監督。S級エリートコーチ

駒田 政史
(竹内庭球研究所)





指導者&大学院へ—

To a Leader & Graduate school

「自分に限界をつくるな」
宮崎 靖雄
(筑波大学大学院在学中／亜細亞大学テニス部コーチ)
監督の言葉は、いまでは私の一部となっています

私の亜細亞大学との出会いは中学3年のとき。堀内監督が私の出身地である熊本に、テニスの指導に来てくれたことがきっかけでした。当時、熊本県テニス協会は私が高校3年のときに行なわれる予定だった『熊本国体』に向けて、強化を図っていました。その中で協会が亜細亞大学に少年少女の競技力向上の要請をし、協力していただくことになったのです。

当時の熊本県のテニスは“全国レベル”とは言い難く、当然、私自身のテニスも全国レベルではありませんでした。全国大会に出場するためのエントリー方法さえ知らないという状況です。そんな環境の中で育ってきて、堀内監督の指導を受けたのですから、見るもの聞くものすべてが新しく、「亜細亞大へ練習に行きたい」「堀内監督の指導を受けてうまくなりたい」と思うのに時間はかかりませんでした。

中学3年の冬に東京に行き、亜細亞大の合宿に参加。およそ2ヶ月弱、大学生と同じ練習をさせていただきました。当時の亜細亞大は男女とも全国1位でしたから、先輩方にとっては私の存在は迷惑だったと思います。しかし私にとっては毎日が刺激的で楽しく、そのときの光景は昨日のことのように思い出されます。

高校生になると、休みのたびに練習に参加させていただくようになり、一方で堀内監督が熊本に出向いてくださり、指導していただくこともありました。そのような状況が続く中で、堀内監督の熱意が私の視野を世界へと向けさせてくれました。

熊本国体が終わっても、私の心中では「世界を目指したい。そのためには日本一の指導力を誇る亜細亞大に行きたい」という想いが募つていき、進学を決めたのです。

振り返れば、私の学生時代はテニスに没頭した日々でした。さまざまな成功もありましたが、たくさんの失敗もありました。そのようなとき

は監督の指導に救われています。指導者の言葉はときに人生を変える力をも�니다。私は堀内監督の言葉をいまでも憶えています。「どんなときでもさらに上のステージを目指せ」「自分に限界をつくるな」「何事にもチャレンジしろ」「テニスが強いだけでは意味がない」——これらの言葉は私の人間形成に大きく影響し、もはやそれは私の一部となりました。世間では『教育』に関するさまざまな問題がもちあがっています。私が考える教育問題において一番大事なことは、“尊敬できる教育者”に出会うことだと思います。私は、堀内監督は間違いなくそれに値する人だと思いますし、心から尊敬しています。

私は亜細亞大を卒業したあと、プロテニスプレイヤーとして活動し、世界を目指してきました。海外転戦する生活の中で、あるときプレイヤーとしての自分ではなく、別の自分がこんなことを考え始めたのです。「海外と日本のスポーツ観の違い」「スポーツ生活者のスポーツを享受する能力の違い」「スポーツの価値に対する認識の違い」「なぜ日本のスポーツは多くの国民にとって身近な存在となり得ていないのか」「スポーツをさらに多くの人に余暇のひとつとして気軽に、平等に行なわれるものとするにはどのような経営がなされるべきか」などです。そのような疑問がやがて好奇心へと変わり、研究することを始めました。いまは、これまでとは違う形でテニス界に貢献していきたい——そう思うようになりました。『体育経営学研究』の道を歩んでいます。

現在は筑波大学大学院に通いながら、亜細亞大のコーチをしています。学生たちに対する技術指導はもちろんのこと、私がこれまで経験してきたことを彼らに伝え、活かしてもらえるように、それによってたくさんの可能性を秘めた社会人になってもらえるように日々指導にあたっています。

大学という場所は、社会人になる前の最後の教育の場です。現在、私が周りを見渡す限り、勉強とテニスの両面で、本気で取り組んでいる組織は数少ないと思っています。亜細亞大は、学生が本気でチャレンジできる場所です。この素晴らしい環境を活用して、有意義な学生時代を歩んでみたいと考えている高校生の入部を待っています。

みやざき・やすお◎1981年8月29日生まれ。熊本県出身。熊本マリスト学園高校卒。98年全国選抜室内ジュニア選手権優勝。99年ウインブルドンジュニア出場、全日本ジュニア複優勝。00年亜細亞大学に入学。02年全日本学生室内単優勝、複準優勝。03、05年ユニアーシアード代表(05年トルコで複ベスト8)。JTA最高位単17位、複16位、ATP最高位単790位(05年)、複829位(05年)。04年に大学を卒業、プロ転向し選手活動を続ける。現在は筑波大学大学院にて体育経営学を勉強する一方、亜細亞大で後進の指導にあたっている

白華英

(国立長岡技術科学大学大学院)

私は今まで“運動”という目的でテニスをしてきましたが、テニスをさらに突き詰めてみたいという思いから、“テニスを数値で分析する”という分野に興味をもち、大学院へ進みました。それまでの文系から理系へ、分野がまったく違ったため、最初は戸惑いましたが、時間が経つにつれ毎日が新しい発見で、とても刺激的で楽しく、充実したものとなりました。

大学時代は私にとって、社会に出るまでの土台づくりとなりました。大人の世界では「まあ、いっか！」で終わらせる事はできません。学年が上がるごとに重くなっていく責任は、辛いときもありましたが、いまとなってはその経験があったからこそ、いまの私の土台ができ、社会に出ていくことができたのだと思います。

また大学という場所は、たくさんの人の出会いの場でもありました。中でも、テニスを通じて知り合った大学の先生には、大学院へ進学してからもとてもお世話になっています。そして何より、楽しいときも辛いときも、ともに乗り越えてきた大学時代の仲間とは、男女問わずいまでも連絡を取り合っています。

高校生の皆さん、何かに熱中できる時間、学生である時間を大切にしてください。私の場合はテニスでしたが、どんなことでもいい、一杯打ち込んだものは自分を支える土台になると私は思います。

はく・はなえ ◎1987年9月26日生まれ。新潟県立長岡高校卒。05年千葉インターハイ単2回戦。06年亞細亞大学国際関係学部入学。09年アジア女子ローンテニス部主将。10年に大学を卒業し、国立長岡技術科学大学大学院に進学



私は今年の春に亞細亞大学を卒業し、その後、日本体育大学大学院へ進学しました。大学院ではコーチング学を研究をしています。将来はテニスの指導者を目指しています。

以前から、大学を卒業したら指導者の道に進もうと思っていましたが、具体的な方法は決めかねていました。大学院進学という選択をした理由は、堀内監督の「大学院に行って勉強したらどうだ」のひと言が大きなきっかけとなり、

新たな勉強をしようという決断につながりました（結果的に監督と同じ道を進むことになりました）。

大学時代は、部活動を通じてたくさんことを学びました。特に4年生のリーグ戦では、同学年や部員たちに助けられ、“仲間の大切さ”を改めて実感できました。また、部員それぞれに与えられた役職を行なうことは、自身を大きく成長させてくれるものだと気づきました。私の場合はフューチャース開催の際に、メディアチーフとして活動したことによって「責任感」と「達成感」を得ることにつながっています。

大学を卒業して思うことは、亞細亞には多くのチャンスがあり、自分次第でいくらでも可能性を伸ばすことができるということです。のために、なくてはならない指導者がいて、環境があります。私はその中でかけがえのない仲間を得て、かけがえのない経験ができます。ひとつひとつの出来事が、自分自身を成長させてくれるチャンスとなります。高校生のみなさんには、亞細亞でしか得ることのできないチャンスがあるということを伝えたいです。そのチャンスを自らの手でつかんで、充実した大学生活を過ごしてほしいと思います。

森嶋修
(日本体育大学大学院)
アシスタントでしか得ることができない
チャンスがあります

もりしま・おさむ ◎1989年4月29日生まれ。長野県出身、長野日本大学高校卒。08年亞細亞大学入学。2010、11年亞細亞大学国際オープンテニスのメディアチーフを担当。2011年は副将を務める。12年に大学を卒業し、日本体育大学大学院に在学中





中村聰利

(浦和学院高等学校)

偏差値よりも個性値を大切にする
大学で、「個」を磨くことができました

10歳でラケットを初めて握ってから今までの26年間で、テニスを通じてさまざまなことを学んできました。「感謝すること」「あきらめないこと」「勝つために最善を尽くすこと」「相手を尊重すること」「チームの一員として役割を果たすこと」など。そして何よりもかけがえのないことは、「テニスを通じて多くの人と出会い、国内に限らず海外の友人もでき自分の視野が広がったこと」です。そんな経験をすることができた場所のひとつに、亞細亞大学があります。

当時は同世代のトップたちとともに、学生時代の大半をテニスコートで過ごしました。好きなテニスに夢中になり、その楽しさを感じ、ときには勝てない自分に悩み苦しんだりもしましたが、そんな日々と向き合いながら過ごせたのも「テニスが大好き」という思いと、堀内監督をはじめとした仲間が亞細亞という環境にいたからだと思います。

印象深いのは、日本一を決める大学王座決定試合に、4年次で挑んだ「王座奪回」。結果、優勝することはできませんでしたが、部員が同じ

方向を向き、本気で戦い抜いた準優勝には清々しいものを感じました。

現在は高校教師として教壇に立つと同時に、亞細亞で培った経験を生かし、テニス部顧問として務めています。私の指導の心得の中には、孔子の言葉「水は方圓の器にしたがう」があります。これは「人は環境や交友関係によって善くも悪くも変わる」という意味です。お互いが信頼し、尊重し合える仲間をつくり上げることこそが、私たちにとっての「師」であり「テニス」なのだと思います。だから、指導者は自らを高め、その環境づくりにエネルギーを注がなければいけないと感じています。

最後に、これから社会を生き抜くためには「個」が問われることでしょう。偏差値よりも個性値を大切にする大学で、自身も「個」を磨くことのできた亞細亞は、誇りのものてる私の母校です。亞細亞の門を突き破り、挑戦し続ける高校生の入学を期待します。私も生徒とともに、挑戦続けています。

なかむら・あきとし◎1975年12月13日生まれ。山形県出身。日本大学山形高等学校卒。93年全日本Jr.18歳以下単ベスト32。94年亞細亞大学入学。97年インカレ複ベスト32。98年に卒業し、98~04年までJAMプランニングにテニスコーチとして務め、ジュニア育成に携わる。04年4月から学校法人明星学園浦和学院高等学校に教師として就任し、現在に至る

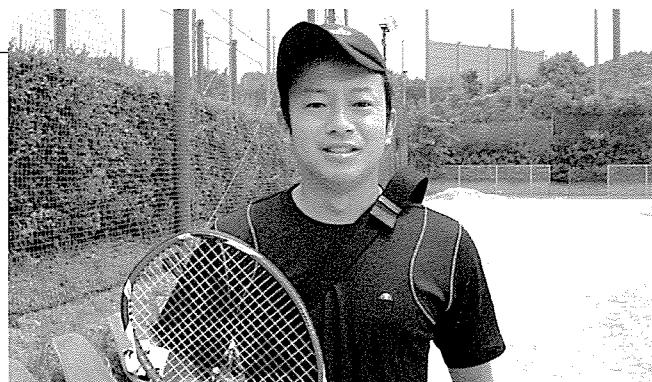
私が亞細亞大学に進学した理由は、テニスに本気で打ち込みたいと思ったことと、自分を大きく変えることのできる環境があると思ったからです。

学生時代は1、2年となかなか思うような結果が出せず苦しい思いをしましたが、3、4年になると試合経験と練習量が増加し、海外遠征(ポルトガル)によって自信がつき、インカレに出場して勝つことができました。なおかつレギュラーとしてリーグ戦に出場することもできました。また4年次には主将となり、同期の皆さんに支えられて乗り越えることができました。

“責任”という大きなものを背負いながら日々を過ごせたことが、自分を成長させてくれたように思います。

私自身は高校まで、テニスクラブで練習をしていたので、大学からの部活生活は本当に新鮮でした。今まで自分でもうまくなるとか強くなると思っていましたが、部活でやることによってチームで強くなると思えるようになり、“協調する”ことの大切さを知りました。

現在、私は教師として、またテニス部顧問として活動しています。最初から教師を目指していたわけではありませんでしたが、教育実習を経験し、教師のたいへんさを知るとともに、人を変えることのできる仕事というところに非常に



魅力を感じました。自分が指導している子供たちが日々成長している姿を見たり、自分の伝えたことを実践して変わろうと努力している姿を見ると、まさにやりがいを感じます。

高校生のみなさん、亞細亞には本気になる環境があります。いつかは現役を退き、本気でコートを走り回ることもなくなります。しかし、そうなる前に大好きなテニスと納得いくまで本気で向き合い、本気で生きることを感じてください。最高の人生を送るためにには最高のプロセスを送ること。そのためには日々何事にも全力で取り組むこと。頑張れ高校生!!

しんや・あきら◎1985年3月7日生まれ。大阪府出身。大阪産業大学附属高等学校卒。03年亞細亞大学入学。06年春季関東学生単&複ベスト32、インカレ単ベスト64、複ベスト32。07年に卒業し、現在は母校である大阪産業大学附属高等学校に社会科教員として務めるかたわら、テニス部顧問としても活動している

新谷啓

(大阪産業大学附属高等学校教師)

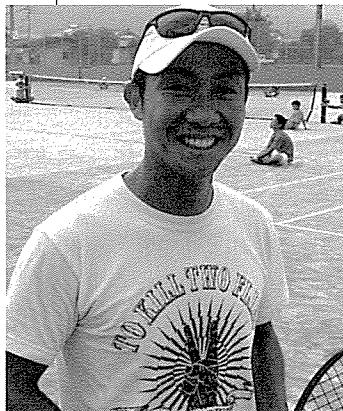
本気になれる環境で、本気で生きることを感じてください

本当のテニスが追求できる環境で…自分の可能性を最大限引き出せる場所で…やるからにはトップで…そう思つて私は亞細亞大学を選びました。

大学に入ってからのことと思い返してみると、最初に思い出すのは1年目の合宿です。慣れない環境で、周りは高校時代のトップ選手や強い先輩ばかり。毎日が不安で逃げ出したくなる日も多くありました。しかし思えば、あのときの経験がいまの自分を支えています。もしもあのとき逃げ出していたら、社会に適応できない弱い人間になっていたかもしれません。

高校生のみなさん、自分の可能性を信じて亞細亞でいろいろなことに挑戦してください。その挑戦が大きな力を与えてくれ、タフな大人へと成長させてくれるはずです。高い志をもった堀内監督、森コーチ、熱い仲間たちといろいろな価値観を共有するという経験は、いまの私の仕事、教師として生徒や部員を指導することに繋がっています。みなさんのこれから挑戦は、必ず将来へと繋がっています。

やまうち・としや◎1985年10月17日生まれ。高知県出身。高知高卒。02、03年全国選抜高校テニス大会団体出場。04年長崎インターハイ複ベスト16。05年亞細亞大学入学。06年春季関東学生出場。大学を卒業後、高知中学・高等学校に教師として就任し、現在に至る



(高知中・高等学校教師)

山内俊哉

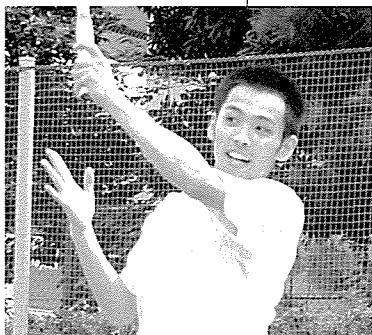
自分の可能性を信じて挑戦
タフな自分にきつとなれます

--- 教師へ --- To a Teacher

大学3年の1月にオーストラリアン・オープンを観戦しに行きました。木陰で堀内監督と話をしているときに、何がきっかけかはわかりませんが「教師になれ」と言われ、思わず頷いてしまったのを憶えています。

中学の頃から部活でテニスを続けてきた私は、高校も大学もしっかりととした指導者のものと、トップで闘っているチームに所属したいと思っていました。だから亞細亞を選びました。亞細亞は「あり得ない」くらい上下関係が厳しく、当時は「あり得ない」と思ったこともましたが、それがいま社会に出て一番役立っていると感じています。チームで闘ったこと、喧嘩したこと、感動したこと、夜通し考えたこと、あの雰囲気の場所すべてがいまに繋がっています。「応援すること」「支えること」はまさにいまの私の仕事。「可能性を信じること」「勇気を与えること」は、生徒の成長に繋がっていると実感できます。これから出会うまだ見ぬ生徒たちも、きっと私を成長させてくれるものと信じています。

えんどう・まりこ◎ 1983年7月11日 生まれ。埼玉県出身。浦和学院高等学校卒。01年熊本インターハイ団体ベスト16、複出場。全日本ジュニア18歳以下複ベスト16。02年亞細亞大学入学。05年インカレ複出場。06年大学卒業。社会科教員免許取得。07年日本体育大学で体育の教員免許を取り、翌年、学校法人明星学園浦和学院高等学校の教師として就任し、現在に至る



(浦和学院高等学校教師)

遠藤真理子

「応援すること」「支えること」は、まさにいまの私の仕事につながっています

（水戸 啓明 高等学校教師）
細谷亮太
「目標を達成するために自分が変わること」「自分が亚細亚で学んだことです

「教師になる」——高校での3年間の部活を終えたあと、自分が学んできたことを後輩に伝えたいと思ったのがきっかけでした。その気持ちちは大学4年間も変わることはなく、現在は、昼間は教壇に立ち、放課後はテニスコートに立っています。

教師としてはまだまだの私ですが、生徒の3年間、あるいはその先の将来を担っているという意識をもち、日々充実した生活を送っています。私の指導の軸は「目標を立てたら、達成するために自分が変わる」ということです。目標を変えすることは簡単ですが、それでは自分はいつまでたってもそのままです。「自分が変わる=成長する」ということを教室でもコートでも意識して伝えています。このことは私が亞細亞で学んだことであり、この志があったからこそ、私はいま教壇に立てていると自負しています。

「百聞は一見に如かず、一見は一体験に如かず」、私の好きな言葉です。高校生のみなさんは最初の一歩を踏み出し、自分で経験してみてください。そしてテニスを通して人として大きく成長してください。

はそや・りょうた◎1988年4月12日生まれ。茨城県出身。霞ヶ浦高校卒。06年インターハイ3回戦。07年亞細亞大学入学。10年亞細亞大学国際オープンテニスアシスタントディレクター。11年に大学を卒業し、都内の小学校に非常勤勤務。その後、12年水戸啓明高校国語教員として勤務、現在に至る





平良和己

(沖縄尚学高等学校)

高校時代に歯が立たなかつた選手に勝つたとき、亞細亜で間違いなかつたと思いました

6歳でテニスを始めて、高校まで地元・沖縄で活動しました。高校時代はインターハイで団体ベスト8に入るも、個人戦は1、2回戦負け一一どうしてももっと強くなりたかった——。関東1部リーグではない、偏差値の高い名門の大学にも誘われましたがまったく興味がなく、全国のトップ選手が集まり、10面のテニスコートとグラウンド、トレーニングセンターなどの素晴らしい環境、そして堀内先生の指導に「ここだ！」と感じて亞細亜の門を叩きました。

4年間の学生時代は、大半をテニスに費やしたと言っても過言ではありません。沖縄にはない素晴らしい環境の中、全力プレーできることに、今までにない充実感を覚え、毎日テニスコートを走り回り、自分なりに限界を目指してきました。そんな中で高校時代にはまったく歯が立たなかつた選手に関東学生で勝ったとき、

亞細亜を選んで間違いなかつたと感じました。リーグ戦、大学王座という今まで味わったことのないプレッシャーの中での試合は、いまとなればとても良い経験だったと思います。人生であれほどのプレッシャーはなかなか味わえるものではありませんから。

現在は高校の教師として教壇に立ち、放課後は部活を指導しています。もともと教師になるとは思っていませんでした。何となく4年間で免許が取れるならと思い、3年次から教職授業を受け、社会科の教員免許を取得しました。亞細亜のテニスクリニックで人にテニスを教える楽しさを感じ、今までの経験を地元で伝えられたらと思うようになったのです。堀内先生、森コーチの指導は、いまの私の部活指導の基本になっています。亞細亜での経験が、教師となつたいまの私を支えています。

大学4年間で目標を達成するために、誠実にテニスと向き合い努力することで、人として成長し、社会で認められる人間になる——亞細亜はそれができる場所です。目標があるなら、私は亞細亜を選んでほしいといいます。

たいら・かずみ◎1982年6月29日生まれ。沖縄県出身。沖縄工業高校卒。インターハイ団体ベスト8。01年亞細亜大学入学。04年新進ベスト4、春闘単ベスト8。04年大学を卒業。05年日本体育大学で体育教員免許取得。06年沖縄尚学高等学校体育教員に就任、現在に至る

私はテニスが大好きで、もっとうまくなりたいという一心で亞細亜大学に入りました。大学生活でまず感じたことは「自由」があるということです。自由というのは一見良い言葉に聞こえますが、一步間違えると道を踏み外してしまうことになります。私は自由であるからこそできる部分を生かして、自分の決めた道をはずさないように、4年間を過ごしてきました。

部活動では、自主的に取り組む大切さ、チームで協力することの大切さを学びました。特に4年間苦楽をともにしてきた同級生たちとは、いまでも連絡を取り合っています。信頼できる本当の仲間と出会えたのも、この亞細亜という環境があり、どんな逆境も皆で協力し合って乗り越えてきたからこそだと感じています。

また、最後までやりきるという力を身につけることができたと思います。この力があるからこそ、社会人になり、仕事に生かすことができていると思います。いまになってですが、改めて大学4年間を亞細亜のテニス部で部活動をやってきて本当に良かったです。

私が教師の道を進んだのは4年生になり、就職をどうしようか迷っていたころ、教育実習に行き、普段味わえないような感動を味わったこ



(立命館高等学校教師)

岡林陽子

とがきっかけでした。教師になつたいま、何よりもまず毎日が楽しいです。そして毎日が刺激的で、良いようにも悪いようにも自分の心が生徒に動かされています。日々変化する子供たち、その変化に関わり、目の当たりにできるということは教師でないと味わえないのではないかと思います。この仕事に出会えて本当に良かったと思っています。

おかばやし・ようこ◎1988年12月22日生まれ。京都府出身。富士見丘高卒。05年インターハイ団体ベスト8。07年亞細亜大学入学。10年春季関東学生出場、11年に大学を卒業し、立命館中学・高等学校の教師に就任、現在に至る

大学で身につけた最後までやりきる力が、いまの仕事に生きています

あきらめずに頑張れば報われるということを、身をもつて経験できました

三上英知
(伊藤忠商事株式会社)

私は一般入試で亜細亜大学に入ったので、入部当初は、自分のレベルが周りの同期、先輩とかけ離れており、やっていけるのかと不安を感じたのを憶えています。それでも自分を信じ、とにかく、毎日必死にボールを追いかけていました。途中、ケガなどもありましたが、堀内監督を信じ、あきらめずに4年間頑張った結果、入学当初は想像もしなかった成績を収められ、本当に良い経験となりました。

ありきたりですが、あきらめずに頑張れば報われるということを、身をもつて経験できたことと、主将をやらせてもらい、人をまとめるこ

との難しさを勉強させていただきました。両方の経験がいまの人生に生きています。

楽しかったことと言えば、何と言っても素晴らしい同期と出会え、いっしょに時間を共有できたことです。ほとんど兄弟のように365日いっしょにいました。反対につらかったことは、毎日でしたが(笑)、それくらい必死に練習していましたと思います。やはり4年のときに部の運営をしていて、なかなか全員が同じ方向を向いてくれなかったときはつらかったです。でもそれもいまとなっては良い思い出です。

亜細亜大学テニス部は、素晴らしい練習環境の下、テニスの大幅なスキルアップが図れることは間違いないし、同時に、人間力を磨ける本当に素晴らしいチームだと自負しています。ぜひ入部して自分を試してみてください。

みかみ・えいち◎1970年9月18日生まれ。静岡県出身。静岡聖光学院高等学校卒。89年亜細亜大学入学。91、92年春季関東学生複ベスト8、インカレ複ベスト32。91年全日本テニス選手権複出場、92年全日本学生室内複出場。93年大学卒業後、伊藤忠商株式会社、建設部門に配属。その後、食品流通部門へ異動し、ファミリーマート事業に携わる。06年より5年間、中国広州市へ海外駐在。駐在中もテニスを通じ日中交流を楽しむ。帰国後は、駐在の経験を生かし中国を担当



大学時代に得た経験は、良くも悪くもその後の自分の価値観などに強く影響しているということに気づかれます。好奇心さえあれば、およそほとんどのことに挑戦でき、没頭できます。この時間は非常に貴重な時間だったとも強く感じます。卒業後にアメリカの大学院に進もうと思ったのも、きっかけは、夏休みに参加したアメリカ遠征でした。

大学時代の振り返りに関して付け加えるなら、監督、両親はじめ、若さゆえに迷惑をかけてしまったいろいろな方々への懺悔の気持ちでしょうか。

私は当時のチームメイトと比べるとさほど戦績もなく、いわゆる“普通の人”だったため、裏方にまわることが多かったです。ただそのおかげで、部活動を過ごす中で選手としてプレーすることの喜びや辛さとともに、人を支えていくことの苦労や楽しさも知ることができたと感じています。そのバランスを身につけられたことは、いまの仕事においても通じるものがあり、あの経験が生かされているのだと思います。

最後に、高校生へお伝えしたいことがあります。

大学4年間は長いようで短い——本当に短い

ものです。その期間に、人として成長できる場所に身を置くことを躊躇わないでください。亜細亜大学テニス部の環境の素晴らしさは申し分なく、堀内監督はじめ、コーチ陣や先輩も、みんなの気持ちに対して正面から接してくれます。モチベーションさえあれば、確実に成長できる場所であると自信をもって言えます。そしてフューチャース運営やクリニックなど、多くの「人」と繋がることができるのも亜細亜大学テニス部の素晴らしいところです。その環境の中で切磋琢磨し、“悩む”“喜ぶ”を繰り返し、大学生活を一生の財産にしてください。

たに・やすひと◎1979年10月17日生まれ。静岡県出身。静岡県立清水東高校卒。97年京都インターハイシングルベスト32。97年なみはや国体少年の部5位。01年夏季関東学生複ベスト4。00年&01年インカレ単複出場。卒業後、06年アーカンソー州立大学大学院マスクミニュケーション学部修士号取得。10年からアメックススポーツジャパン株式会社(ウイルソン)マーケティング部に所属。市場調査、商品開発、アメリカ本社や工場との折衝、販売戦略企画、営業、広告作成など様々な業務に従事

好奇心さえあればほとんどのことに挑戦でき、没頭できる——この時間は本当に貴重でした

谷 泰仁

(アメックススポーツジャパン株式会社)



津布久萌

（株式会社リコー）

亞細亞大学での4年間のおかげで、何の違和感もなく会社で働くことができました

ただただ、テニスに夢中でした。夢中というより『必死』という言葉の方が適切かもしません。ナイター付きのコートに、トレーニングセンター、広い芝生が揃ったとことんやれる環境の中で、先輩の背中を見ながら、先生の知識を盗みながら、とにかくひたすらテニスに打ち込みました。

苦手だったサービスとフォアハンドは、フォームの改善から取り組み、走れる体をつくって、団体戦の醍醐味も味わうことができ、非常に充実した4年間だったと思います。しかし社会人6年目になつたいま、「私にとっての4年間は何だったか」と自問自答したとき、やはり「社会に出るための準備期間」だったと即答すると思います。

学生時代は正直、やっていることに意味があるかないかなんて考えてもいませんでした。何か終える毎に書かれる報告書やレポート、電話をかける際のはじめの挨拶、メール作成の際の定型冒頭文、クリニックや国際大会の運営……社会人になって初めて、これらが全て組織の中で活動していくうえでの義務やマナーに繋がると知りました。

例えば営業職に就いた場合、活動日報の入力や、商談進捗の報告や共有は当たり前のことですし、お客様への対応ひとつにしても、学生時代に身につけた習慣がそのまま現場で生かされました。

学生時代、「報・連・相」は必ずひとつ上の



先輩にしなくてはならず、年次を飛ばしてはいけないことに疑問をもつたりもしていましたが、企業の組織の中でリーダー→部長→事業部長と順を追っての「報・連・相」は基本です。また社内外問わず必要なコミュニケーション能力も向上しました。

このように、亞細亞大学での4年間のおかげで、何の違和感もなく会社で働くことができました。ここにはテニスをする上での素晴らしい環境が整っています。それだけではなく、社会に出ていく準備ができる環境もあるということをみなさんにお伝えしたいと思い、筆をとらせていただきました。みなさんのこれからのご活躍を心よりお祈りしています。



03年、関東リーグで7度目のアベック優勝

つぶく・もえ◎1985年1月24日生まれ。山口県出身。共栄学園高校卒。朝日生命久我山SC出身。01年全日本ジュニア16歳以下単優勝。03年亞細亞大入学。06年大学王座準優勝、全日本学生室内複数優勝。大学卒業後、07年株式会社リコーに入社。10年全国実業団リーグ3位。現在は引退し、社業に専念

亞細亞大学テニス部◎主な就職先一覧

大正製薬 / バイオニア / 松下電工 / NEC / 三井海上火災保険 / パナソニック / 豊田自動織機 / 朝日生命保険 / 大沢商会 / セコム / 伊藤忠商事 / ゼネラル石油 / ヤナセ / ワールド / 東芝 / 島津製作所 / NTT東京 / 日本鋪道NIPPO / 北日本物産 / NTT北海道 / 福岡銀行 / 日本生命 / 平和堂貿易 / 東急百貨店 / 松下通信工業 / 大東銀行 / アイシン精機 / 山陽新聞 / ディスコ / 野村証券 / ヨネックス / みずほ銀行 / レオパレス21 / 常盤薬品 / ANA / プリンスホテル / 警視庁 / 神奈川県警察 / JR北海道 / トヨタ自動車 / ブリヂストンスポーツ / アメア スポーツ ジャパン / イカイ / KONAMI / JA山梨 / 明治安田生命 / 三井住友海上 / アドヴァン

就職ガイダンス

卒業・就職までのスケジュール

1年 働く意味を知り、なりたい自分を見つける

2年 自分の強み、興味、関心を仕事に向ける

キャリアガイダンス

キャリア形成の取り組みをサポートする説明会で、ワークシートなどを用いてキャリアに関するレクチャーを実施します。

● キャリアフィールドワーク

「働くこと」をリアルに捉え、職業観をより明確にすることを目的としている。大学生版「社会見学」のようなもので、就職をより強く意識する絶好のチャンスです。

● 就職準備講座

夏季集中講座。就職活動の3大要素、「自己分析」「企業訪問」「模擬面接」を学びます。

● キャリア講演会

社会で活躍する著名人や卒業生を招いての講演会を行ない、学生時代に「何をすべきか」を知り、その後の「生き方」を考えていきます。

● 職業興味検査

進路の方向性を客観的に理解するための機会。「職業と自分」を考えていきます。

キャリア・就職支援プログラム

● 個人面談

「学生一人と徹底的に向き合い、同じ目線で将来を見つける」キャリアセンターは常に学生とひとつになり、各自の興味・関心や個性を見据え「進路」を模索します。

● グッドカンパニーフェア

2月、3月、5月に企業の人事担当者の方に来ていただき「学内企業説明会」が行われます。約200社を招き、業務内容などを細かく説明してもらいます。

● キャリアデザイン

なりたい自分への道を描くスキルを身につける。

● 卒業生との語らい

亞細亞大学の卒業生をキャンパスに招き、就職活動体験や業界・企業に関する情報を教えてもらうことができ、年齢が近く適切なアドバイスをもらうことができる。

● 業界研究セミナー

「業界」の概念を学び、志望企業をイメージする。日本を代表する企業約20社の人事担当者を招き、企業の動向や採用情報、求める人材像などを詳しく解説してもらいます。このセミナーをきっかけに進路を決定する学生も多数います。

資格取得支援および各種講座も多数あり

公務員試験講座
[1講座6コース]

民間企業就職試験講座
[1講座2コース]

資格取得講座
[10講座15コース]

TOEICテスト対策講座
[1講座16コース]

語学会話講座
[3講座15コース]

福祉関係講座
[3講座6コース]

専門課程

① 教職課程

① 社会科、英語科 (国際関係学部のみ)

中学校、高校の一種教員免許状の取得を目指します。取得できる教科は、高等学校の公民・商業・英語高等学校の商業は、経営学部経営学科のみ。中学校の社会・英語中学校・高等学校の英語は国際関係学科のみ。学校図書館に配置される司書教諭の資格も取得できます。幅広いプログラムで実力のある教員を養成しています。

② 図書館学課程

図書館法によって定められている図書館司書の資格を取得できます。同時に、情報システムを駆使できる専門職を育成します。

③ 社会教育主事課程

生涯学習の企画・立案を行なう専門職を目指します。本課程修了で社会主事の講習を履修したことになります。

亜細亜大学では、入学時から多彩なキャリア・就活支援プログラムを展開。

自分に合った職業に就けるように全学年を通じ、個別面談を中心に細かなサポートを行なっています。

3年 自分の適正を見極め、
目指す業界、
職種を絞り込む

4年 就職活動本番!
自信を持って選考へ

就職支援ガイダンス

●自分を知る

自己理解、自己分析、履歴書作成を支援します。



●業界・企業を知る

「人事担当による模擬面接」に「ビジネスマナー講座」「文献情報入手講座」「内定者に聞く“就活の基礎”」「卒業生との語らい」「業界研究セミナー」などの実施。

●いざ就活!

「グッドカンパニーフェア」「学内企業説明会」「専任職員による個別面談」の実施。

キャリア・就職支援に関するセミナーや目的別講座を実施します。3年次には介護体験、4年次には教育実習が行われます。

インターンシップ体験

2、3年次の夏休みに「インターンシップ体験(就業体験)」に参加するのが一般的。1年次にも参加できます。

→「教育実習に行ってきました!」



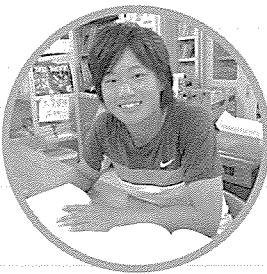
山口福太郎

(国際関係学部国際関係学科4年)

私は中学と高校の教員免許を取りたかったので3週間、母校へ実習に行きました。当初、しっかり生徒に英語を教えられるのかという不安と3週間乗り越えられるかといった不安がありました。しかし、部活動で培った体力、精神力で乗り越えることができました。私は高校生の頃、勉強は全くやりませんでした。

そんな私でしたが、テニス部に入部し、留学を経験し、大学の授業にふれる内にいつしか英語を勉強するようになりました。文武両道は大変厳しいものでしたが、出会いと別れを繰りかえす教職に魅力を感じ、教職課程も取ることができました。

実習先では授業一コマ頂いて大学生活の話をする機会や生徒と一緒に文化祭を楽しんだりと普段体験できないようなことができました。十人十色という言葉があるように、生徒一人一人にはそれぞれ感じ方、考え方方が異なります。教師は生徒の性格や態度も注意深く観察しなければいけないと思いました。授業においては自分なりに勉強してきたつもりでしたが、いざ教壇に立ってみると自分の知識の浅さに愕然としました。それからは毎日2、3時間は教材研究し、休みの日は図書館で指導教案を作成したりしました。おかげで最後の研究授業ではこれまでの成果が出て一番良い授業ができました。この3週間はたくさんの気付きがあり、成長できたと思います。これからも勉強は続け、立派な先生であり続けたいと思います。



伊藤優花

(経済学部経済学科4年)

実習前、私は人前で話すことには若干の抵抗感がありました。しかし、初日から朝礼と終礼を任せられ、声が小さいとの指導を担当教官にうけました。しかし、合唱指導で変わることができました。

私の学校では文化祭が1学期にあり、受け持ちのクラスの出し物として合唱することになりました。しかし、はじめての合唱練習ではクラスの半数は全く練習に参加しようとせず、その日の終礼で私が

練習をみて感じたこと、私が取り組んでいる部活動の話を精一杯生徒に伝えると、生徒が一生懸命話を聞いてくれ、その日を境に、徐々に生徒と反応を見ながら話す内容の順番を入れ替え、声の抑揚を意識して、より生徒の注意をこちら側に向かせる工夫をする余裕ができました。そして、生徒もその日から全員が真剣に合唱練習に取り組んでくれるようになりました。

授業の準備は本当に大変で、一つのことを教えたときに、そのことに関連する歴史的背景や現在の社会の動向など一つずつ丁寧に調べ、そして50分の授業の中で何を話し、そしてより分かりやすく生徒に伝える表現を考えることが大変でした。一つの授業の準備をするのに1日図書館に詰めても足りないぐらいにやるべき内容が多かったです。それでも、前向きに取り組むことができたのは生徒の一言です。偶然廊下で出会った生徒に「先生の授業分かりやすかったです」と言ってもらいました。この一言は一生懸命やってよかったと思える一言でした。

教育実習を通じて、短い期間の中でも生徒が成長していることを実感し、自分自身も今が頑張り時であることに気付かせてもらいました。

私たち亞細亞大学が“国際大会”を開催するには意味がある

レポート◎渡邊芽衣
(国際関係学部国際関係学科4年)

2013年国際大会開催レポート

男子 亞細亞大学
国際オープンテニス予選○3月9-11日、本戦○3月12-17日／
本学日の出校地テニスコート／賞金総額1万ドル女子 亞細亞大学
国際女子オープンテニス予選○3月23-25日、本戦○3月26-31日／
本学日の出校地テニスコート／賞金総額1万ドル

はじめに

本学主催の男子国際大会は、7回目を数えます。今年は新たに、念願だった女子の国際大会も初開催することができ、本当にうれしい限りです。昨年度は、東日本大震災の影響により、予選をスタートしたものの、途中で中止を決断、開催を見送ることとなりましたが、今年はたくさんの方々のご協力を得て、無事に全日程を終了することができました。

私たちはこの大会を——『若い選手にチャンスを』——という思いで開催しています。このような国際大会を国内で開催する利点、継続が必要な理由、そして私たち大学生が開催する意義などをここに記し、読んでくださったみなさまに、少しでもご理解いただければ幸いです。

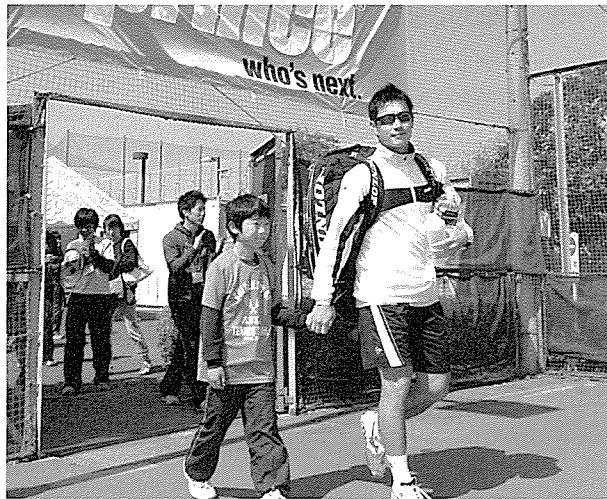
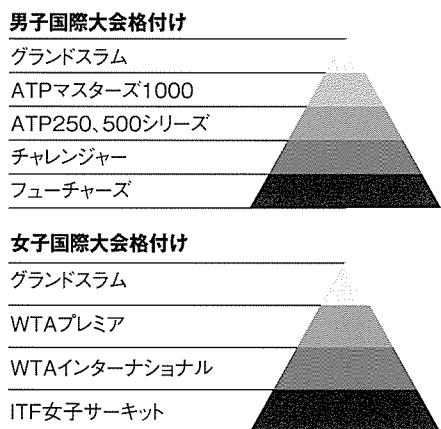


図1

表1 2011年男子
フェューチャーズ大会数上位国

順位	国	大会数
1	スペイン	40
2	ブラジル	35
2	トルコ	35
4	アメリカ	31
5	イタリア	30
6	アルゼンチン	21
7	フランス	20
8	ドイツ	17
8	イギリス	17
8	メキシコ	17
(21位)	日本	4

※東日本再震災の影響により、大会数が大幅減少

表2 2011年男子
世界ランカー数上位国

順位	国	ランカー数
1	アメリカ	125
2	フランス	114
3	アルゼンチン	108
4	イタリア	102
5	ドイツ	101
6	スペイン	96
7	ブラジル	84
8	ロシア	66
9	オーストラリア	63
10	イギリス	50
—	日本	42

国内で国際大会を開催する意味

私たちが開催する「男子フェューチャーズ」「女子サーキット」と呼ばれる大会は、国際大会です。図1をご覧ください。両大会は、世界各国で開催されている数ある国際大会の中で、一番底辺に位置するものです。テニスプレーヤーが世界をめざし、世界の頂点へと羽ばたくための第一歩、または、登竜門となる大会です。現在、活躍する多くのトッププレーヤーたちは、まさにこの大会を経て、成長してきました。

次に、この大会がどれだけ重要であるかを知りたいと思います。表1と表2をご覧ください。表1は2011年に開催された男子フェューチャーズを数え、もっとも多く大会を開催した順に並べた表です。次に表2は、男子世界ランカー数を国別に数えたものです。

両者を比べるとよくわかりますが、上から順に見ていくと多少の順序の前後こそあれ、出てくる国名がほぼ同じであることがわかります。つまり、男子フェューチャーズの大会数が多い国ほど、世界ランカー数も多いということがわかります。大会数が多い国は、選手が自国にいながら多くの大会に参戦することができ、世界ポイントを獲得できるチャンスがたくさんあるということです。ポイントを獲得したのちに次のステージ(チャレンジャー大会)へと進む、ステップアップがしやすくなります。

男女国内国際大会数ランカー

ここ数年のランカー数と大会数に大きな変動はありませんが、変わってきたのはランカーに大学生とジュニアの名前が並んできたということでしょう。その反対に大会数は男女ともに減少気味にあります。これには主催者側が大会を開くことの難しさが見受けられます。フューチャーズなどの小さな大会であればあるほど、スポンサーのメリットや世間の注目度というものは低くなってしまいます。資金などの面をみるとだけで1つの大会を開催する為の大変さがわかります。フューチャーズを1つ開くために約400万円という資金が必要とされています。大会の数の多さはそのままその国の世界ランカーの数を表すと言っても過言ではなく、減少傾向にある日本の大会を増やすことが、日本のテニス界にとって重要なこととなります。チャンスを日本のテニスプレーヤーのみならず、外国人プレーヤーに与え全体の底上げを図るとともに誰でも世界を目指すことができる環境を作ることが必要です。大学は国際大会を開き続け、機会を提供し、そこからトッププレーヤーを排出していく流れを作ることができるところです。日本では8つの国際大会が開かれていますが、これを今の2倍にしてさらなる機会の提供、テニスへの注目度の向上を目指していくことが大切ではないかと考えます。

表3
国内男子フューチャーズ7年間の推移

年	国内大会数	ATPランカー数
2006	12	39
2007	11	38
2008	11	41
2009	9	39
2010	10	45
2011	4	42
2012	9	48

※注:2012年7月現在。



表4
2013年女子
サーキット大会数上位国

順位	国	大会数
1	トルコ	42
2	アメリカ	40
3	スペイン	37
4	イタリア	31
5	フランス	24
5	ブラジル	24
7	日本	17
7	イギリス	17
9	オーストラリア	14
10	アルゼンチン	13

表5
2013年女子
世界ランカー数上位国

順位	国	ランカー数
1	アメリカ	116
2	ロシア	102
3	イタリア	81
4	フランス	70
5	日本	67
6	ドイツ	54
7	中国	49
8	スペイン	43
9	チェコ	40
9	オーストラリア	40

なぜ大会が増えないのか

この表を見て、お分かりになるように予選出場者、本戦出場者の日本人数が圧倒的に多いです。これは、日本で大会を行われているメリットです。日本人選手のほかに中国、韓国出身の選手も多いです。9つの大会の中で大学が主催しているものが4つを占めています。日本のプロ選手たちが出やすいことはもちろんのこと、ジュニアや大学生といった若者たちに世界を経験する機会とチャンスを与えていくこととなり



ます。また、優勝者を見てみても、日本人選手の名前が多く並ぶようになりました。嬉しいことに若い世代の名前が多く、優勝者以外でも大会の中で、若い世代が活躍し大会を盛り上げてくれています。これは国内国際大会があり、選手に挑戦する機会があるためであると考えます。国際大会の数を増やし、誰にでも挑戦できるようにすることが先決であると思います。大学がフューチャーズを開催することはテニス界全体を盛り上げる一つの役割となっておりこれからも継続し、大会数を増やすことが大事となってきます。

大学は少ない資金で大会が開催できる

その中で私たち亞細亜大学が大会を開催できる理由は、いくつかあります。まず、大学で大会を開催すると、テニスコート代がかかりません。それから、部員たちが大会運営を行うので人件費もかかりません。つまり少ない資金で大会が開催できます。大学が主催する国際大会というものは、今後、国内に国際大会を増設する際の大きな鍵になってくると思います。

男子フューチャーズに対して、女子サーキットはどうでしょうか。





前述したように（表4、5参照）、日本は大会数、世界ランカー数ともに世界にひけをとらない数を誇っています。しかし、今度は表6をご覧ください。これは日本で行われた女子サーキットの大会数と世界ランカー数を示したものです。女子は男子に比べて国内大会数が約2倍あります。その一方で、世界ランカー数の推移を見ていくと、06年には世界ランカーが80人いたのに対して、07年には53人まで減少。その後も、06年の数字には届いていません。これはいったいなぜなのでしょうか。

これは、06年以降、WTA（世界女子テニス連盟）でルール改正があり、賞金総額2.5万ドル大会は、予選に出場しても勝ち上がらなければポイントが得られなくなつたことが原因と考えられます。そのため国内では2.5万ドル大会を増設して、継続的にポイントが獲得できるような仕組みをつくっているのですが、その一方で、登竜門である1万ドル大会の増設、あるいはよりグレードの高い大会の増設が後回しになっています。1万ドル大会（女子サーキット）がなければ、

その上の2.5万ドル大会に出場することも難しくなってしまいます。だからこそ、私たちが1万ドル大会を開催することには大きな意義があると考えます。

国内で国際大会を開催する メリットとデメリット

国内で国際大会を開催するという意義はおわかりいただけたと思います。次に解説したいのは、国際大会を開催するにあたって生じる、メリットとデメリットについてです。

まずメリットは、日本人選手にとって普段の慣れた環境の中で試合を行うことにより、最高のコンディションをつくりやすいということです。また、遠征活動において、もっとも大きな問題のひとつとなる資金問題も、国内であればそれほど心配する必要がなくなります。それから、今まで海外に行かないとエントリーできなかった試合が、国内で開催されることにより、たいへん身近に感じることができます。海外の選手が日本にやって来てくれます。これは日本人選手のテニスの向上と活躍の可能性を大きくする効果があります。それから、もうひとつメリットを挙げたいと思います。それは地域の活性化です。国際大会開催とともにさまざまなイベントを開催することにより、地域内外から観客を集め、交流の場をつくるとともに、大会会場の近隣施設へと観客を誘導することもでき、地域活性化へ繋げることができます。

では反対に、国内で国際大会を開催するデメリットは何でしょうか。それは国際大会の「身近化」です。これはメリットでもあり、デメリットでもあります。なぜなら、国際大会が日本で行われると、選手がわざわざ海外に行く必要がないと考え、海外遠征が減ってしまう可能性があるからです。確かに国内であれば費用もそれほどかかりずに試合を行なえます。しかし、新しい環境での刺激や不慣れな場所への適応能力など、海外遠征でしか得られない貴重な経験があることも事実です。

のことから、国内での国際大会を増やすと同時に、国内でポイントを獲得した後は、積極的に海外へ挑戦していくことが大切であると考えます。また、海外へ行くことの重要性

表6
国内女子サーキット8年間の推移

年	国内大会数	10万ドル	7.5万ドル	5万ドル	2.5万ドル	1万ドル	ATPランカー数
2006	18			3	10	5	80
2007	19			3	10	6	53
2008	18		1	4	8	5	54
2009	21	1	1	3	8	8	54
2010	20	1	1	3	6	9	58
2011	16			1	3	7	65
2012	14	—	1	3	4	6	67

※注:2012年7月現在。

表7
男子フェューチャーズ
本戦出場選手平均年齢比較

年度	日本人	外国人
2007	23.9歳	23歳
2008	25.8歳	21.5歳
2009	23.2歳	23.2歳
2010	23.4歳	21.6歳
2011	23.2歳	21.1歳
2012	21.5歳	21.1歳

※注:日本人は
F1亞細亞大学国際オープンで調査。



を選手だけが理解するのではなく、周囲の方々が理解することも、大切であると考えます。

私たちは若い選手たちに、国内でポイントを獲得した後は、ぜひ海外の大会にチャレンジして、「また一歩、ステップアップして欲しい！」、そう望んでいます。

亜細亜大学国際大会——7年目の変化

昨年、私たちが開催した亜細亜大学国際オープン（男子フューチャーズ）は、過去数年と比べて新しい変化がみられました。それは出場選手の「平均年齢」の変化です。

表7を見てください。これは、亜細亜大学国際オープンが始まった07年から12年までの本戦出場選手の平均年齢を「日本人」「外国人」と分けて比較したものになります。全体的に見ると、外国人選手の方が平均年齢が低く、日本人選手の平均年齢が高いことがわかります。なぜ日本人選手の平均年齢が高いのか、その理由のひとつには国土的なことが考えられます。海外は、自国開催大会数も圧倒的に多い上、隣国と陸続きで海外トーナメントに出場しやすいという環境があります。また、身体的な問題もあります。日本人は外国人に比べて、身体が成熟するのが遅く、成人後も体格差があるため、技術や体力の差を埋めるのに時間がかかってしまいます。それから、もうひとつの問題が、予選ドロー数にあると考えます。日本の男子フューチャーズのドロー数は、64ドローの大会が多くなってきてはいますが、まだ32ドローの大会もあり、一方で、海外のフューチャーズでは、コート数が多く、それにともないドロー数も128ドローなど、より多くの選手に出場機会が与えられているのです。

ここでもう一度、2012年大会の平均年齢に注目しましょう（表7）。2011年以前の出場選手の「平均年齢」は、日本人選手よりも圧倒的に外国人選手の方が若いのですが、2012年大会では、日本人選手が21.5歳、外国人選手が21.1歳とその差がわずかになりました。なぜ今回、このように平均年齢が下がる結果となったのでしょうか。それは、近年稀に見ぬ錦織圭選手を筆頭とした若手選手の活躍により、それに続こう

とするさらに若い選手たちが、「自分もできるかもしれない」という希望をもち、世界の登竜門大会へ挑戦するようになったためではないかと考えています。

今大会は、ベテランの近藤大生選手が初優勝となりました。女子大会も同様、ベテランのユ・ミ選手が優勝となり昨年とは違い、ベテラン選手の優勝となりました。アジア女子ローンテニス部からは、山本翔子、伊波佳苗、伊藤優花、安野聰美が出場し、山本翔子のベスト8が最高の結果となりました。昨年から比べると個人のレベルは上がってきているものの今年も例年同様課題の多い結果となりました。自分たちが開催している大会において、優勝するという目標を達成する事はとても大変なことです。だからこそより多くのことを学び、より多くのことを経験していくことが大切だと強く思いました。その為にも、この国際大会を何年も何十年も続く大会にできるよう、学生1人1人が自覚を持って行動していきたいです。

その反面、収穫の多い大会でもありました。試合に出た選手は勿論の事、試合に出ることができなかった学生も、各部署に分かれ仕事を受け持りました。AD(アシスタントディレクター)、審判、スポンサー担当、メディア担当、Tシャツ販売など、普段の学生生活では決して経験の出来ないことばかりです。その中で、様々な方々と交流できたことは私たちの財産です。

まとめ

日本のテニス競技がより発展するためには、男子フューチャーズや女子サーキットの大会数を増やすこと、そして継続させていくことが大切です。しかし、現実には資金面などの問題が大きく、大会数がなかなか増えずに、廃止されてしまう大会があることも事実です。

そこで、テニスコートが確保でき、スタッフも部員でまかなえ、人件費のかからない大学で大会をつくり、運営することがより重要になってくると思います。私たち亜細亜大学テニス部は、日本のテニス界がより発展するように、国際大会を開催することによって若い選手たちに出場機会をつくり、そして私たち自身の競技力向上にもつなげていきたいと思います。

私たちはこの大会を必要とする選手がいる限り、継続していきたいと願っています。大会を支えてくださる、多くのスポンサーの皆様、サポーターの皆様、そして地域の皆様には、温かいご支援、ご声援をいただき本当にありがとうございます。この場を借りて心よりお礼申し上げます。今後とも『亜細亜大学国際オープンテニス』ならびに亜細亜大学テニス部をどうぞよろしくお願い致します。



2013亞細亞大學國際オープンテニス 男子シングルス予選



ITF Supervisor/Referee
Gary Au-Yeung

Japan F1 Men's Futures

Week of	City, Country	Prize Money US\$	SINGLES		
			First name	Nationality	Tour. ID
2013/3/11	Nishi-Tama Tokyu, Japan	\$10000			
St.	Rank	Seed Family Name			2nd Round
1	1027	1 細貫裕介	ライフ・エヌ・ピー	細貫裕介	Finals
2		小野田賢	柳生園T.C.	6-1,6-0	細貫裕介
3		リー・クーン・イ	台湾	リー・クーン・イ	6-1,6-0
4		伊藤誠治	ルネサンス熊本	6-0,6-0	
5		松田隼十	高崎テニスクラブ	オウ・スォン・グ	細貫裕介
6		オウ・スォン・グ	韓国	6-4,7-6(8)	6-0,6-2
7	WC	銀代梧	亜細亞大学	銀代梧	オウ・スォン・グ
8	1950	16 高橋優	NTT東日本東京	6-3,6-2	7-5,7-5
9	1035	2 ウォン・チー・フ	台湾	ウォン・チー・フ	
10		渡辺将司	慶應義塾大学	6-4,6-0	ウォン・チー・フ
11		古田剛司	ミヤムラテニスセンター	高山和也	6-3,6-2
12		高山和也	亜細亞大学	6-2,6-1	ウォン・チー・フ
13		大塚陽平	亜細亞大学	湯原雅人	3-6,6-3,7-6(5)
14		湯原雅人	Fテニス	6-3,6-3	松尾友貴
15		成松智希	亜細亞大学	松尾友貴	6-4,6-1
16	1895	14 松尾友貴	イカイ	6-2,6-4	
17	1104	3 奥大賢	イカイ	奥大賢	
18	WC	安藤嘉晃	亜細亞大学	6-3,7-5	奥大賢
19	WC	糸井彬	亜細亞大学	戸田義人	6-2,6-2
20	WC	戸田義人	法政大学	6-1,6-2	奥大賢
21		今井慎太郎	早稲田大学	今井慎太郎	6-1,6-2
22		大城光	早稲田大学	6-0,7-6(5)	今井慎太郎
23	WC	高田航輝	慶應義塾大学	高田航輝	6-4,6-2
24	1781	13 ロンギ正幸	立川ジュニアテニスアカデミー	6-3,3-6,6-1	
25	1111	4 志賀正人	志賀正人		
26		ヘルナンデス匠	青山学院大学	6-4,6-2	志賀正人
27		守谷総一郎	MTSテニスアリーナ三鷹	守谷総一郎	6-2,6-0
28		野田雄希	亜細亞大学	6-2,6-1	志賀正人
29		西岡靖雄	亜細亞大学	上原伊織	6-3,6-1
30		上原伊織	甲南大学	6-1,6-1	吉田陸人
31		河内一真	テニスガーデン高根	吉田陸人	7-6(4),6-3
32	1571	12 古田陸人	早稲田大学	3-6,6-1,6-2	
33	1172	5 笹井正樹	法政大学	笹井正樹	
34		ロドニー・ヴィッキィーズ	アメリカ	7-5,6-0	笹井正樹
35		吉川叶	テニスラボ	吉川叶	6-2,6-2
36		吉田元樹	専修大学	6-3,6-2	笹井正樹
37		遠藤豪	早稲田大学	遠藤豪	6-1,6-2
38		松崎勇太郎	リビエラ選手マリーナTS	6-2,6-4	岡村一成
39		小堺遠馬	亜細亞大学	岡村一成	6-2,6-1
40	1402	9 岡村一成	早稲田大学	6-3,6-4	
41	1221	6 ソル・ジェ・ミン	韓国	ソル・ジェ・ミン	
42		細谷元基	荏原SSC	6-2,6-3	細貫敬介
43		細貫敬介	グローバルプロテニスアカデミー	6-2,6-3	6-3,6-2
44	WC	近藤大基	慶應義塾大学	7-5,1-6,6-3	細貫敬介
45		喜多元明	上尾テニスクラブ	喜多元明	6-2,7-5
46	WC	宮脇駿	亜細亞大学	7-5,6-1	喜多元明
47		シュ・ファン・ヤン	台湾	シュ・ファン・ヤン	6-3,6-4
48	1402	10 小野陽平	明治大学	6-3,1-6,7-6(5)	
49	1234	7 小山慶大	フリー	小山慶大	
50		小林浩貴	亜細亞大学	6-1,6-3	矢野洋
51		矢野洋	立川ジュニアテニスアカデミー	矢野洋	6-3,6-4
52		久松亮太	マサスポーツシステム	6-3,6-2,6-4	
53		大友優馬	法政大学	6-2,6-3	
54		内海章紀	インシテニスクラブ	6-1,6-3	大友優馬
55		メン・ユーウェイ	中国	齊藤秀	6-1,6-2
56	1895	15 斎藤秀	荏原SSC	7-6(1),6-4	
57	1392	8 竹島駿朗	日本大学	竹島駿朗	
58		福岡勇成	荏原SSC	6-1,6-2	竹島駿朗
59	WC	酒井陽悠	東海大学付属菅生高校	ソン・ミン・ギュ	7-6(5),6-3
60		ソン・ミン・ギュ	韓国	6-1,6-1	オウ・デ・スォン
61		田村亮	亜細亞大学	福垣剛吉エームズ	6-7(5),6-4,6-0
62		福垣剛吉エームズ	石井真テニスアカデミー	7-6(6),7-5	オウ・デ・スォン
63		勝井信太	アルドールテニスステージ	オウ・デ・スォン	6-0,6-0
64	1439	11 オウ・デ・スォン	韓国	6-3,7-5	

www.itftennis.com/mens

Acc. ranking	#	Seeded players	#	Seeded players	#	Alternates	Replacing	Draw date/time:	10MAR2013 13:40
Rkg Date	1	細貫裕介	9	岡村一成	1			Last Accepted player	
Top DA	2	ウォン・チー・フ	10	小野陽平	2			高山和也	
Last DA	3	奥大賢	11	オウ・デ・スォン	3			Player representatives	
Seed ranking	4	志賀正人	12	古田陸人	4			西岡靖雄	
	5	笹井正樹	13	ロンギ正幸	5			成松智希	
Rkg Date	6	ソル・ジェ・ミン	14	松尾友貴	6			Signature	
Top seed	7	小山慶大	15	齊藤秀				Gary Au-Yeung	
Last seed	8	竹島駿朗	16	高橋優					
						# Protected Ranking: Name (Line)			
						1	2		

2013亞細亞大学国際女子オープンテニス 女子シングルス予選

ITF Women's CIRCUIT 2013



Week of	City, Country	Prize Money US\$	Tourn. ID	SINGLES		ITF Supervisor
				2nd Round	Finals	
2013/3/22		\$10000				Aoi Kobayashi
St.	Rank	Family Name	First name	Nationality		
1	719	ハン・ナ・レ(1)		韓国	ハン・ナ・レ	
2	WC	内田 航乃佳		S.I.T.A	6-2,6-0	牛島 里咲
3		牛島 里咲		高崎テニスクラブ	牛島 里咲	7-6(5),6-7(1),6-4
4		涌井 真耶		美浜テニスガーデン	6-4,6-3	
5		江藤 奈緒子		JAPAN Tennis Players Production	寺見 かりん	
6		寺見 かりん		ラスタートTC	6-4,3-6,6-2	木下 ミサ
7		八島 ちひろ		亞細亞大学	木下 ミサ	6-2,6-0
8	1122	木下 ミサ(12)		TAI TENNIS SCHOOL	6-2,6-3	
9	750	小沢 槙穂(2)		CSJ	小沢 槙穂	
10		西改 衣		マサスポーツシステム	6-2,5-7,6-3	小沢 槙穂
11	WC	小林 夏実		志津テニスクラブ	小林 夏実	6-1,6-3
12		佐野 結花		ASKY	5-7,6-3,6-1	
13		中東 涼子		専修大学	中東 涼子	
14	WC	本多 彩乃		青森大学	6-2,6-1	ガソ・ソ・ギヨン
15		山下 舞子		チームジャパンテニス	ガソ・ソ・ギヨン	6-0,6-3
16	891	ガソ・ソ・ギヨン(9)		韓国	6-3,6-2	
17	791	加藤 未唯(3)		バブリックテニス宝ヶ池	加藤 未唯	
18	WC	辻本 有佳里		亞細亞大学	6-1,6-1	加藤 未唯
19		喜島 端乃		Athlete Gym	馬場 早莉	6-1,3-6,6-3
20		馬場 早莉		池田学園池田高校	7-5,2-6,6-4	
21		鈴木 玲子		湘南平テニスクラブ	上吉原 あい	
22		上吉原 あい		アウリンT.C	6-0,6-0	牟田口 恵美
23		金子 真理子		専修大学	牟田口 恵美	6-1,6-1
24	918	牟田口 恵美(10)		橋本総業	6-7(7),6-4,6-4	
25	806	リー・ヤ・スアン(4)		台湾	守屋 友里加	
26		守屋 友里加		テニスユニバース	6-3,6-3	久次米 夏海
27		宮原 未穂希		自由が丘インターナショナルカレッジ	久次米 夏海	5-7,6-2,6-2
28		久次米 夏海		山梨学院大学	6-1,6-1	久次米 夏海
29		荒木 史織		たちかわジュニアテニスアカデミー	荒木 史織	6-2,2-6,6-3
30		ホワン・ホワイ・シュアン		台湾	6-0,6-1	荒木 史織
31		本郷 未生		山梨学院大学	本郷 未生	6-2,6-2
32	1151	太田 紗苗 (16)		N.CSP	6-1,6-2	
33	814	森 友香(5)		島津製作所	森 友香	
34		田村 実里		山梨学院大学	6-1,6-1	
35		入江 真子		専修大学	入江 真子	6-0,6-1
36		安形 玲耶		城南学園高校	6-4,7-5	
37	1162	北川 梨央		ワイルテニスアカデミー	北川 梨央	
38		華谷 和生		新田高校	7-5,6-2	北川 梨央
39	WC	宮地 真知香		早稲田大学	宮地 真知香	2-6,7-6(3),7-5
40	1054	加治 還(11)		園田学園高校	6-3,6-1	
41	844	スー・チン・ウェン(6)		台湾	スー・チン・ウェン	
42		鈴取 世龍		ピックK	6-0,6-1	スー・チン・ウェン
43		川崎 光美		テニスユニバース	川崎 光美	6-1,6-0
44	WC	山藤 彩香		亞細亞大学	6-3,6-0	
45	WC	山浦 はる香		亞細亞大学	西郷 幸奈	
46		西郷 幸奈		志津テニスクラブ	6-2,3-6,6-0	リ・ヘ・ミン
47		リ・ヘ・ミン		韓国	リ・ヘ・ミン	6-1,6-1
48	1151	チェン・イー(14)		台湾	6-0,6-1	
49	881	中野 佑美(7)		立川ジュニアテニスアカデミー	中野 佑美	
50		山本 みどり		関西学院大学	6-3,6-1	
51		秋山 みなみ		TTC	菅村 恵里香	6-1,6-4
52		菅村 恵里香		筑波大学	6-4,6-3	
53		菅 梨花子		海中道T&M	酒井 優理子	
54		酒井 優理子		長崎県スポーツ専門員九州文化学園高校	6-2,6-7(2),6-4	西本 恵
55		西本 恵		慶應義塾大学	西本 恵	6-2,6-2
56	1122	渡邊 康乃(13)		サントピアテニスクラブ	6-1,6-2	
57	888	高山 千尋(8)		かねます食品	緒方 葉台子	
58		緒方 葉台子		グラスコート佐賀テニスクラブ	6-3,7-6(4)	緒方 葉台子
59		首藤 みなみ		城南学園	山口 司紗	6-4,6-1
60		山口 司紗		ミヤムラテニスセンター	6-7(2),6-4,6-3	
61		佐藤 朝子		フリー	水沼 茉子	
62		水沼 茉子		法政大学	6-2,6-0	
63	WC	松本 千広		亞細亞大学	松本 千広	6-3,6-3
64		1151 川崎 好美(15)		島精機製作所	6-2 Ret.	

www.itftennis.com/mens

Acc. ranking	Seeded players	#	Seeded players	#	Alternates	Replacing	Draw date/time:	2013/3/24 18:22
Rkg Date	1 ハン・ナ・レ	9	ガン・ソ・ギヨン	1			Last Accepted player	
Top DA	2 小沢 槙穂	10	牟田口 恵美	2			小和瀬望帆	
Last DA	3 加藤 未唯	11	加治 還	3			Player representatives	
Seed ranking	4 リー・ヤ・スアン	12	木下 ミサ	4			華谷 和生	
	5 森 友香	13	渡邊 康乃	5			首藤 みなみ	
Rkg Date	6 スー・チン・ウェン	14	チェン・イー	6			Signature	
Top seed	7 中野 佑美	15	川崎 好美		# ed Ranking: Name (Line)			
Last seed	8 高山 千尋	16	太田 紗苗	1	2			

2013亞細亞大學國際オープンテニス 男子シングルス本戦 SINGLES
MAIN DRAW

Week of	City, Country			Prize Money US\$	Tourn. ID	ITF Supervisor/Referee			
2013/3/11	日本, 東京-西多摩			10000	M-FU-JPN-01A-2013	ガリー・アン・ヤン			
St.	Rank	Seed	Family Name	First name	Nationality	2nd Round	Quarterfinals	Semifinals	Final
1	246	1	ヤン・チュー・ファ	台湾	ヤン・チュー・ファ				
2	659		江原弘泰	日清紡ホールディングス	6-2,3-6,7-6(2)	オウ・デ・スオン			
3	866		井藤祐一	ライフ・エヌ・ピー	オウ・デ・スオン	6-2,6-1			
4	Q 1439		オウ・デ・スオン	韓国	6-4,4-6,7-6(4)	近藤大生			
5	852		佐藤文平	ライフ・エヌ・ピー	佐藤文平	6-3,6-4			
6	Q 1104		奥大賢	イカイ	6-3,6-2	近藤大生			
7	WC		白井卓也	亜細亞大学	近藤大生	6-4,6-2			
8	435	5	近藤大生	アイシン精機	6-3,6-2	近藤大生			
9	400	3	エイドリアン・シコラ	スロバキア	エイドリアン・シコラ				
10	Q 1035		ウォン・チー・フ	台湾	6-1,7-5	エイドリアン・シコラ			
11	605		ナム・ヒョン・ウ	韓国	ナム・ヒョン・ウ	6-2,6-1			
12	WC		秋山和潤	亜細亞大学	6-2,6-4	松井俊英			
13	Q 1172		笹井正樹	法政大学	笹井正樹	7-5,6-3			
14	596		仁木拓人	柴沼醤油販売	6-2,6-2	松井俊英			
15	922		吉備雄也	イカイ	松井俊英	6-2,6-4			
16	496	7	松井俊英	ライフ・エヌ・ピー	7-6(5),7-5	近藤大生			
17	472	6	関口周一	三菱電機	関口周一	7-5,6-1			
18	699		田川翔太	早稲田大学	6-1,6-1	関口周一			
19	JE 1895		内田海智	大阪産業大学付属高校	内田海智	6-1,7-6(4)			
20	WC		仲村元希	亜細亞大学	6-1,6-1	内山靖崇			
21	Q 1111		志賀正人	慶應義塾大学	志賀正人	7-6(0),6-7(3),6-1			
22	Q 1027		綿貫裕介	ライフ・エヌ・ピー	6-1,6-4	内山靖崇			
23	Q		大友優馬	法政大学	内山靖崇	6-1,6-2			
24	403	4	内山靖崇	北日本物産	内山靖崇	6-1,7-5			
25	588	8	ナ・ジョン・ウォン	韓国	ナ・ジョン・ウォン	7-6(5),6-4			
26	841		リー・シン・ハン	台湾	ナ・ジョン・ウォン	6-4,6-7-6(6),7-6(5)			
27	WC		長船雅喜	亜細亞大学	菊池玄吾	ナ・ジョン・ウォン			
28	802		菊池玄吾	フリー	6-4,6-3	内山靖崇			
29	619		小ノ澤新	北日本物産	小ノ澤新	6-4,6-0			
30	646		片山翔	イカイ	6-4,6-3	ハン・リヤン・チー			
31	Q		綿貫敬介	グローバルプロテニスアカデミー	ハン・リヤン・チー	6-4,7-6(3)			
32	315	2	ハン・リヤン・チー	台湾	ハン・リヤン・チー	6-3,6-1			

www.itftennis.com/mens

Acc. ranking	# Seeded players	# Lucky Losers	Replacing	Draw date/time:
Rkg Date	1 ヤン・チュー・ファ	1		2013/3/16 14:56
Top Acc	2 ハン・リヤン・チー	2		Last Direct Acceptance
Cut-off	3 エイドリアン・シコラ	3		吉備雄也
Seed ranking	4 内山靖崇	4		Player representatives
	5 近藤大生	5		関口周一
Rkg Date	6 関口周一	6		Signature
Top seed	7 松井俊英	# Protected Ranking: Name (Line)		ガリー・アン・ヤン
Last seed	8 ナ・ジョン・ウォン	1	2	

ご協賛いただきました皆様

以下に掲載いたしました企業、団体、個人の方々からご協賛を頂きました。皆様のご厚意に大変感謝しております。ありがとうございました。※敬称略させていただきました。

ブリヂストンスポーツツールズジャパン株式会社 品川区南大井6-22-7 大森ベルポートE館	株式会社NIPPO 中央区京橋1-19-11	グローブライド株式会社 東久留米市前沢3-14-16	橋本総業株式会社 中央区日本橋小伝馬町9-9	東急グループ 渋谷区南平台町5-6
株式会社大都 大阪市港区海岸通2-1-11	三洋紙業株式会社 足立区西伊興3-15-25	ヨネックス株式会社 文京区湯島3-23-13	株式会社ベースボール・マガジン社 千代田区三崎町3-10-10	やまとコミュニケーションズ 福岡県福岡市東区松島五丁目27番5号
株式会社テニスユニアーバス 府中市押立町2-15-18	東急建設株式会社 渋谷区渋谷1-16-14 渋谷地下鉄ビル	有限会社ハット企画 世田谷区代沢三丁目6番15号	オーイン株式会社 磯村 齊 豊島区東池袋2丁目56-7	ダイドードリンコ株式会社 大阪市北区中之島二丁目2番7号
株式会社ゴールドウイン 渋谷区松濤2-20-6	株式会社ロイヤルアーツ 目黒区青葉台2-16-11 3F	ロイヤルパークテニスクラブ 埼玉県川越市鶴井新田4-1	イラコテニスカレッジ 横浜市泉区と泉町4715番地	
有限会社藤野企画 立川市泉町935-1	日本テニス学会 杉並区永福1-9-1	ニックインドアテニスカレッジ 三重県津市高茶屋小森町2890-1	テニスショップLAFINO 千葉県浦安市当代島3-1-29	テニスファクトリー 渋谷区渋谷2-4-7

2013亞細亞大学国際オープンテニス 男子ダブルス本戦

DOUBLES
MAIN DRAW



ITF Supervisor/Referee
ガリー・アン・ヤン

Winners

Week of	City, Country			Prize Money US\$	Tourn. ID	ITF Supervisor/Referee	
2013/3/11	日本, 東京-西多摩			10000	M-FU-JPN-01A-2013	ガリー・アン・ヤン	
St.	Rank	Seed	Name	Nationality	2nd Round	Semifinals	Final
1	590	1	ハン・リヤン・チー ヤン・チュー・ファ	台湾 台湾	ハン・リヤン・チー ヤン・チュー・ファ	6-3-6-2	吉備雄也 奥大賢
2	WC		小堺遠馬 高山和也	亞細亞大学 亞細亞大学			
3			吉備雄也 奥大賢	イカイ イカイ	吉備雄也 奥大賢	4-6-6-3,10-2	
4	2320		オウ・デ・スオン ソル・ジエ・ミン	韓國 韓國	4-6-6-2,10-2		吉備雄也 奥大賢
5	852	3	近藤大生 小ノ澤新	アイシン精機 北日本物産	近藤大生 小ノ澤新	4-6,6-4,10-6	
6	WC		秋山和潤 宮脇駿	亞細亞大学 亞細亞大学	6-3-6-0	近藤大生 小ノ澤新	
7			ナ・ジョン・ウォン ナム・ヒョン・ウ	韓國 韓國	ナ・ジョン・ウォン ナム・ヒョン・ウ	7-5,7-6(9)	
8	1129		松井俊英 綿貫裕介	ライフ・エヌ・ピー ライフ・エヌ・ピー	4-6,7-6(5),10-7		
9	2464		江原弘泰 志賀正人	日清紡ホールディングス 慶應義塾大学	江原弘泰 志賀正人	6-3,6-4	 関口周一 エイドリアン・シコラ
10			小野陽平 笹井正樹	明治大学 法政大学	7-6(3),6-1		
11	1307		関口周一 エイドリアン・シコラ	三菱電機 スロバキア	関口周一 エイドリアン・シコラ	4-6,6-1,12-10	
12	1027	4	田川翔太 内山靖崇	早稲田大学 北日本物産	7-6(7),1-6,10-4		関口周一 エイドリアン・シコラ
13	WC		仲村元希 長船雅喜	亞細亞大学 亞細亞大学	リー・シン・ハン ウォン・チーフ	6-2,6-4	
14			リー・シン・ハン ウォン・チーフ	台湾 台湾	6-1,6-3	リー・シン・ハン ウォン・チーフ	
15	1612		片山翔 佐藤文平	イカイ ライフ・エヌ・ピー	片山翔 佐藤文平	6-3,7-6(3)	
16	849	2	井藤祐一 仁木拓人	ライフ・エヌ・ピー 柴沼醤油販売	2-6,6-3,10-8		

www.itftennis.com/mens

Acc. ranking	#	Seeded teams	#	Lucky Losers	Replacing	Draw date/time:	2013/3/16 11:36
Rkg Date	1	ハン・リヤン・チー ヤン・チュー・ファ	1			Last Accepted team	
Top DA	2	井藤祐一 仁木拓人	2			Player representatives	
Last DA	3	近藤大生 小ノ澤新	3			Signature	
Seed ranking	4	田川翔太 内山靖崇		# Protected Ranking: Name (Line)	ガリー・アン・ヤン		
Rkg Date			1	2			
Top seed							
Last seed							

Café Silkhhat あきる野市秋川11-13-6	焼肉むー 日の出町 042-588-5996	日本大学東北高等学校 徳島県郡山市田村町徳定字中河原1番地	栃木県テニス協会 栃木県宇都宮市駒生町1632-1	花 輪 西多摩郡日の出町平井1453-5
太公望 あきる野市秋川1丁目2-6	丸徳不動産 あきる野市引田225番地	東海大学菅生高等学校 あきる野市菅生1817	関東大学テニス部長監督会 千代田区岩本町1-4-4 神田第4パークビル5F	
あきる野不動産株式会社 あきる野市秋川3丁目6-1	特定非営利活動法人プラスアルファテニスカレッジ 埼玉県八潮市八潮7-11-14	盛龍飯店 あきる野市秋川4-12-5	全日本学生テニス連盟 千代田区岩本町1-4-4 神田第四パークビル5F	
名古屋高等学校 名古屋市東区砂田橋二丁目1-58	ハヤト商事株式会社 武藏野市境5-24-10亞細亞大学内		セブンイレブン阿伎留医療センター前 西多摩郡日の出町大字平井605	

2013亞細亞大學國際女子オープンテニス
女子シングルス本戦

**ITF women's Circuit**

Week of	St.	Rank	Seed	Family Name	First name	City, Country	Prize Money US\$	SINGLES MAIN DRAW			Tourn. ID	ITF Supervisor/Referee
								2nd Round	Quarterfinals	Semifinals		
2013/3/25	1	342	1	井上 雅	テニスラウンジ	日本, 東京-西多摩	10000		W-C10-JPN-02A-2013		KOBAYASHI Aoi	
	2	669		鮎川 真奈		橋本総業		1-6,6-3,7-5			Final	
	3	581		大西 香		/アインドアステージ			イ・ジン・ア			
	4	688		イ・ジン・ア		韓国		7-6(3),7-5				
	5	Q		リ・ヘ・ミン		韓国				イ・ジン・ア		
	6	567		久見 香奈恵		フリー		6-1,6-0		久見 香奈恵		
	7	631		トリ・キナード		アメリカ			久見 香奈恵			
	8	432	6	今西 美晴		島津製作所		7-5,6-0		今西 美晴		
	9	411	4	岡田上 千晶		エームサービス					イ・ジン・ア	
	10	Q		森友香		島津製作所		6-4,3-6,6-2		岡田上 千晶	6-3,7-6(6)	
	11	497		田中 優季		メディカルラボ			岡田上 千晶			
	12	WC		安野 聰美		亜細亞大学		6-1,6-1			岡田上 千晶	
	13	647		井上 明里		岐阜県体育協会				井上 明里	6-3,6-3	
	14	WC		伊藤 優花		亜細亞大学		6-1,6-1		井上 明里		
	15	Q		水沼茉子		法政大学			井上 明里			
	16	488	8	樋口 由佳		横浜テニスカレッジ		4-6,6-3,6-2				
	17	452	7	伊藤 和沙		島津製作所					ユ・ミ	
	18	Q		西本恵		慶應義塾大学		6-1,7-5			1-6,6-1,6-2	
	19	583		日比野 菜緒		木曾川ローンテニスクラブ			日比野 菜緒			
	20	Q		久次米夏海		山梨学院大学		6-2,6-2			日比野 菜緒	
	21	557		小城 千菜美		フリー			日比野 菜緒		7-5,6-1	
	22	Q		木下ミサ		TAI TENNIS SCHOOL		7-6(5),6-1				
	23	WC		山本 翔子		亜細亞大学			山本 翔子		6-4,6-4	
	24	399	3	ヤン・ジ		中国		6-1,6-3				
	25	420	5	二宮 真琴		西宮甲英高等学校					ユ・ミ	
	26	547		ユ・ミ		韓国		6-4,6-1			6-2,2-6,6-0	
	27	Q		牟田口恵美		橋本総業			ユ・ミ			
	28	599		宮崎 優実		ASIA PARTNERSHIP FUND		3-6,6-3,6-4				
	29	WC		伊波 佳苗		亜細亞大学			ユ・ミ			
	30	Q		ガン・ソ・ギヨン		韓国		6-4,6-1			6-1,6-1	
	31	504		秋田 史帆		橋本総業			穂積 絵莉			
	32	395	2	穂積 絵莉		フリー		7-6(4),6-3				

www.itftennis.com

Acc. ranking	#	Seeded players	#	Lucky Losers	Replacing	Draw date/time:	2013/3/28 11:53
Rkg Date	1	井上 雅	1			Last Direct Acceptance	
Top Acc	2	穂積 絵莉	2			加治遙(日本)+北川梨央(日本)	
Cut-off	3	ヤン・ジ	3			Player representatives	
Seed ranking	4	岡田上 千晶	4			伊波 佳苗	
Rkg Date	5	二宮 真琴	5			小城 千菜美	
Top seed	6	今西 美晴	6			Signature	
Last seed	7	伊藤 和沙				KOBAYASHI Aoi	
	8	樋口 由佳					
					# Protected Ranking: Name (Line)		
					1	2	



**2013亞細亞大學國際女子オープンテニス
女子ダブルス本戦**



ITF women's Circuit

Week of	City, Country			Prize Money US\$	Tourn. ID	ITF Supervisor/Referee		
2013/3/25	日本, 東京-西多摩			10000	W-C10-JPN-02A-2013	KOBAYASHI Aoi		
St.	Rank	Seed	Name	Nationality	2nd Round	Semifinals	Final	Winners
1	575	1	穂積 絵莉 二宮 真琴	フリー 西宮甲英高等学校	穂積 絵莉 二宮 真琴	6-2, 6-4	穂積 絵莉 二宮 真琴	6-0, 6-4
2	Q		鈴川真奈 牟田口恵美	橋本紗葉 橋本紗葉				
3	WC		山浦 はる香 安野 聰美	亞細亞大學 亞細亞大學	日比野 菜緒 加藤 未唯	6-2, 6-2		
4	1459		日比野 菜緒 加藤 未唯	木曾川ローンテニスクラブ バブリック宝ヶ池				
5	1018	3	伊藤 和沙 森 友香	島津製作所 島津製作所	伊藤 和沙 森 友香	6-2, 6-1		
6	WC		伊藤 優花 松本 千広	亞細亞大學 亞細亞大學				
7	1607		太田 紗苗 ヤン・ジ	N.CSP 中国	荒木 史織 中野 佑美	6-2, 6-1		
8	1654		荒木 史織 中野 佑美	たちかわジュニアテニスアカデミー たちかわジュニアテニスアカデミー	7-5, 6-2			
9	1069		イ・ジン・ア ユ・ミ	韓国 韓国	イ・ジン・ア ユ・ミ			
10	WC		伊波 佳苗 山本 翔子	亞細亞大學 亞細亞大學	6-1, 6-0			
11	1324		秋田 史帆 高山 千尋	橋本紗葉 かねます食品	チエン・イ 井上 明里	6-1, 6-0		
12	1038	4	チエン・イ 井上 明里	台湾 岐阜県体育協会	5-7, 7-6(5), 10-5			
13	LL		加治遙 北川梨央	園田学園高校 ワイルテニスアカデミー	ハン・ナレ カン・ソ・ギヨン	5-7, 7-5, 10-8		
14			ハン・ナレ カン・ソ・ギヨン		ハン・ナレ カン・ソ・ギヨン	7-6(6), 6-7(3), 10-8		
15	1138		小城千菜美 田中 優季	フリー メディカルボ	久見 香奈恵 宮崎 優実	6-3, 6-2		
16	896	2	久見 香奈恵 宮崎 優実	フリー ASIA PARTNERSHIP FUND	7-5, 6-4			

www.itftennis.com/mens

Acc. ranking	# Seeded teams	# Lucky Losers	Replacing	Draw date/time:
Rkg Date	1 穂積 絵莉	1		2013/3/25 12:12
Top DA	2 二宮 真琴	2		Last Accepted team 荒木史織(日本)×中野佑美(日本)
Last DA	3 久見 香奈恵	3		Player representatives 伊波 佳苗 小城 千菜美
Seed ranking	4 宮崎 優実			Signature Aoi Kobayashi
Rkg Date		# Protected Ranking: Name (Line)		
Top seed		1	2	
Last seed				

ご協賛いただきました皆様

以下に掲載いたしました企業、団体、個人の方々からご協賛をいただきました。皆様のご厚意にたいへん感謝しております。ありがとうございました。※敬称略させていただきました。

石川恵裕	八島裕芳	酒巻昭浩	毛塚欣治	塩野谷明	沖縄県国体テニスチーム	日の出町長 橋本聖二	内海二郎
亞細亞学園学友会	亞細亞学園体育会			岐阜県高体連テニス部			

亞細亞大学硬式庭球部OB・OG会 緑衛会テニス倶楽部

林 健作	小西正実	清水雅一	栗原 一	一牛陽一	舟川謙世	豊田昭彦	柴 廣一	宇田川裕	小西拓二	金子国彦	豊田和彌
梅島義博	鈴木元彦	神山克己	白子嘉威	兼田正道	佐藤武文	大矢茂樹	山本幸治	中村光英	岡村麻千香	清水昌子	岡本聖子
宮崎優実	木下ミサ	緑衛会テニス倶楽部									



第1回「亞細亞大学国際オープンテニス2007」

国際大会開催までの全記録

2007年3月19-25日、私たち亞細亞大学テニス部は、日本初となる大学主催の男子フューチャーズ1万ドル大会

『F1亞細亞大学国際オープンテニストーナメント』を開催しました。

準備から運営にいたるまで、すべて学生が行なった手づくりの大会の全記録がここにあります。

記事協力◎テニスマガジン(2007年6月号掲載)

2006年9月
大会まであと6ヵ月

フューチャーズを開きたい!

堀内昌一監督が学生たちに「フューチャーズを開きたい」と言い始める。学生たちはまだ半信半疑で「無理ですよ」という雰囲気だった。

2006年10月
大会まであと5ヵ月

開催決定

堀内監督が学生に「フューチャーズを開催する」と正式に伝える。さらに「すべて学生でやってもらいたい。お金の集め方から運営の仕方まで、お前たちが全部考えてイチからやってみろ」との指示が。学生たちは「え? 本当に?」という感じだったが、同時にこれはもう引き下がれないという状況になる。

川廷さんの視察

10月24日、ITF(国際テニス連盟)で世界的に活躍している川廷尚弘さんが視察に訪れる。亞細亞大の施設がフューチャーズに使用できるか、コートの幅、審判台の高さなど細かいところまでチェック。

準備や運営についての講義も受けた。徐々に大会のイメージが膨らんできて、「やるならちゃんとやろう」という空気が全体にできあがる。

2006年11月
大会まであと4ヵ月

第1回学生ミーティング

1回目のフューチャーズ・ミーティング。議題となつたのは「資金集め」。最初の構想としては、毎年つくっている庭球部パンフレットで協賛してもらっている方、日の出町(コート所在地)、地元住民のみなさんや一般企業などに、フューチャーズの主旨を理解してもらい、協力を仰ごうというもの。しかし、実際には厳しさを知り、資金集めは堀内監督、森コーチ、OB・OGが行なうことになった。学生はクリニックのスタッフとして携わることとなった。

2007年1月
大会まであと2ヵ月

強化期間開始

年が明け、東レPPOテニスのボーラーなどで忙しく、あまり準備が進まず。30日から、フューチャーズを最終目標とするテニス強化期間に入る。

2006年12月
大会まであと3ヵ月

幹部ミーティングがさかんに

4年生の幹部が監督、コーチらとセミナーハウスに泊まり込んでミーティング。役割分担の項目を決めたり、協賛していただくメーカーや企業を探したり、何度も打ち合わせを行なう。

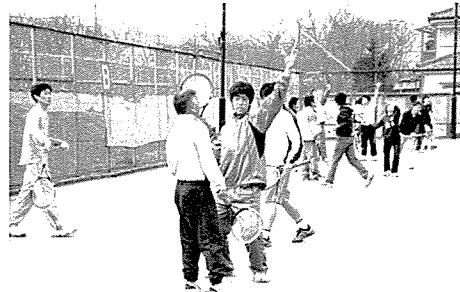


亞細亞大のセミナーハウス。フューチャーズの話し合いや準備で使用したほか、大会中は大会関係者の宿舎としても1泊3000円で貸し出した

2007年2月
大会まであと1ヵ月

本格始動

フューチャーズ開催に向けて本格的に動き始める。まずは、資金集めとフューチャーズの宣伝のため、一般の方やジュニアを対象としたクリニックを開催。1日クリニックは10~12時、13~16時でひとり5000円。1日30~40人、多いときで50人くらい集まる。このクリニックを計10回ほど開催したことで、かなり資金が集まつた。



部内WC選手権が突然の中止

2月9日からセミナーハウス(寮)にて合宿開始。ここで部内のワイルドカード(WC/主催者推薦枠)選手権を行なうはずが……「何も準備ができていないのに、予選会をやるなんてダメだ。そういうものは、全部決まってからやるべきだ」と堀内監督に言われ中止に。

国際大会について調査

森コーチと世界で行なわれている大会について話をしたとき、学生は何も答えられず、これでは国際大会の運営者として失格だと痛感。デ杯やグランドスラムなど国際大会をはじめ、選手、テニスの歴史について勉強する。



資金集めの主な方法

- ・日頃お世話になっているテニスメーカー、一般企業、団体からの協賛金
- ・学校からの補助金
- ・OB・OG会からの寄付金
- ・父兄、テニス関係者など個人からの協賛金
- ・日の出町からの協賛金
- ・サポートアーズクラブの発足(応援してくれる一般の方を募集。クリニック受講、記念Tシャツ、「つるつる温泉」入浴券、ドリンクサービスなどを付けて3000円で販売)
- ・チャリティークリニックの開催(一般クリニックは5000円、ジュニアクリニックは500円で開催。大会前、大会中合わせて10回ほど行なう)

※資金面だけでなく、地元商工会やたくさんのボランティアに支えられた

2007年3月1日

大会まであと16日

「簡単に大会に出るな。 大会をつくる苦労を知った上で、 大会に出ろ!」(堀内監督)

フェーチャーズ開催の意義

部員全員で「フェーチャーズの意義」について意見交換。運営するにも、選手として出場するにも、意義を知った上で臨んだほうが頑張れる、と思ったため。「学生はフェーチャーズに出てもすぐに負けてしまう。大会を開くことの苦労を知れば、試合にもっと執着心をもって臨めるんじゃないか」と堀内監督。なぜ監督が学生に運営を任せせるのか、その理由を皆が理解した。

私たちが考える “フェーチャーズの意義”

◎1年生の意見

- ・外国選手との交流
- ・ATPポイントの獲得
- ・プロ選手を見て勉強する
- ・多文化の理解と受け入れ
- ・選手のルーティンを学ぶ
- ・運営することでマネジメントを学ぶ

◎2年生の意見

- ・社会勉強(運営、資金集め、マネジメント)
- ・国際交流(コミュニケーション)
- ・教養を身につける
- ・国際大会を主観的に見られる
- ・地域振興
- ・大学での国際交流やスポーツ、地域振興への意欲の高さを示す
- ・国内の他のスポーツに良い影響を与える

◎3年生の意見

- ・大会ができるまでの過程を知る
- ・大会に対する思いを知る
- ・日本選手の強化
- ・運営に携わることで自分自身とテニスの関わりを見出すことができる
- ・亜細亜大学の活性化
- ・4年生の意見
- ・日本選手の強化
- ・学生テニスのレベルアップ
- ・学生の学習の場の提供
- ・国際大会数が世界ランカー数と相関関係にあるため、日本の国際大会数を増やすなければならない
- ・企業、団体、地域、マスコミなどのあらたな関わり
- ・各企業、メーカーの宣伝
- ・亜細亜大学テニス部と世界のつながりをつくる
- ・大会運営の過程を学ぶ

3月2日

大会まであと15日

役割分担

誰がどんな仕事に就くのか、係を決定(項目は下記)。それぞれが部の役職や得意分野が生かせる係に就けるように話し合う。部のログ担当はメディア係に、財務担当は賞金係に、機械関係に強い人はビデオ係に、英語が話せる人は通訳係に、など全員が能力を発揮できるように振り分け、各係でチーフを決めた。細かいところまで、考えられるすべて、全力でやろうということで意見が一致。この役割分担が、大会成功のカギだった。

係と主な仕事内容～運営の軸となる大会進行係

◎幹部

ディレクター◎堀内昌一監督

アシスタントディレクター◎

森稔詞コーチ、小野塚弓乃

スーパーバイザー◎川延尚弘(国際テニス連盟)

事務局◎宇田川裕(テニス部副部長)、

金子国彦(亜細亜大職員)

3月4日

大会まであと13日

パンフレット作成開始

もともとつくる予定はなかったが、協賛してくれた方々へのお礼、記者発表への対応を考え、急遽作成することに。「パンフレットって何だ?」というところから始まつたので、マスコミ関係者につくり方を聞きにいったり、これまでの大会パンフレットを集めたり、一気に慌ただしくなる。監督、コーチ、大学事務局と話し合いながら、掲載内容やレイアウトを決定。同時にプレスリリースやボスターもつくり始める。



◎運営係

全体への指示

◎賞金係

選手、スタッフへのギャラントリーや計算と管理。大会サポーターからの寄付金受け取り

◎会場・施設係

プレーヤーズルーム、コンピュータールーム、メディアルームの設営、学校の備品の持ち出し、管理、ドローボードの作成



選手に戦いやすい環境を提供する係

◎洗濯係

ランドリーサービス(セミナーハウスの洗濯機を使用、乾燥室用の部屋を借りて乾かす)

◎インフォメーション係

会場の地図や案内板の作成と設置、自転車の貸し出し



今後の検証材料として、選手のデータを集める係

◎アンケート係

選手へのアンケート調査(アンケート用紙を作製し、選手の実態を調査)

◎ビデオ係

本戦の全試合をビデオ撮影(販売も行なう)

◎スコアシート係

全試合のスコア記入(ワインブルドンの集計用紙と同じものを使用。確率やミスの種類まで細かくチェックし、試合後に渡す)



◎体力測定係

プロの体力測定(握力、垂直跳びなど、プロの体力や筋力を測定)



◎マニュアルづくり係

来年以降の資料として役立てるため、各役職の仕事内容などを記録

◎Tシャツ係～記念Tシャツの作成、販売

「亜細亜大学硬式庭球部」「日の出」「未来」「一球入魂」「一期一会」と描かれた5種類の大会記念Tシャツを販売。文字は監督のお母さん(習字の先生)に描いてもらい、「テニスショップ「テニスファクトリー」の八田修孝さんに協力してもらって作成。一般の方たちが着ることも考えて、落ち着いたカラーにした。



◎レフェリー係

ワイルドカード選手権の運営

◎チーフアンバイア係

ボーラー、ラインズマンの配置、チェック、指導

◎物品係

マイク、パイプ椅子、メーカーのバナー、紙コップなど備品の小さい管理、ネームボードの作成



◎通訳係

外国人選手の対応、表彰式でのスピーチ通訳

◎写真係

ブログ用、記録用写真の撮影

◎電話番係

選手、関係者からの電話対応



3月12日 |

大会まであと5日

泊まり込みのホチキス止め

パンフレットの中身がやっと完成。しかし、装丁に予想以上の時間がかかる。コピー、ホチキス止めを泊まり込みで行ない、200部を作成(ハシフは大会期間中に何度か足りなくなつて、そのたび追加し、結局300部くらいつくった)。このあたりが焦りのピークだった。

3月13日 |

大会まであと4日

学生ワイルドカード選手権

関東リーグ1部校からの各4名と学生連盟からの推薦8名で、大学生だけのワイルドカード選手権が始まる。ワイルドカード予選3大会は川廷さんが不在なので、レフェリー係を中心に大会を運営する。

3月14日 |

大会まであと3日

記者発表資料が完成

できあがった大会パンフレットとプレスリリースを、庭球部パンフレットと大学パンフレットといっしょにファイルにセットし。記者発表用の資料が完成。また、学生ワイルドカードが早稲田大学の佐藤文平、吉備雄也に決定。

3月15日 |

大会まであと2日

初めての記者発表

堀内監督、小野塚AD、メディア担当・蒲谷の3名で岸記念体育馆へ。集まった新聞記者、雑誌記者、スポーツライターなどにパンフレットの入ったファイルを手渡す。堀内監督が大会開催の主旨について発表する。

初めての記者発表に緊張気味の監督

一般WC予選サインアップ

一般ワイルドカード予選のラインアップが開始。海外選手も含め、107名がサインをしにきてくれた。部員も全員がサイン。そのうち出場できるのは64名。

3月18日 |

予選2日目

ドローボード準備!

本戦ドロー抽選会の結果を受けて、ドローボードを作成。本戦1日目用のデイリーパンフレットもできあがる。



3月17日 |

予選1日目

予選開始!

役割分担でやるべきことは決めてあったが、実際に試合が始まるとわからないことだらけで慌てる。OPやドローに掲載している韓国人選手や中国人選手のアルファベット表記が見にくいうことで、漢字表記に直すことになり、選手個人に直接聞きにいく。スコアシート係は本戦から行なうということだったが、予選も準備期間として始めるに。

SUN, Peng [1]	孫 勝
OKI, Ryo	大木 良
FURUTA, Takeshi	古田 勝
CHANG, Kai-Lung	張 嘉龍
DOERNER, Scott	トーナー・スコット
TOYOTA, Selya	豊田 雪矢
KOGA, Kuniyo	小賀 公由
STIMPSON, Matthew [13]	スミプソン・マ修
GONG, Mao-Xin [2]	孔 魔新
LIN, Tzu-Yang	林子揚
KOJWA, Tatsuki	小川辰圭
ASAKURA, Makoto	朝倉 誠

3月16日 |

大会まであと1日

宿泊開始

一般ワイルドカードの予選が始まる。本戦選手がコートにやってきて、サイン＆プラクティス。この日からセミナーハウスに宿泊開始。



セミナーハウスは8人部屋。大会終了まで全員が宿泊

3月19日 |

本戦1日目

本戦スタート!

いよいよ本戦開始。専門誌をはじめ、マスコミの方々が多く集まり、プレスバスやパンフレットを渡して対応する。今日からラインズマンが入るので、朝から気合いを入れて練習。試合後、初の洗濯注文を受ける。夜中にプラクティスコート予約の電話がかかってきたり、デイリーパンフレットやブログの更新に追われたりと、慌しい雰囲気に。試合は篠川が1回戦を突破してATP1ポイントを獲得、学生として2人目のATPランカーに。



ラインズマンは毎朝、大声で練習

3月20日 |

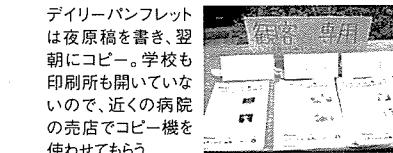
本戦2日目

杉田選手が登場!!

シングルス1R、ダブルス1Rが行なわれる。デ杯の活躍もあって注目された杉田祐一選手が勝利し、盛り上がる。



ランディーサービスは外国人選手がよく利用してくれた。最初500円だったがちょっと高いのではという話になり、300円にしたところ急に注文が増えた



デイリーパンフレットは夜原稿を書き、翌朝にコピー。学校も印刷所も聞いていないので、近くの病院の売店でコピー機を使わせてもらう

ドローボードに本戦選手の顔写真を貼ろうというアイディアが出る。多くの選手が快く協力してくれた

[JPN]
N
JS

1日のスケジュール

06:30	起床
07:00	朝食 (食べ終わったら各自コートへ)
07:30	コート集合 掃除、準備
08:30	選手が来始める、サインアップ
09:00	プラクティス
10:00	試合開始 (各係が就く。時間があつたら試合観戦。 運営に慣れてきた大会後半は夕方から練習練習練習…)
18:30	試合終了後、片付け
19:00	夕食→入浴
21:00	ミーティング (係ごとに今日の報告、反省点、意見などをチーフが発表。こうしたらいんじないかと思うことを毎日話し合う)。 ミーティング後は自由時間(自分の仕事が終わったら就寝)

3月21日
本戦3日目

祝日で大盛況

シングルス2R、ダブルス1Rが行なわれる。祝日だったので、地元の方やOBの方もたくさんきてくれた。小学生対象のクリニックも開催。また、鈴木貴男選手がきてくれたので、体力測定に参加してもらう。次週の早稲田大フューチャーズに参戦する韓国と中国のデ杯選手が練習しに来るので、どんなメニューを行なっているか調査する。



茶圓鉄也選手(左)、寺地貴弘選手(右)がアンケートに答えてくれた

3月22日
本戦4日目



折り返し地点

大会も折り返し地点。みんな気持ちに少し余裕が出てきて、細かいことにも気づくようになる。シングルスは2R、ダブルスは準決勝が行なわれる。注目の杉田選手はフルセットで惜敗。

3月23日
本戦5日目

強風が吹き荒れる

シングルスは準々決勝、ダブルスは準決勝に突入。風が強く、本部の資料が飛んでしまったり、スコアボードが倒れそうになったり……。夜のミーティングでは、明日のダブルス表彰式に向けて会議を行なう。

杉田選手にサインをもらおう



OGである岡本聖子さんが会場を訪れ、体力測定に参加してくれた



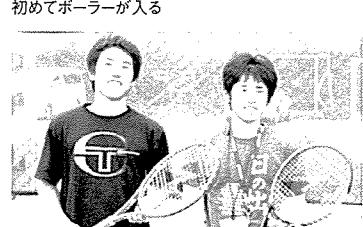
杉田選手にサインをもらう



3月24日
本戦6日目

ダブルス表彰式で感激

ダブルス決勝戦でOBの佐藤博康選手が登場。選手入場では、学生が花道をつくり、会場を盛り上げる。惜しくも準優勝だったが、「母校のフューチャーズに出られるとは思いませんでした。学生が本当にがんばってくれて、よい一週間を過ごせました。今後も継続して頑張ってください」と激励の言葉をもらった。最後に選手、スタッフ、そして観客の方もいっしょに写真撮影を行なう。



クリニッキおよびブリヂストン試打会を開催

最終ミーティング

決勝戦に向けての最終ミーティング。学生の疲れはピークに達するが、監督からは「明日、達成感を感じたとしても、それで終わりじゃない。この経験はどう生かすか、すぐに考えろ。『やりっぱなし』で終わるな!」と喝を入れられる。川延さんからは表彰式の改善点、雨天時の対処法など、細かいチェックが入る。



サプライズパーティー

ミーティング後、4年生から再び招集がかかる。何が始まるのかと思いつきや…「これまでについてきてくれてありがとう」と特大ケーキのプレゼント!

体はきつかったが、「最終日、これまでの総決算として絶対に成功させよう!」という元気が湧いてくる。



3月25日
本戦最終日

初代チャンピオンに林(イム)選手

最終日の朝は土砂降りの雨。午前中に止んで、素早くコート整備を行なうも、またすぐに降り出すというアンラッキーな事態に。しかし、雨天時の対処法は前日に確認できていたので、みんな慌てず臨機応変に対応。こうして14時に決勝が開始し、韓国のイム選手がベテラン茶園選手をフルセットで下して優勝した。表彰式は昨日の反省を生かしてスムーズに進む。



新聞紙やタオルも使い、大急ぎで乾かす



記念すべき初代チャンピオンは韓国のイム選手(左)、右は準優勝の茶園選手



雨だったにもかかわらず、多くの観客が集まつた

感動のフィナーレ

表彰式後、花道をつくり選手を送り出す。すると、学生から「監督も通ってください」との声が。コートの隅でひとり号泣していた監督を、学生が引っこ抜き出し、拍手喝采の花道を通す。「学生たちが日に日に成長していくんだよ。みんなエキサイティングして一生懸命やっている姿がうれしくて。こいつら、すごいな。本当にやってくれたんだなと思ったら…感動しちゃったよ」(監督)。



「世界の壁は厚い。
でもそれを破っていくことが大事だ。
そのエネルギーを感じたんだから、
やるしかないだろう」(堀内監督)

大会を終えて



ディレクター○堀内昌一監督
「通過させる大会にしていきたい」

皆でやり遂げようという不思議な力が働きましたね。ひとりひとりは未熟ですが、それが一つになって大きな力を発揮した。その点は本当に満足しています。

大会の意義として、第一に若手の育成があります。そのための機会——戦う機会、見る機会、学習する機会を学生に与えることができました。世界って何だ、テニスって何だ、僕らがやっていることは何だ、と疑問に思い、気づききっかけづくりにはなったと思います。

ただ、大会を立ち上げたことで海外にいかないきっかけをつくったこともまた、事実です。だから、今回戦った選手は来年、戻ってきてほしいです。ステップアップの場として、通過してほしいんです。ここで戦った選手が、グランドスラムに出ていたときが、大会の成功と言えると思います。

そして、今回サインしたのに残念ながら出られなかった選手のためにも、続けていかなければ、と思いました。こういう機会をいつまでも提供していくといつまでもね。そして、僕らができたんだから、ほかの大学にもきっとできる。これからは大学が主となり、学生が世界を目指せる環境を整えていかなければ、と強く思います。最後に、応援してくれたすべての関係者に感謝します。



アシスタントディレクター○森 稔詞コーチ
『機会をつくる』が実践できた

正直、かなりたいへんでした。でも、本当にやってよかった。『機会をつくる』というのが大会のテーマだったのですが、いろいろな意味で、学生にも選手にも機会を与えることができたと思います。学生はいっぱいいっぱいになりながらも、最後までやりきりました。

途中から、ひとりひとりの力がぶわーっと出てくるを感じたんです。この力はすごかった。指示したのは僕らですが、それを膨らませて、実際にやったのは彼らです。今回、運営の全体像が僕ら指導者も学生もわかったので、これを来年につなげていかなければと思います。



アシスタントディレクター○小野塚弓乃
「充実していたし、すごい達成感だった」

本当にたいへんなことが多かったです。普段は大会に参加する側の学生が、いちからすべてやったので、どうなるのかまったく想像がつかなかった。何が起こるか予想できない、ということが、一番たいへんでしたね。役割は事前に決めていても、当日になって急にわからないことが出てきたり、その場で対応しなければならないことも多くて。準備はしっかりやってきたけど、実際に試合が始まったり、やることが一気に増えた、という感じでした。

その分、終わったときはすごい達成感でした。毎日充実していましたし、本当にやってよかった。下級生には、これからも頑張って続けてほしいと思います。



メディア担当○蒲谷和江
「たいへんよりも楽しかった。またやりたい!」

とにかく楽しかったです。どうやってフューチャーズを成功させよう、と皆でそれだけを考えた10日間でした。初めは何もわからなくて、でも中盤になってやることが見えてきたら、アイディアもどんどん浮かびました。皆『自分たちでつくり上げよう』という文化祭みたいな雰囲気で、でも、ちゃらちゃらした感じではなく、選手のことを第一に考えていたので、気持ちよくできましたね。

最後は『ここまでやれるんだ』と自分たちでもびっくりでした。たいへんだったけど、またやりたい。次はもっとよくできると思うんです。他の大学も、やろうと思えば、きっとできると思います。でも、亞細亞だからこそできたことも、絶対あったと思いますよ(笑)



スーパーバイザー○川延尚弘
「学生がつくり上げる大会、継続してほしい」

予想よりもはるかによい大会になりました。初めての試みだったので、いろいろ指導しなければ、と思っていたのですが、全然そんなことはなかった。逆に、僕ら幹部は見ているだけで、全部学生主体で動いていました。アイディアを出し合い、「これはできますか?」と僕にすぐに聞いてくる。そのエネルギーはすごいです。ディリープログラムがおけるフューチャーズなんて、僕の知る限り世界のどこにもあるません。『継続は力なり』、ぜひ続けてほしいですね。続けていけば、地元の方もお祭りのようにとらえてくれるようになるでしょう。そうなれば、大会としてもっと成長していくと思います。

『亞細亞大学国際オープン』(男子フューチャーズ)過去の主な結果

- 第1回大会(2007年)
 - ◎シングルス
 - 優勝 イム・キュー(中国)
 - 準優勝 茶圓鉄也(ミキブルーン)
 - ベスト4 ザン・シャオユアン(中国)
 - ペノー・ボッテロ(フランス)
- ◎ダブルス

 - 優勝 ユ・シンユアン/ザン・シャオユアン(中国)
 - 準優勝 佐藤博康/リーミン(フリー/アメリカ)
 - ベスト4 ウォン・ハング・ティー/ナン・ヒュン・ウ(韓国)
 - イム・キュー(中国)/ウォン・ホーティ(韓国)

- 第2回(2008年)
 - ◎シングルス
 - 優勝 伊藤竜馬(三和ホームサービス)
 - 準優勝 チェン・ティー(台湾)
 - ベスト4 岩見亮(北日本物産)
 - 近藤大生(アイシン精機)
- ◎ダブルス

 - 優勝 近藤大生/佐藤博康(アイシン精機/フリー)
 - 準優勝 ゴング・マオシン/リーボー(中国)
 - ベスト4 ペン・シエン・イン/ヤング・チュン・ファ(台湾)
 - ベスト4 比嘉明人/篠川智大(テニスユニバース/亞細亞大学)

- 第3回(2009年)
 - ◎シングルス
 - 優勝 イ・チュハン(台湾)
 - 準優勝 杉田祐一(三菱電機)
 - ベスト4 アン・ジェソン(韓国)
 - フォーリエ・アレクサン德拉(ベルギー)
- ◎ダブルス

 - 優勝 佐藤博康/イ・チュハン(フリー/台湾)
 - 準優勝 比嘉明人/篠川智大(テニスユニバース/亞細亞大学)
 - ベスト4 ゴー・スティーブン/レーク・ジェームス(オーストラリア)
 - 茶圓鉄也/近藤大生(ミキブルーン/アイシン精機)

- 第4回(2010年)
 - ◎シングルス
 - 優勝 井藤祐一(空旅ドットコム)
 - 準優勝 守屋宏紀(北日本物産)
 - ベスト4 関口周一(アーバートジャニアTTA中央林間)
 - ベスト4 スカット・マークレック(アメリカ)
- ◎ダブルス

 - 優勝 佐藤文平/イ・チュハン(橋本総業/台湾)

- 第5回(2011年)東日本大震災のため中止
- 第6回(2012年)
 - ◎シングルス
 - 優勝 近藤大生(アイシン精機)
 - 準優勝 ハン・リヤン・チー(台湾)
 - ベスト4 松井俊英(ライフ・エヌ・ピー)
 - 内山靖崇(北日本物産)
- ◎ダブルス

 - 優勝 関口周一/エドリアン・シコラ(三菱電機/スロバキア)
 - 準優勝 吉備雄也/奥大賢(イカイ)

- 第7回(2013年)
 - 64, 66, 67ページに掲載



思

い出せば、けっこう不思議な光景だった——。

東京の西の最果、武蔵野の面影残る日の出町は土砂降りの日曜。上がった雨が、また泣き出しそうな黄昏どきだ。ジャージ姿の学生たちがコートサイドに集まり、そこから女子大生の肩を抱いた中尾彬が転がるように現れた。女子大生は泣きじゃくり、中尾も大粒の涙。学生たちは胴上げとか笑いながら、いや、泣いている者もいた……。

よく見ると、中尾彬ではなく“ホッチ”こと亞細亜大学硬式テニス部の堀内昌一監督、よく見れば、英文の横断幕がネットに揺れている。〈F1亞細亜大学国際オープンテニス2007〉——3月から展開された男子テニスのフューチャーズ5大会、その幕開け、F1亞細亜が終わったところ。監督と女子学生が涙する昭和の卒業式のような光景は、彼らにしかわからない物語だった。しかし、彼らだけの物語ではなかった。

フューチャーズは、ATPツアーもっとも下位の大会である。本戦で1勝して1ポイント、優勝すれば12ポイント獲得できる。F1亞細亜は本戦32ドローに予選は64ドロー、さらに予選のワイルドカード8本のうち4本を公開して予備予選（32ドロー）を行なっている。8勝してやっと1ポイントを手にする勘定になる。

1ポイントで念願の世界ランク1518位タイ、ざっと500人の名前が並んでいる。四大大会の予選カットは250位前後で、最低150ポイントは必要だ。ロジャー・フェデラーの7715ポイントは、なんと遙かなるアラモだろう。

「学生たちにランキングを持つチャンスを与え、学生テニスも世界と結びついでいることを再確認したい」というのがフューチャーズ主催に名乗を上げた理由だが、堀内監督の疑惑はそこだけに止まら

平成19・20年卒業生がこの石碑を部室の前に立ててくれた。F1亞細亜大学国際オープンテニス2007開催を記念して、ここに紹介したテニスマガジン掲載記事と「大学から世界へ～学生の学生による学生のための国際大会開催の地」という文字が彫られている

ない。

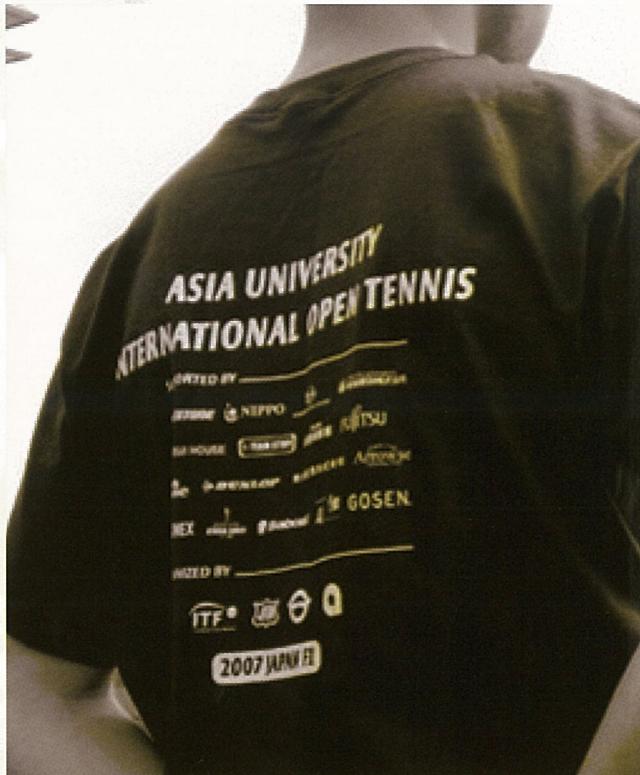
日本には、以前からこうした大会は存在した。堀内監督も日本体育大学で活躍していた80年代前半、メーカーなどが主催して春季サーキットが開かれ、ジャパンオープン（現・楽天オープン）もそうした流れから誕生している。90年代にもサテライトが開かれたものの、辛うじて鈴木貴男をグランドスラムに送り出したくらいの成果しかなかった。

フューチャーズの登場でポイントが取りやすくなるとはいえ、世界と結びつけば近隣の強敵たちも来日する。終わってみればF1亞細亜では、ベテラン茶圓鉄也の8ポイントを筆頭に近藤大生が2、ほかに6選手が1ポイント獲得し、学生は杉田祐一（早稲田大・三菱電機）と亞大的新1年生・篠川智大がゲット。

杉田は〈学生〉の対象外だから、日本選手、まして学生のポイント獲得が難しいことには変わりがないのだ。ただ、これは想定内だった。テニスはやって楽しく、見て楽しい。読んで楽しい人は少なく、運営の楽しさを知った人も多くない。F1亞細亜は日本初、川廷尚弘スーパーバイザーによればアジア初の学生の自主運営による大会だった。

学生運営の大会は、堀内監督の20年の夢だったという。早稲田大学との絡みでその機が巡ってきた。この秋、早稲田大は創立125周年を迎え、大々的に記念行事が行なわれる。杉田や卓球の福原愛の部外入学、ハンカチ王子こと齊藤祐樹投手の話題づくりとともに、早稲田大庭球部のフューチャーズ開催も記念行事活動と連動している。この動きを見て、単独では名乗りを上げられなかつた亞細亜だが、千載一遇のチャンスとばかりアプローチショットを放って、ネットに出たのである。

「僕もアメリカに留学してサテライトを回りました。大会は手づくりの素朴なものでした。これまでの日本のフューチャーズも、みなさんが一生懸命手伝って温かい大会になりましたが、それを学生にやらせたかった。人と接することでたくさんのことを学び、テニスを別の角度から見ることで、テニスがもっと面白く、好きになれるはず」



世界がやつてきた。 2007年亞細亜大学国際オープンテニス・総括

文◎武田 薫
記事提供◎テニスマガジン（2007年6月号）



自分たちのポイント獲得だけが目的ではないから、ワイルドカードの特権を他校の学生にもジュニアにも分けている。

予選には、内外から107人のプレーヤーが日の出町までサインアップにきた。55人の部員は選手全員の練習コートを手配、準備しなければならない。セミナーハウスを一泊二食付3000円で宿舎に開放し、近郊の昭島や八王子に滞在した選手の送迎の世話、洗濯の案内、自転車のレンタル、ツアープロの命綱・インターネット利用のため、大学から10台のコンピューターを借りた。画期的なデイリープログラムの作成にブログの逐次更新。国際大会だから英語表記あり……。予算は限られていたから、試合進行とこうした周辺作業すべてを、学生自らの手でこなさなければならない。

運営が学生だろうが、選手からは手厳しい注文が飛び込んでくる。

「使わなかったボールは練習で使うから、返さないよ。練習ボールと質が違う」と言い張ったのは、ニュージーランドから予選参加したアダム・トンプソン、デ杯代表でもある。

「一応プロだ。いまは親が援助してくれる。もう24歳だから精神的にきつくてね。ホテルは一泊80ドルだぜ。ニュージーランドならヒルトンホテルに泊まれる。どうしてもランキングを上げたいんだ」

健闘空しく予選落ちすれば、日本選手は恵まれているとヤケにもなる。シングルス本戦のWCをもらった大塚真之助は、1回戦敗退と同時に賞金・会計担当補佐に回っている。

「ボールの手配や水の準備、これまで当たり前に思ってきたことがけっこうたいへんで、貴重な経験でした」

あとから「何度計算しても5000円少なくて」と電話が入り、慌てたこともあつ

た。デスクの向こう側に座って初めて聞くツアープロのナマの声——間違いなく、学生たちがテニスを見る目は変わっただろう。

ダブルスで準優勝した亜細亞大OBの佐藤博康がこんな感想を話した。

「日の出町でフューチャーズをやるとは思わなかった。OBとしてうれしいし、決勝を戦えてよかった」

日の出町という地域性も、このF1亜細亞の特徴だ。

日の出町は、1983年、中曾根康弘元首相の別荘での米国ロナルド・レーガン大統領とのロンヤス会談で話題になったことがある。新宿から中央線の立川で乗り換え、拝島で単線の五日市線に移って武蔵引田駅下車——駅からの道端に野菜の無人販売所があり、テニスのプロ大会の開催地でこれほどの遠隔地はかつての八ヶ岳くらいなものだろう。だが、フューチャーズは観客ではなく選手のための大会というところがミソなのだ。雨の中を訪れた青木國太郎町長はご祝儀を手にうれしそうである。

「26年前にゴミ焼却場を誘致してから、自然とスポーツがこの町のテーマでした。モラルを尊重するスポーツは、町民平和に結びつく。まして初めての国際大会です。ますます発展することを切に願っています」

学生は近隣住民にテニスクリニックを行い、地元の人たちはうどんコーナーを切り盛りし、商工会が特産品を並べて一体感を味わっていた。

かつて、デビューしたてのアンドレ・アガシが出席したボストン郊外の大会を取り材した。夕方になるとバーベキューの煙がコートに流れ、近所の人たちがビール片手にワイワイと賑やかだった。堀内監督にはそんなイメージもあり、地元ア

ピールの場になればそれはまた別の美味しい展開になるかもしれない。

『世界は日の出を待っている』ではなく、日の出に世界がやってきた……。

大会中、寝泊りをともにした川廷スーパー・バイザーは二重丸をつけた。

「学生たちは毎晩反省会を開き、いつも交換するなど自分たちで決めてアドバイスを求めてきた。もっと教えなければいけないと思っていたんですが、いやあ、楽でした」

茶圓も「若いから、テキパキして気持ちよかったね」と拍手を送り、優勝した韓国の林奎泰はこうだ。

「学生だけで大会運営をやるなんて信じられませんよ。残念ながら、韓国の学生には真似できないな」

そんな声を聞けば、小川春男学長も、決勝戦の寒い中、朝から夕方まで付き合った甲斐があった。

「国際大会に相応しい緊張感あふれる試合でした。学生諸君も、雨の中で緊張感を維持し立派だった。いい勉強になったでしょう」

最終日は雨で試合開始が5時間も延期され、そのことも運営の経験になったと言うはたやすい。だが、すべてが初めてであり大きなリスクをともなう賭けだった。冒頭の不思議な光景、堀内監督の涙がその舞台裏を思わず物語っていた。

さて、このチャレンジは誰にでも可能だっただろうか。誰もが、いきなりアプローチショットを叩いてネットに出られるとは限らない。

テニスは大学の中だけでも日本の中だけでもない、世界を目指すことを忘れるな——堀内監督、森穂詞コーチの日常的な指導方針が下地にあることを忘れてはいけない。日の出町に出現した日本の新しいテニス風景に、期待したい。

『2007亜細亞大学国際オープンテニス』ダブルス決勝のあと、大会スタッフとして働いたテニス部員も加わり、入賞選手を囲んで記念撮影。中央にいる2ペアが優勝、準優勝ペア。右の2人が、惜しくも準優勝だった亜細亞大学OBの佐藤博康とそのパートナーの李明



亜細亜大学国際オープンテニス チャリティーテニスクリニックに ご参加ください!

あなたも
サポーター

このクリニックの収益はすべて国際大会運営費に充てられます。

よってクリニック参加のみなさまは

大会サポーターであるとともに亜細亜大学テニス部のサポーターでもあります!

“テクニカルシリーズ”開講中!

2008年にスタートした『亜細亜大学国際テニス大会～チャリティーテニスクリニック “テクニカルシリーズ”』は、これまでに年間およそ20回、2013年現在までを数えるとおよそ120回ほど開催してまいりました。

クリニック開催の目的は大きく分けて2つあります。ひとつはテニス部員と一

般プレーヤーのみなさまとの交流機会を増やしたいということ。そしてもうひとつは、このクリニックでいただく参加費を『亜細亜大学国際テニス大会』の大会運営費用に充て、みなさま方ひとりひとりに大会サポーターとなっていただき、さらには、亜細亜大学テニス部のサポーターになって、応援していただきたいという思いがあります。

クリニックの講師は、テニス部の堀内

昌一監督、森稔詞コーチ、宮崎靖雄コーチのいずれかが務め、現役部員がサポートして、各回テーマに沿っていねいな指導を心掛けています。もう一段階向上したいとお考えのテニスプレーヤーのみなさまに対して、期待に応える内容をご提供したいと思います。みなさまのご参加を心よりお待ちしております。

亜細亜大学テニス部一同

テーマは“テクニカルシリーズ”として細かく設定

例 サービス編 | レシーブ編 | ストローク編 | ボレー編 | プライベート編 など



情報およびお申し込み方法は、随時ブログに更新中!

亜細亜大学テニス部ブログ-EVER UPWARD!(意味は「限りなく向上せよ」)

<http://autennis.livedoor.biz/>

亜細亜大学国際テニス大会チャリティークリニック 参加者を代表して

鎌田健嗣さん



何度も通っても新たな“気づき”があり、テニス部のみなさんと同じコートに立って実践できる、それが続けるモチベーションとなっています。

亜細亜大学関係者のみなさま、今回は年間活動報告の中で、テニスクリニック参加者として声を掛けいただき、拙文を披露する場をいただきましたことを、この場を借りてお礼申し上げます。

私は、昨年6月23日のテニスクリニック（テーマ◎アプローチ＆ネット）に参加し、クリニック参加回数は40回目を数えました。思い起こせば、08年の初夏にボレークリニックに

に参加したのが最初でした。一昨年卒業した益田拓馬くんがまだ1年生のときにボールを出してもらい、湿気のあまりに靴の中が洪水状態になってしまったあの日から足かけ5年、クリニックに参加させていただいていることになります。

私が本クリニックに参加したのは、08年の正月に5年半の北京駐在から帰国し、日本でテニスをやる環境を探していたことがきっかけでした。ご存じのとおり海外ではハードコートばかりで砂入り人工芝コートはほとんどありません。私はハードコートで練習したいと思い、多摩地区のテニススクールを探し、その中でたまたま『フューチャーズ・チャリティクリニック』というものをWEBで見つけたのです。大学のテニスコートで練習できるとの内容にも興味を持ち、参加することになりました。オールラウンドコートと書いてあったのでてっきり人工芝かと思い靴を持っていったらハードコートだったので、うれしく思ったあの日のことをいまでも憶えています。

以来、テニス部のみなさんにいろいろ指導をしていただきましたが、私が思うに、要は「体の動きを理解して、効率的なパフォーマンスを継続してできるようになること」、これに尽きるのかなと思っています。サービスも、やっとこれかな！というものを体得できるようになりました。何度も通っても新たな“気づき”があり、それを堀内監督、森コーチ、そして学生のみなさんと共有しながら同じコートに立って実践できる、それが続けるモチベーションとなっているのです（もちろん、それに加えてフューチャーズ開催のサポートであることも…）。

最後に、学生のみなさん、テニスクリニックは社会とのコミュニケーションを勉強する場でもあります。このこともテニスをプレーすること、テニス大会を運営することと同じくらい良い機会ととらえて、日々テニスができる最高の環境を生かしながら4年間を大事に、且つ思いきり過ごしていただきたいと思っています。応援しています。



本多立雄さん



亜細亜大のテニスに対する真摯でオープンな姿勢が、日本のテニスに力強い流れを創り始めた、そう感じています。

「世界の舞台で活躍する選手を育てるには、登竜門のフューチャーズを、日本でももっと開催しなければいけない」——堀内監督の熱い思いをお聞きしながらも、日本人がグランドスラム本戦の常連になれるのはいつだろーと、日の出から遠い空を見つめたあの頃を思い出します。

『亜細亜フューチャーズ』は今年で7年目を迎え、『同・国際女子オープン』もスタートしました。第3回大会優勝の伊藤竜馬選手をはじめ、添田豪選手など、地道にフューチャー

ズに挑戦し続けてきた日本人が、今、ATPツアーブイナル戦にストレートインして上位進出を狙っています。亜細亜大で大会がスタートした06年には、夢の実現は10年先のことだろうと思っていたましたが、彼らの雄姿をグランドスラムで当たり前のようになることができる日々がやってきました。亜細亜大を起点とした大学国際大会シリーズが、日本人選手躍進の大きなきっかけとなったのはまぎれのない事実です。

私たちは、外部サポーターとして、フューチャーズの開催趣旨に賛同とともに、学生の皆さんが出場するさまざまな試合を応援しています。そして、研究や情報収集を欠かさない、堀内監督や森コーチ、宮崎コーチなどの指導陣と、現役学生のみなさんから、「トッププレイヤーにも一般にもジュニアにも共通する本物のテニス」をご指導いただいている。みなさんから、技術とともに、テニスに対する姿勢を学んでいます。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

学生のみなさんが4年間で成長していく姿を見るのも楽しみですが、強く願っているの

は、亜細亜大をはじめとする学生の中から、フューチャーズで活躍する選手、そしてチャレンジャー、ATPツアード戦う選手が出てくることです。

自分たちのテニスの実力アップ、ジュニアや一般への指導、国際大会の企画・運営、そして学生の本分である勉強・研究。さまざまなことをこなしながら、テニスの未来のため、開かれた大学テニスを実践する亜細亜大。私たちサポーターだけでなく、その姿勢に賛同する人たちが、一年中、全国から日の出に集まるようになりました。きっかけは、フューチャーズでしょう。山梨学院大や筑波大が追随したように、大学主導、さらには学連主導の形でこの大会がさらに増えていくことを願っています。そして、地方大学の選手にも積極的にフューチャーズの予選、予選に参加するように、私自身も含めて、働きかけてかなければいけないと思います。

亜細亜大のテニスに対する真摯でオープンな姿勢が、日本全体のテニスを底上げするための、力強い流れを創り始めた、そう感じています。

2014亞細亞大学国際オープンテニス

F1 Asia University International Open Tennis

大会要項 (予定)

日程

予選	2014年3月8日(土)～10日(月)※	シングルス 64名 (DA56 WC8)
本戦	2014年3月11日(火)～16日(日)※	シングルス 32名 (DA20 QF8 WC4) ダブルス 16組 (DA13 WC3)
※予選サインイン	3月7日(金) 午後6時まで	大会会場にて

賞金ブレークダウン
US \$ 10,000

	SINGLES (\$賞金・ポイント)	DOUBLES (/TEAM) (\$賞金・ポイント)
WINNER	1440 18	620 18
FINALIST	848 10	360 10
SEMI-FINALIST	502 6	216 6
QUARTER-FINALIST	292 2	128 0
ROUND OF 16	272 1	72 —
ROUND OF 32	104 0	— —

I T F W O M E N ' S C I R C U I T

2014亞細亞大学国際女子オープンテニス

Asia University International Women's Open Tennis

大会要項 (予定)

日程

予選	2014年3月22日(土)～24日(月)※	シングルス 64名 (DA56 WC8)
本戦	2014年3月25日(火)～30日(日)※	シングルス 32名 (DA20 QF8 WC4) ダブルス 16組 (DA13 WC3)
※予選サインイン	3月21日(金) 午後6時まで	大会会場にて

賞金ブレークダウン
US \$ 10,000

	SINGLES (\$賞金・ポイント)	DOUBLES (/TEAM) (\$賞金・ポイント)
WINNER	1568 12	637 12
FINALIST	980 7	343 7
SEMI-FINALIST	490 4	196 4
QUARTER-FINALIST	245 2	98 1
ROUND OF 16	196 1	49 —
ROUND OF 32	98 0	— —

ホテル	●東横イン福生駅前東口 〒197-0021 東京都福生市東町4-1 TEL042-553-1045
試合方法	●トーナメント方式(ベストオブ3セットマッチ6ゲームオール後タイブレーク採用)
参加料	●予選 US40 または4000円
会場	●亞細亞大学日の出キャンパス テニスコート(ハードコート8面) 〒190-0182 東京都西多摩郡日の出町平井1449-1 TEL042-597-7205 FAX042-597-7205

詳細は…

国際テニス連盟(ITF)

日本テニス協会(JTA)

亞細亞大学テニス部公式サイト

ブログ

<http://www.itftennis.com/procircuit/><http://www.jta-tennis.or.jp/><http://www2.asia-u.ac.jp/~autennis/><http://autennis.livedoor.biz/>

※2013年12月末現在の予定。大会開催時期は申請済みです。